

岡山市家庭ごみ組成分析調査報告書

令和 7 年 12 月

岡 山 市

目 次

第1章 調査概要	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査内容	1
1 調査対象ごみ	1
2 調査対象地域及び調査時期	1
第3節 調査手順	3
1 調査場所	3
2 作業場所	3
3 調査手順	4
(1) 調査検体の搬入	4
(2) 調査検体の縮分方法	4
(3) 事前計量作業	6
(4) 組成調査作業	6
4 組成調査項目	7
第2章 家庭ごみ組成分析調査結果	11
第1節 地域的なごみ排出特性の把握	11
1 可燃ごみの排出特性	11
(1) 本市全域	11
(2) 西部地域	16
(3) 東部地域	21
(4) 可燃ごみの排出特性の総括	26
2 不燃ごみの排出特性	29
(1) 本市全域	29
(2) 西部地域	34
(3) 東部地域	39
(4) 不燃ごみの排出特性の総括	44
3 プラスチック資源の排出特性	47
(1) 本市全域	47
(2) 西部地域	56
(3) 東部地域	65
(4) プラスチック資源組成調査結果の比較	74

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	76
1 可燃ごみの状況把握	76
2 不燃ごみの状況把握	78
3 プラスチック資源の状況把握	80
4 小型家電製品の混入状況	82
第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握	84
1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	84
2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況	86
第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討	89
1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	89
2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討	92
第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	95
1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	95
(1) 可燃ごみの1袋当たりの投入量	95
(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量	96
2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量	97
(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量	97
(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量	98
3 プラスチック資源の1袋当たりの投入量・投入容量	99
(1) プラスチック資源の1袋当たりの投入量	99
(2) プラスチック資源の1袋当たりの投入容量	100
 第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括	101
1 地域的なごみの排出特性の把握	101
2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握	101
3 容器包装廃棄物の混入状況の把握	106
4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討	106
5 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握	106
6 今後の課題	107
(参考) ごみ組成分析調査の流れ	108

調　查　概　要

第1章 調査概要

第1節 調査目的

本調査は、岡山市（以下、「本市」という。）内の家庭から排出されるごみの組成を調査することにより、資源化物がどの程度混入しているかを確認し、排出実態から見たごみの減量化・リサイクルの可能性を検討することを目的として実施している。また、調査結果の経年変化等を検証することにより、本市が実施している啓発活動の効果を確認することも目的としている。なお、本調査は、事業系ごみは調査対象外としている。また調査結果は、以下に示す項目で整理を行っている。

- ① 地域的なごみの排出特性の把握
- ② 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握
- ③ 容器包装廃棄物の混入状況の把握
- ④ 再資源化及び減量化の可能性に関する検討
- ⑤ ごみ袋1袋あたりに投入されるごみ量等の把握

第2節 調査内容

1 調査対象ごみ

本調査では、本市から排出される家庭ごみのうち「可燃ごみ」、「不燃ごみ」と令和6年3月から回収を始めた「プラスチック資源」の3種類について調査を行った。

なお、「資源化物」、「粗大ごみ」については、今回の調査対象外とした。

2 調査対象地域及び調査時期

家庭ごみの調査対象地域及び調査時期は、表1-1、図1-1に示す通りとした。

表1-1 調査対象地域及び調査時期

項目	旭川西部地域	旭川東部地域
調査対象地区	大窪地区、平田地区、津島地区	西大寺中野地区、福泊地区、御成町地区
可燃ごみ	収集日：令和7年10月7日(火) 調査日：令和7年10月7日(火) (※津島地区の収集日のみ別日程で、 令和7年10月6日(月)に実施)	収集日：令和7年10月7日(火) 調査日：令和7年10月8日(水)
不燃ごみ	収集日：令和7年10月8日(水) 調査日：令和7年10月9日(木) (※津島地区の収集日のみ別日程で、 令和7年9月17日(水)に実施)	収集日：令和7年10月8日(水) 調査日：令和7年10月9日(木) (※西大寺中野地区の収集日のみ別日程 で、令和7年10月1日(水)に実施)
プラスチック資源	収集日： 大窪地区 令和7年10月6日(月) 平田地区 令和7年10月2日(木) 津島地区 令和7年10月3日(金) 調査日：令和7年10月10日(金)	収集日：令和7年10月6日(月) 調査日：令和7年10月10日(金)

※以下、特に断らない限り西部地域とは旭川西部地域、東部地域とは旭川東部地域のことを指す。

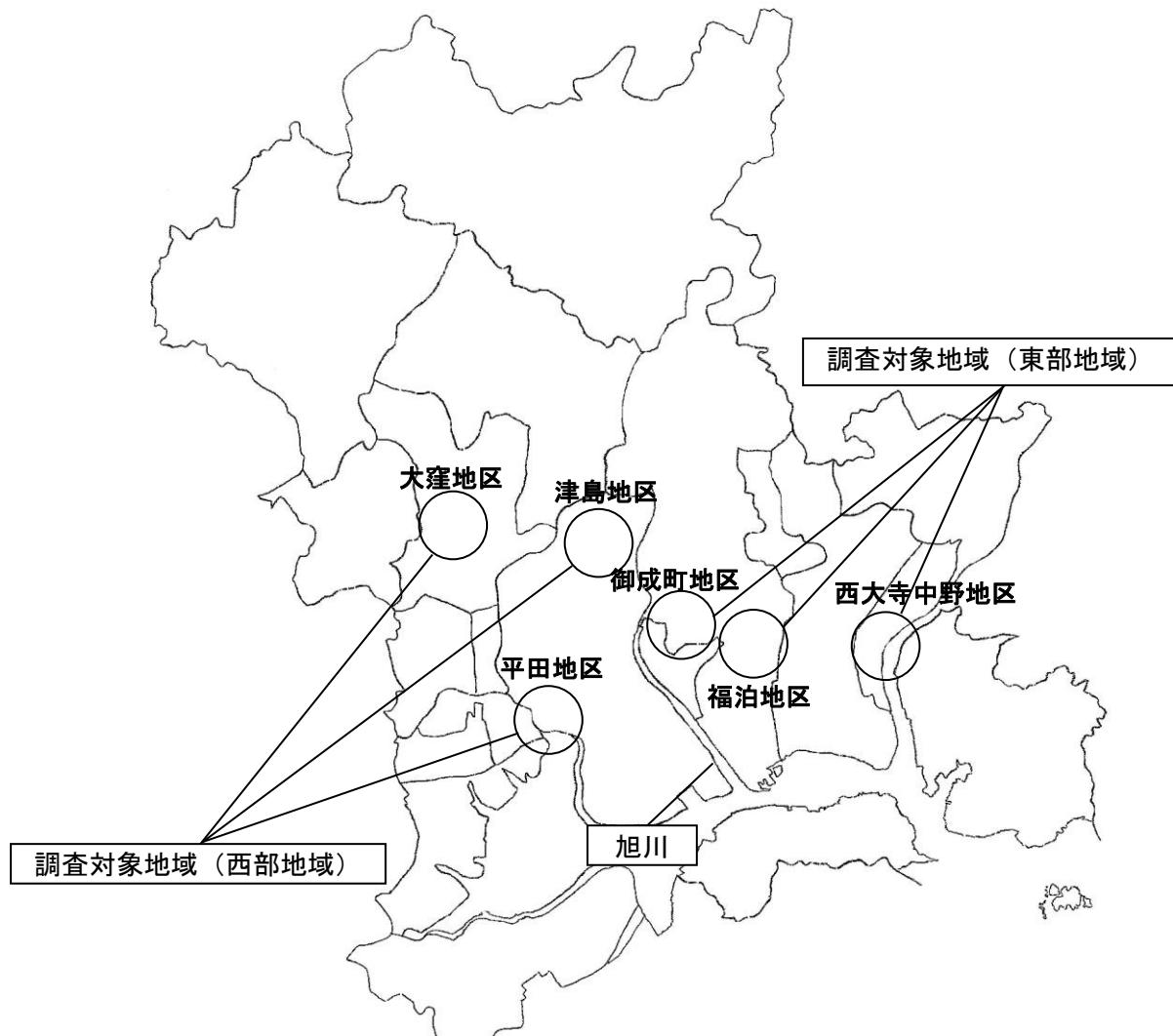


図1-1 調査対象地域

第3節 調査手順

1 調査場所

本調査は、岡山市東区浅越 625 浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）にて実施した。

調査実施場所を、図 1-2 に示す。



図1-2 調査実施場所

2 作業場所

本調査は浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）の屋外を利用して実施することとしたため、ごみの飛散や臭気対策、雨よけ、調査検体の事前保管などを目的としてテントを設営し、組成調査もテント内で実施するものとした。同時に、設営したテントの周囲はシートなどで覆い、風による転倒を防ぐ目的で各所に重りで固定した。

3 調査手順

(1) 調査検体の搬入

今回の調査も、紙類やプラスチック類の汚れの状況や、生ごみの排出状況なども調査することとしたため、パッカー車による通常の収集では、収集時にごみ袋の一部が破碎または搅拌されてしまい、調査目的の一部である汚れの状況などが分からなくなると考えられたことから、軽トラックにより調査検体の確保を行うこととした。なお、調査検体の確保に当たっては、事前に町内会等へ了解を得た地区のごみステーションに排出されたごみを、本市の職員が回収する方法を採用している。

上記のようにして得られた調査検体は、地域性の偏りを少なくするため、一旦、図 1-3 に示す場所に地域毎に搬入するものとした。

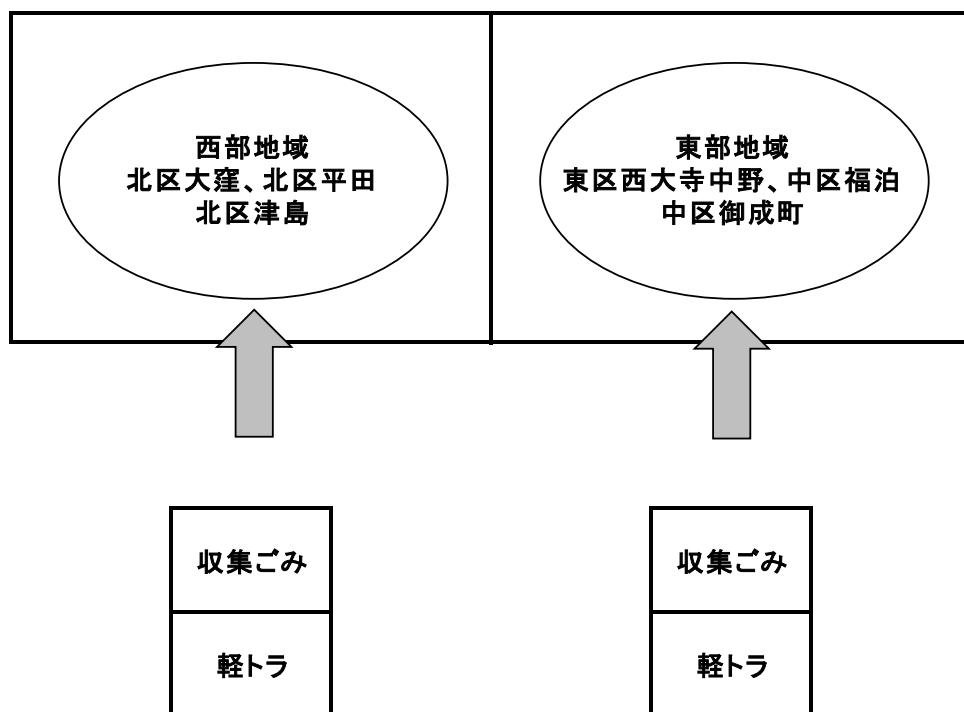


図1-3 調査検体の搬入場所

(2) 調査検体の縮分方法

一般的に調査検体の縮分¹⁾を行う場合、一旦ごみ袋からごみを出し、全てのごみを混合搅拌した後に四分法²⁾により、縮分したごみを組成調査する方法を採用するが、本調査においてこれを採用した場合、汚れの状況確認が困難となるため採用しなかった。

そこで本調査では、ごみ袋 1 袋あたりに何 kg のごみが入っているのかを確認する目的と併せて、「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」については、図 1-4 に示すような方法で、「プラスチック資源」については図 1-5 に示すような方法でそれぞれ縮分を行った。

まず、浅越スポーツパーク（旧浅越最終処分場計量所跡地）へ搬入した可燃ごみ袋及び不燃ごみ袋（150～200kg程度回収したもの）を、地区ごとに大袋（450袋）、中袋（300袋）、小袋（200袋）、特小袋（100袋）、超特小袋（50袋）の5種類に分類し、それぞれ一列に並べる。その後、すべての種類の袋について奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区分行い、各地区で約70kg程度になるようにした後（第2次抽出）、それらを合計した約210kgを最終調査検体とした。

なお、「プラスチック資源」については地区ごとに収集袋を一列に並べ、奇数の位置に並べてある袋を抽出し、これを調査サンプルとして計量を行う（第1次抽出）。

本方法を3地区行い、各地区で約10kg程度になるようにした後（第2次抽出）、それらを合計した約30kgを最終調査検体とした。本方法を採用することにより、収集地域の偏りを極力少なくしている。

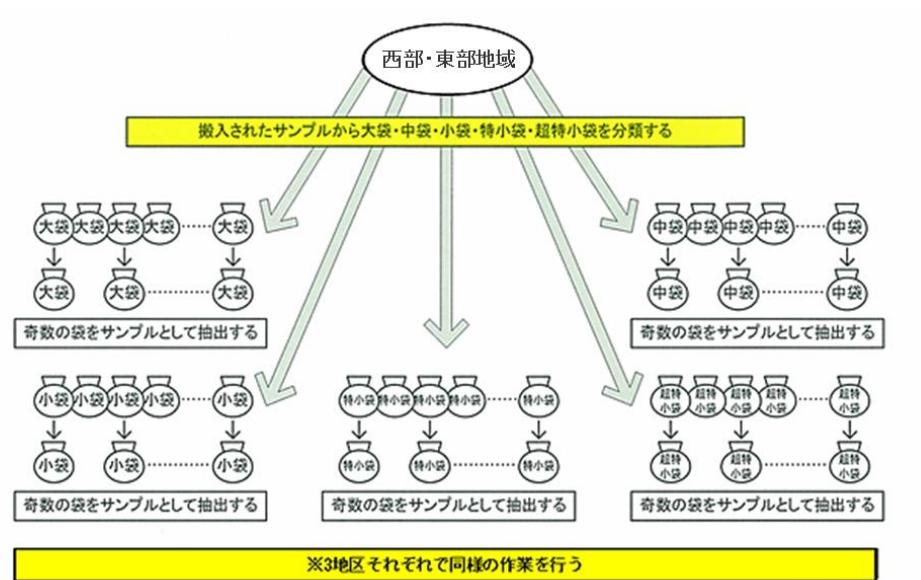


図1-4 「可燃ごみ」及び「不燃ごみ」の縮分方法のイメージ

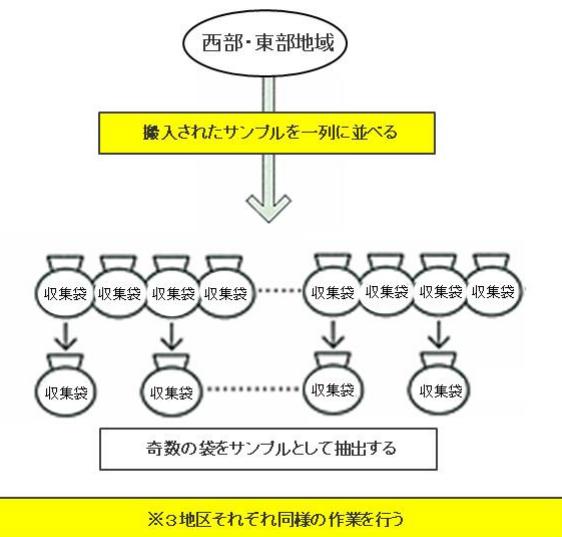


図1-5 「プラスチック資源」の縮分方法のイメージ

(3) 事前計量作業

前述した第1次抽出段階で抽出した全てのごみ袋を1袋ずつ計量し、見掛け比重³⁾やごみ袋1袋当たりの投入状況の確認を行った。

(4) 組成調査作業

本調査では、次項に示す組成調査の項目を分類し、それぞれ重量の計量と容積の確認を実施した。

1) 縮 分：多量のサンプルから全体を代表するサンプルを抽出することを示す。

2) 四分法：対象となるサンプルを十分に混合した後、4等分して対角を1組として、一方を残し、一方を捨てる操作を繰り返すことにより、均一にサンプルを抽出する方法を示す。

3) 見掛け比重：空間部分を含んだ状態の1m³当たりの物質の重量を示す。

4 組成調査項目

今回実施した組成調査の項目を表 1-2 に示す。

表1-2 組成調査項目（1）

	大分類	中分類	小分類	具体例
1	可燃物類 (紙類)	飲料用紙パック (アルミ不使用)	飲料用紙パック（アルミ不使用） 500ml以上	
2			飲料用紙パック（アルミ不使用） 500ml未満	
3		ダンボール	ダンボール	
4		新聞紙・チラシ	新聞紙	きれいな新聞紙
5			再利用した新聞紙	水分等を含んだ新聞紙
6			チラシ	きれいなチラシ
7			再利用したチラシ	水分等を含んだチラシ
8		書籍・雑誌類	書籍・雑誌類	教科書・カタログ
9		雑紙	紙箱類	キャラメルの箱・紙袋
10			紙包装類	包装紙
11			OA用紙	OA用紙
12			シュレッダーくず	シュレッダーくず
13			その他の雑紙	ダイレクトメール・手紙・はがき等
14		リサイクルできない紙	紙おむつ以外	飲料パック（アルミ使用）・汚れた紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・ティッシュペーパー・アルミはく・石鹼の箱
15			紙おむつ	
16	可燃物類 (厨芥類)	食品類	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
17			食べ残し	調理後の食べ残し
18			調理くず	可食部分 使い残した食材など
19				不可食部分 魚の骨、卵の殻など
20		食品以外	食品以外の厨芥類	ティーバッグ等
21	可燃物類 (布類)	リサイクル可能	リサイクルできる布類	Tシャツ・タオル・和服・下着・シーツ
22		リサイクル不可	リサイクルできない布類	汚れた布類・小物・わた入りのもの・毛糸
23	可燃物類 (木・竹・わら類)	剪定枝	剪定枝	
24		草	草	
25		その他	その他の木・竹・わら・花	木材・割り箸・鉛筆・わら
26	可燃物類 (ゴム・皮革類)	ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	ゴム手袋・皮製の鞄・皮靴

表1-2 組成調査項目（2）

大分類	中分類	小分類	具体例
27	可燃物類 (プラスチック類)	医療系	ビニールバッグ類・チューブ・カーテル類・注射筒等
28		ゴムを含むもの	合成樹脂製品・スリッパ・長靴など
29		有料指定袋 (収集袋)	
30		その他プラスチック類	分別回収対象外プラスチック類かつ上記以外のプラスチック製品 （使い捨てライター・ボールペン（インクの残っているもの）・マジックなど）・ビデオテープ・カセットテープ
31	可燃物類 (その他)	その他可燃物	髪の毛・爪・皮膚・かいいろ・保冷剤・乾燥剤など
32	不燃物類	金属類	スチール缶
33			スプレー缶
34			汚れたスチール缶
35			アルミ缶
36			汚れたアルミ缶
37			その他金属類
38		ガラス類	リターナブルびん
39			汚れたリターナブルびん
40			ワンウェイびん
41			汚れたワンウェイびん
42			その他ガラス類
43		その他	陶磁器類
44			小型家電製品※
45			複合素材
46			医療系
47			乾電池
48			ボタン電池
49			リチウム蓄電池
50			水銀入りの体温計・血圧計
51			蛍光灯
52	その他	その他不燃物	上記以外のもの
			可燃物ではないもの

表1-2 組成調査項目（3）

大分類	中分類	小分類	具体例
53	プラスチック類 (分別回収対象)	レジ袋	リサイクルできるレジ袋
54			リサイクルできないレジ袋
55		発泡トレイ	リサイクルできる発泡トレイ
56			リサイクルできない発泡トレイ
57		発泡スチロール	リサイクルできる発泡スチロール
58			リサイクルできない発泡スチロール
59		透明トレイ	リサイクルできる透明トレイ
60			リサイクルできない透明トレイ
61		その他のプラ製容器包装	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの
62			その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの
63		容器包装以外のプラスチック類	リサイクルできるもの
64			リサイクルできないもの
65	プラスチック類 (分別回収対象外)	ペットボトル	リサイクルできるペットボトル
66			リサイクルできないペットボトル
67	選別残渣	選別残渣	選別残渣
			回収できないものなど

※ 小型家電製品については、名称と個数を別途記録した。

家庭ごみ組成分析調査結果

第2章 家庭ごみ組成分析調査結果

第1節 地域的なごみ排出特性の把握

本節では、今回実施した家庭ごみの組成分析調査のサンプルの特徴を整理している。

なお、令和6年3月からの「プラスチック資源」分別回収の実施に伴い、本年度は一昨年度までと分類の項目が異なっている箇所がある。そのため、経年比較を行うにあたり、一部の表及び図にて「可燃物類（ゴム・皮革類）」「可燃物類（プラスチック類）」「プラスチック類（分別回収対象）」「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計を「プラスチック類・ゴム・皮革類」として示している。

1 可燃ごみの排出特性

（1）本市全域

今回実施した本市全域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-1に示した。本市全域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（31.2%）、「厨芥類」（38.9%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（16.8%）の3種類であり、全体の約86.9%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（23.4%）、「厨芥類」では調理くず（不可食部分）（23.0%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他プラ製容器包装（6.3%）の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（34.4%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」（50.7%）の2種類であり、全体の約85.1%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙（16.6%）、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装（16.8%）の構成割合が高かった。

図2-1に重量比と容積比の比較を示した。重量比では「厨芥類」の構成割合が高く、容積比では「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成割合が高いという傾向は、過去の調査結果と同様であった。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-2、図2-2～3に示した。本年度の調査結果は、重量比においては、「その他不燃物」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。容積比においては、「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加し、「紙類」、「厨芥類」の構成比が減少していた。

表2-1 組成分析調査結果1（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域（可燃ごみ）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	129.36	1.647	31.16	34.38
飲料用パック（アルミ不使用）	-	2.21	0.089	0.53	1.86
500ml 以上	1	1.86	0.076	0.45	1.59
500ml 未満	2	0.35	0.013	0.08	0.28
ダンボール	3	1.32	0.033	0.32	0.69
新聞紙・チラシ	-	11.79	0.216	2.84	4.50
新聞紙	4	1.98	0.045	0.48	0.93
再利用した新聞紙	5	3.57	0.081	0.86	1.69
チラシ	6	2.82	0.024	0.68	0.50
再利用したチラシ	7	3.42	0.066	0.82	1.38
書籍・雑誌類	8	0.83	0.004	0.20	0.08
雑紙	-	16.21	0.510	3.90	10.65
紙箱類	9	13.63	0.435	3.28	9.08
紙包装類	10	0.75	0.050	0.18	1.04
OA用紙	11	0.34	0.007	0.08	0.15
シュレッダーくず	12	0.82	0.008	0.20	0.17
その他の雑紙	13	0.68	0.010	0.16	0.21
リサイクルできない紙	-	97.02	0.795	23.37	16.59
紙おむつ以外	14	63.49	0.610	15.29	12.73
紙おむつ	15	33.53	0.185	8.08	3.86
可燃物類(厨芥類)	-	161.47	0.356	38.90	7.43
食品類	-	151.52	0.332	36.50	6.93
手付かずの食品	16	22.04	0.068	5.31	1.42
食べ残し	17	27.27	0.050	6.57	1.04
調理くず（可食部分）	18	6.94	0.024	1.67	0.50
調理くず（不可食部分）	19	95.28	0.190	22.95	3.97
食品以外	20	9.96	0.024	2.40	0.50
可燃物類(布類)	-	15.81	0.150	3.81	3.13
リサイクル可能	21	7.52	0.085	1.81	1.77
リサイクル不可	22	8.29	0.065	2.00	1.36
可燃物類(木・竹・わら類)	-	7.31	0.103	1.76	2.15
剪定枝	23				
草	24	1.85	0.019	0.44	0.40
その他	25	5.46	0.084	1.32	1.75
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	2.88	0.037	0.69	0.77
可燃物類(プラスチック類)	-	3.43	0.151	0.83	3.16
医療系	27	0.11	0.0006	0.03	0.01
ゴムを含むもの	28	0.01	0.0001	0.00	0.00
有料指定袋(収集袋)	29	3.10	0.150	0.75	3.13
その他プラスチック類	30	0.21	0.0007	0.05	0.01
可燃物類(その他)	31	18.03	0.072	4.34	1.50

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-1 組成分析調査結果2（本市全域：可燃ごみ）

項目	全域（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	3.12	0.018	0.75	0.37	0.176
金属類	-	0.96	0.012	0.23	0.24	0.082
	32					
	33	0.09	0.0004	0.02	0.01	0.230
	34	0.26	0.002	0.06	0.04	0.152
	35					
	36	0.25	0.006	0.06	0.13	0.039
ガラス類	37	0.37	0.003	0.09	0.07	0.114
	-	1.64	0.005	0.39	0.10	0.341
	38					
	39					
	40					
	41	1.55	0.005	0.37	0.10	0.330
その他	42	0.09	0.0001	0.02	0.00	0.860
	-	0.52	0.001	0.13	0.03	0.433
	43	0.13	0.0003	0.03	0.01	0.433
	44	0.13	0.0006	0.03	0.01	0.217
	45					
	46					
その他不燃物	47	0.26	0.0003	0.06	0.01	0.867
	48					
	49					
	50					
	51					
	52	7.90	0.011	1.90	0.24	0.693
プラスチック類(分別回収対象)	-	59.23	2.063	14.27	43.05	0.029
レジ袋	-	2.88	0.155	0.69	3.23	0.019
	53					
	54	2.88	0.155	0.69	3.23	0.019
発泡トレイ	-	1.59	0.251	0.38	5.23	0.006
	55	0.02	0.0008	0.00	0.02	0.025
	56	1.57	0.250	0.38	5.22	0.006
発泡スチロール	-					
	57					
	58					
透明トレイ	-	3.33	0.353	0.80	7.37	0.009
	59	0.06	0.003	0.01	0.06	0.018
	60	3.27	0.350	0.79	7.30	0.009
その他のプラスチック類	-	25.99	0.804	6.26	16.78	0.032
	61	0.03	0.004	0.01	0.08	0.008
	62	25.96	0.800	6.25	16.70	0.032
容器包装以外のプラスチック類	-	25.45	0.500	6.13	10.44	0.051
	63	0.08	0.010	0.02	0.21	0.008
	64	25.37	0.490	6.11	10.23	0.052
プラスチック類(分別回収対象外)	-	3.97	0.178	0.96	3.71	0.022
ペットボトル	-	3.97	0.178	0.96	3.71	0.022
	65					
	66	3.97	0.178	0.96	3.71	0.022
選別残渣	67	2.63	0.005	0.63	0.10	0.525
	総合計	415.12	4.791	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

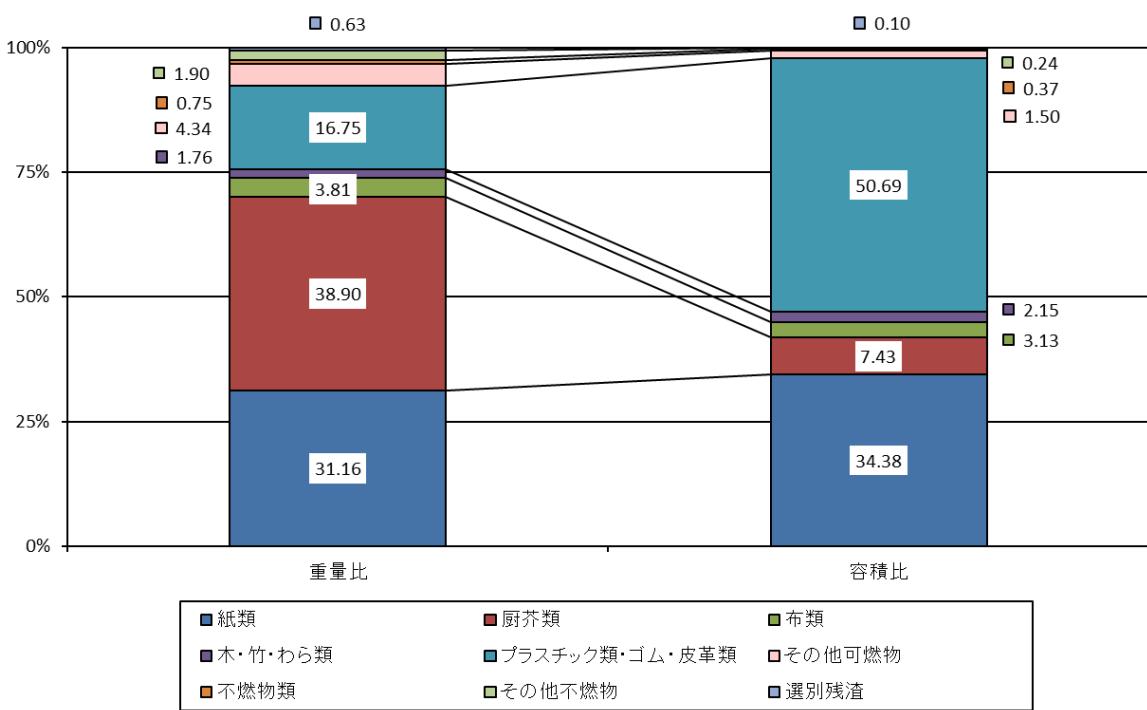


図2-1 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：可燃ごみ）

表2-2 大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

項目 分類	全域-可燃ごみ(重量比) (%)					全域-可燃ごみ(容積比) (%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	32.28	30.91	32.46	31.54	31.16	26.50	33.79	31.41	36.77	34.38
厨芥類	33.67	34.92	32.57	42.62	38.90	6.41	6.40	6.13	8.46	7.43
布類	4.05	6.30	5.89	2.88	3.81	2.60	4.04	4.62	1.98	3.13
木・竹・わら類	3.46	2.18	1.60	1.80	1.76	3.49	1.79	1.25	1.84	2.15
プラスチック類・ゴム・皮革類	22.20	20.66	22.18	17.11	16.75	59.05	52.44	54.68	49.60	50.69
その他可燃物	0.41	1.14	2.87	3.18	4.34	0.22	0.42	0.88	1.01	1.50
不燃物類	1.07	0.52	1.87	0.77	0.75	1.02	0.14	0.95	0.31	0.37
その他不燃物	0.00	0.00	0.55	0.09	1.90	0.00	0.00	0.08	0.03	0.24
選別残渣	2.86	3.37	0.01	0.01	0.63	0.71	0.98	0.00	0.00	0.10
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

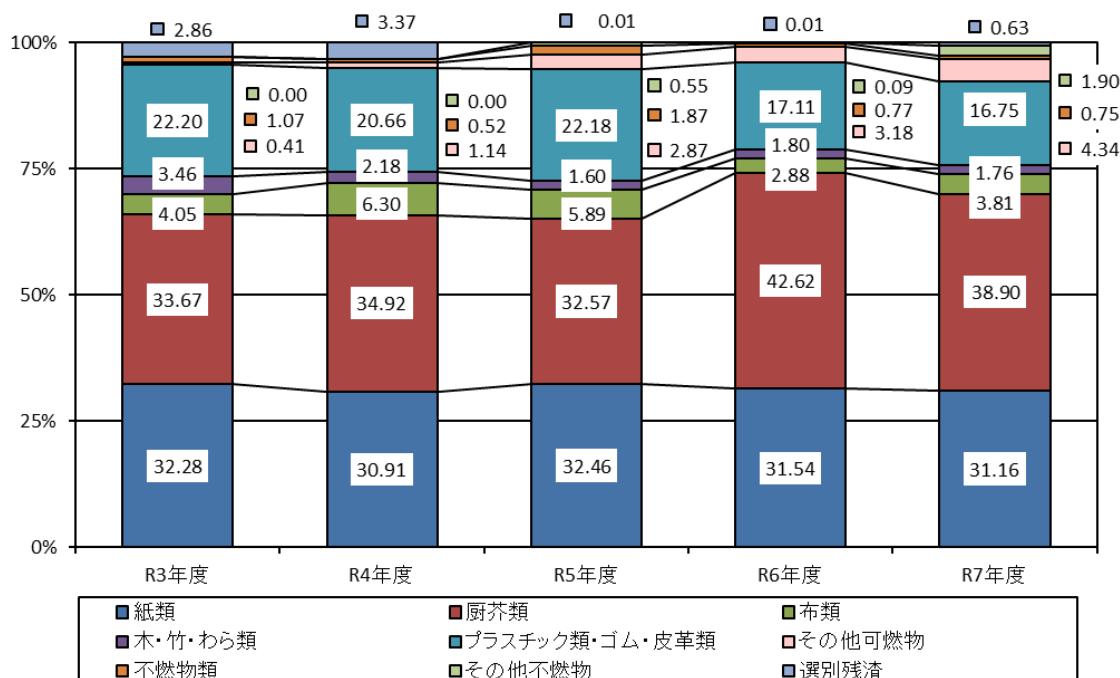


図2-2 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

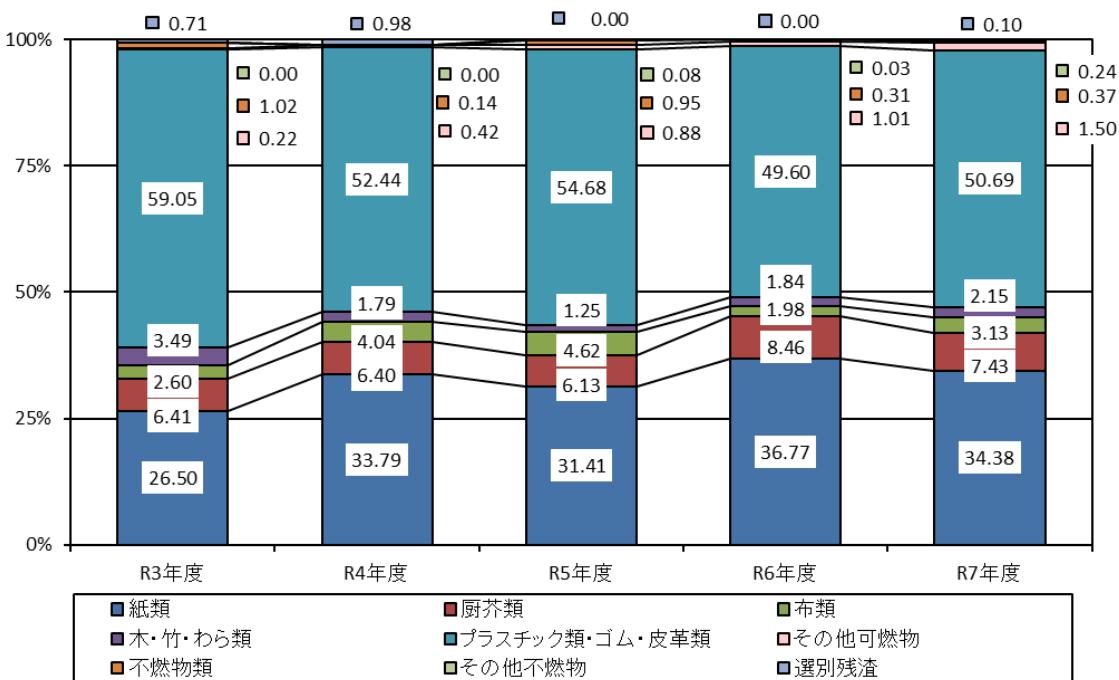


図2-3 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：可燃ごみ）

（2）西部地域

今回実施した西部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-3に示した。西部地域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(33.6%)、「厨芥類」(36.0%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(18.1%)の3種類であり、全体の約87.7%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(25.2%)、「厨芥類」では調理くず(不可食部分)(23.5%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(6.8%)の構成割合が高かった。

次に、西部地域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(35.4%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(51.6%)の2種類であり、全体の約87.0%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(16.3%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(18.0%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図2-4参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-4、図2-5～6に示した。本年度の調査結果は、重量比においては、「その他可燃物」、「紙類」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。容積比においては「プラスチック類・ゴム・皮革類」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「厨芥類」、「布類」の構成比が減少していた。

表2-3 組成分析調査結果1（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部（可燃ごみ）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	69.64	0.934	33.59	35.39
飲料用パック（アルミ不使用）	-	1.36	0.063	0.65	2.39
500ml 以上	1	1.23	0.057	0.59	2.16
500ml 未満	2	0.13	0.006	0.06	0.23
ダンボール	3	1.17	0.032	0.56	1.21
新聞紙・チラシ	-	4.84	0.109	2.33	4.13
新聞紙	4	0.63	0.036	0.30	1.36
再利用した新聞紙	5	1.02	0.019	0.49	0.72
チラシ	6	1.29	0.015	0.62	0.57
再利用したチラシ	7	1.91	0.039	0.92	1.48
書籍・雑誌類	8	0.83	0.004	0.40	0.15
雑紙	-	9.24	0.296	4.45	11.20
紙箱類	9	8.22	0.250	3.96	9.48
紙包装類	10	0.61	0.039	0.29	1.48
OA用紙	11	0.03	0.002	0.01	0.08
シュレッダーくず	12				
その他の雑紙	13	0.38	0.005	0.18	0.17
リサイクルできない紙	-	52.22	0.430	25.19	16.30
紙おむつ以外	14	32.28	0.310	15.57	11.75
紙おむつ	15	19.94	0.120	9.62	4.55
可燃物類(厨芥類)	-	74.55	0.172	35.96	6.52
食品類	-	68.74	0.159	33.16	6.03
手付かずの食品	16	7.76	0.028	3.74	1.06
食べ残し	17	9.80	0.022	4.73	0.83
調理くず（可食部分）	18	2.47	0.009	1.19	0.34
調理くず（不可食部分）	19	48.72	0.100	23.50	3.79
食品以外	20	5.81	0.013	2.80	0.49
可燃物類(布類)	-	5.50	0.043	2.65	1.63
リサイクル可能	21	0.58	0.006	0.28	0.23
リサイクル不可	22	4.93	0.037	2.38	1.40
可燃物類(木・竹・わら類)	-	4.43	0.070	2.14	2.65
剪定枝	23				
草	24				
その他	25	4.43	0.070	2.14	2.65
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.87	0.027	0.90	1.02
可燃物類(プラスチック類)	-	2.01	0.076	0.97	2.89
医療系	27	0.11	0.0006	0.05	0.02
ゴムを含むもの	28	0.01	0.0001	0.00	0.00
有料指定袋(収集袋)	29	1.70	0.075	0.82	2.84
その他プラスチック類	30	0.19	0.0006	0.09	0.02
可燃物類(その他)	31	10.89	0.048	5.25	1.82

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-3 組成分析調査結果2（西部地域：可燃ごみ）

項目	西部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	0.82	0.004	0.39	0.16	0.195
金属類	-	0.42	0.004	0.20	0.13	0.121
	32					
	33					
	34	0.09	0.0005	0.04	0.02	0.180
	35					
	36	0.05	0.0004	0.03	0.02	0.130
ガラス類	37	0.28	0.003	0.14	0.10	0.108
	-	0.34	0.0005	0.16	0.02	0.670
	38					
	39					
	40					
	41	0.34	0.0005	0.16	0.02	0.670
その他	42					
	-	0.06	0.0002	0.03	0.01	0.300
	43					
	44	0.03	0.0001	0.01	0.00	0.300
	45					
	46					
その他不燃物	47	0.03	0.0001	0.01	0.00	0.300
	48					
	49					
	50					
	51					
	52	3.91	0.006	1.88	0.24	0.620
プラスチック類（分別回収対象）	-	32.09	1.183	15.48	44.84	0.027
レジ袋	-	1.37	0.075	0.66	2.84	0.018
	53					
リサイクルできるレジ袋	54	1.37	0.075	0.66	2.84	0.018
	-					
発泡トレイ	-	0.93	0.146	0.45	5.53	0.006
	55	0.02	0.0008	0.01	0.03	0.025
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.91	0.145	0.44	5.50	0.006
	-					
発泡スチロール	-					
	57					
リサイクルできる発泡スチロール	58					
	-					
透明トレイ	-	1.88	0.203	0.90	7.70	0.009
	59	0.06	0.003	0.03	0.11	0.018
リサイクルできない透明トレイ	60	1.82	0.200	0.88	7.58	0.009
	-					
その他のプラスチック容器包装	-	14.15	0.474	6.83	17.97	0.030
	61	0.03	0.004	0.01	0.15	0.008
その他のプラスチック容器包装でリサイクルできないもの	62	14.12	0.470	6.81	17.82	0.030
	-					
容器包装以外のプラスチック類	-	13.77	0.285	6.64	10.80	0.048
	63	0.08	0.010	0.04	0.38	0.008
リサイクルできるもの	64	13.69	0.275	6.60	10.42	0.050
	-					
プラスチック類（分別回収対象外）	-	1.62	0.075	0.78	2.84	0.022
ペットボトル	-	1.62	0.075	0.78	2.84	0.022
	65					
リサイクルできるペットボトル	66	1.62	0.075	0.78	2.84	0.022
	-					
選別残渣	67					
総合計		207.31	2.638	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

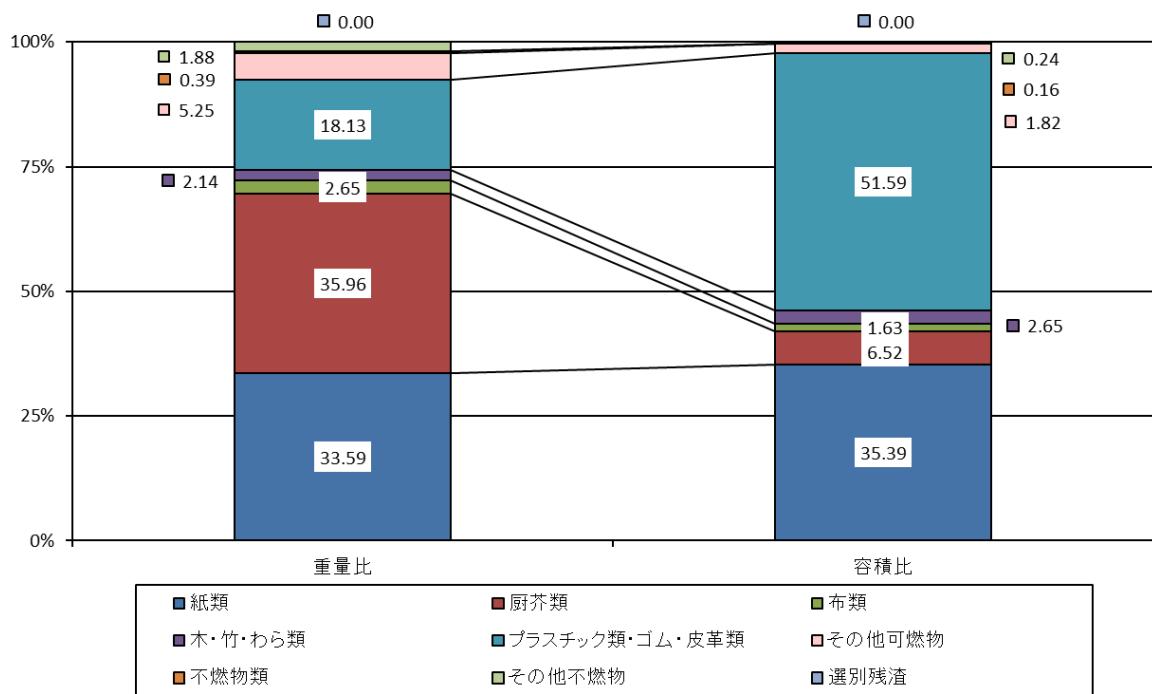


図2-4 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：可燃ごみ）

表2-4 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

項目 分類	西部-可燃ごみ(重量比)(%)					西部-可燃ごみ(容積比)(%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	29.71	31.70	29.26	31.62	33.59	25.11	32.20	29.56	36.28	35.39
厨芥類	34.44	33.18	33.11	41.37	35.96	6.04	6.41	6.39	8.00	6.52
布類	3.90	7.09	7.86	3.20	2.65	2.68	3.94	4.97	2.86	1.63
木・竹・わら類	4.08	2.10	1.31	1.96	2.14	4.38	1.38	1.02	2.03	2.65
プラスチック類・ゴム・皮革類	24.36	19.02	24.12	18.86	18.13	60.12	53.88	57.07	49.65	51.59
その他可燃物	0.45	1.25	1.91	2.34	5.25	0.17	0.46	0.54	0.95	1.82
不燃物類	0.88	0.43	1.32	0.48	0.39	0.78	0.19	0.30	0.17	0.16
その他不燃物	0.00	0.00	1.09	0.17	1.88	0.00	0.00	0.15	0.06	0.24
選別残渣	2.18	5.23	0.02	0.00	0.00	0.72	1.54	0.01	0.00	0.00
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

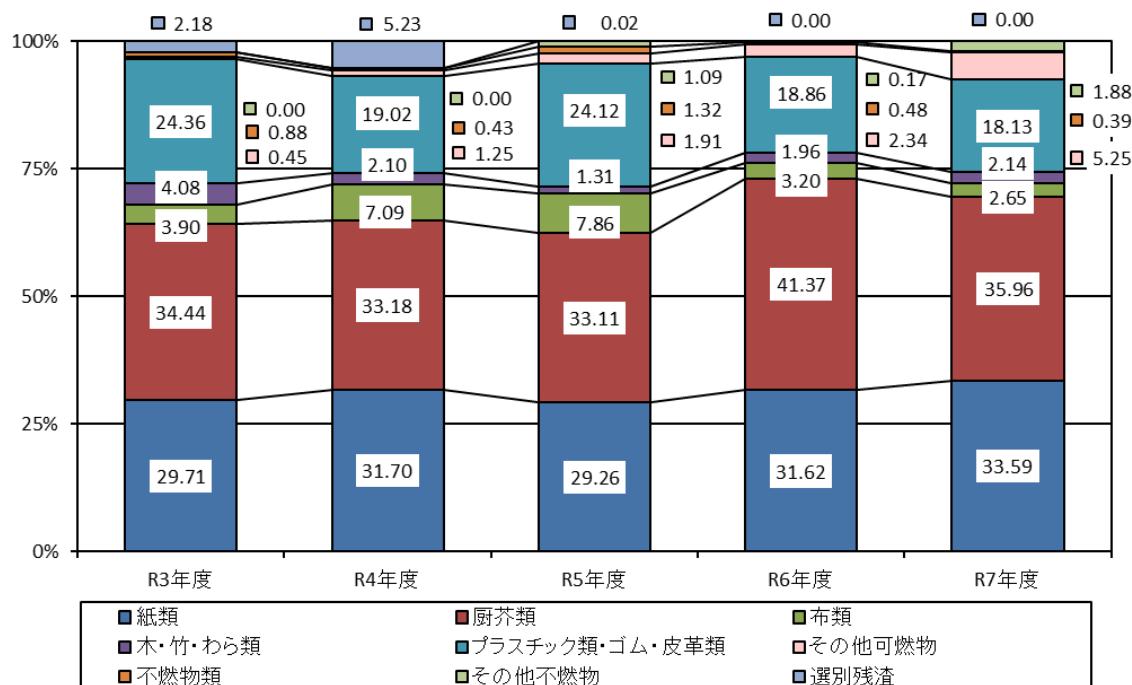


図2-5 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

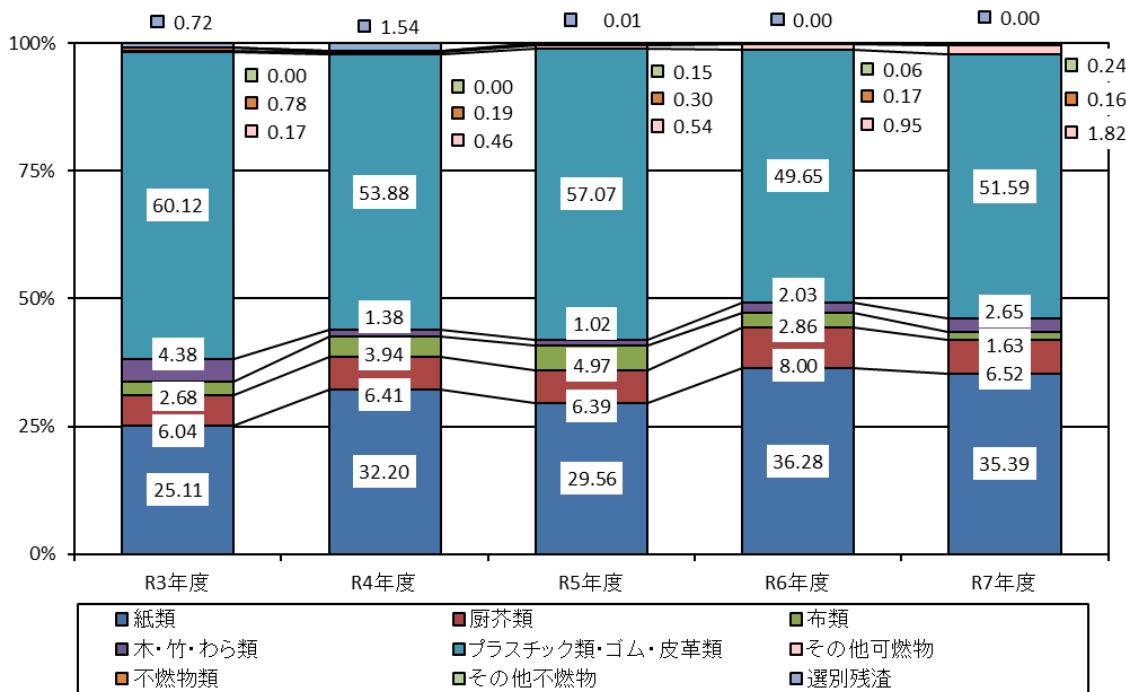


図2-6 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：可燃ごみ）

(3) 東部地域

今回実施した東部地域の可燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-5に示した。東部地域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(28.7%)、「厨芥類」(41.8%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(15.4%)の3種類であり、全体の約85.9%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(21.6%)、「厨芥類」では調理くず(不可食部分)(22.4%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(5.7%)の構成割合が高かった。

次に、東部地域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」(33.2%)、「プラスチック類・ゴム・皮革類」(49.6%)の2種類であり、全体の約82.8%を占めていた。個別にみると「紙類」ではリサイクルできない紙(17.0%)が、「プラスチック類・ゴム・皮革類」ではその他のプラ製容器包装(15.3%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図2-7参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-6及び図2-8～9に示した。本年度の調査結果は、重量比においては「布類」、「その他不燃物」の構成比が増加し、「紙類」、「厨芥類」の構成比が減少していた。容積比においては「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加し、「紙類」の構成比が減少していた。

表 2-5 組成分析調査結果 1 (東部地域 : 可燃ごみ)

項目	東部 (可燃ごみ)					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	59.72	0.714	28.74	33.15	0.084
飲料用パック (アルミ不使用)	-	0.85	0.026	0.41	1.22	0.032
500ml 以上	1	0.63	0.019	0.30	0.88	0.033
500ml 未満	2	0.22	0.007	0.11	0.34	0.030
ダンボール	3	0.15	0.001	0.07	0.06	0.124
新聞紙・チラシ	-	6.95	0.107	3.34	4.95	0.065
新聞紙	4	1.35	0.009	0.65	0.39	0.159
再利用した新聞紙	5	2.55	0.062	1.23	2.88	0.041
チラシ	6	1.54	0.009	0.74	0.42	0.171
再利用したチラシ	7	1.52	0.027	0.73	1.25	0.056
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	6.97	0.215	3.35	9.97	0.032
紙箱類	9	5.41	0.185	2.60	8.59	0.029
紙包装類	10	0.14	0.011	0.07	0.51	0.012
OA用紙	11	0.31	0.005	0.15	0.24	0.060
シュレッダーくず	12	0.82	0.008	0.39	0.37	0.103
その他の雑紙	13	0.30	0.006	0.14	0.26	0.053
リサイクルできない紙	-	44.80	0.365	21.56	16.95	0.123
紙おむつ以外	14	31.21	0.300	15.02	13.93	0.104
紙おむつ	15	13.59	0.065	6.54	3.02	0.209
可燃物類(厨芥類)	-	86.93	0.184	41.83	8.54	0.472
食品類	-	82.78	0.173	39.83	8.03	0.478
手付かずの食品	16	14.28	0.040	6.87	1.86	0.357
食べ残し	17	17.47	0.028	8.40	1.30	0.624
調理くず(可食部分)	18	4.48	0.015	2.15	0.70	0.298
調理くず(不可食部分)	19	46.56	0.090	22.41	4.18	0.517
食品以外	20	4.15	0.011	2.00	0.51	0.377
可燃物類(布類)	-	10.31	0.107	4.96	4.97	0.096
リサイクル可能	21	6.95	0.079	3.34	3.67	0.088
リサイクル不可	22	3.37	0.028	1.62	1.30	0.120
可燃物類(木・竹・わら類)	-	2.88	0.033	1.38	1.53	0.087
剪定枝	23					
草	24	1.85	0.019	0.89	0.88	0.097
その他	25	1.03	0.014	0.50	0.65	0.074
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.01	0.010	0.48	0.46	0.101
可燃物類(プラスチック類)	-	1.43	0.075	0.69	3.49	0.019
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋(収集袋)	29	1.41	0.075	0.68	3.48	0.019
その他プラスチック類	30	0.02	0.0001	0.01	0.00	0.200
可燃物類(その他)	31	7.15	0.024	3.44	1.11	0.298

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-5 組成分析調査結果2（東部地域：可燃ごみ）

項目	東部（可燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	2.30	0.014	1.11	0.63	0.171
金属類	-	0.54	0.008	0.26	0.38	0.066
	32					
	33	0.09	0.0004	0.04	0.02	0.230
	34	0.17	0.001	0.08	0.06	0.141
	35					
	36	0.20	0.006	0.09	0.28	0.033
ガラス類	37	0.09	0.0006	0.04	0.03	0.143
	-	1.30	0.004	0.63	0.20	0.303
	38					
	39					
	40					
	41	1.22	0.004	0.58	0.20	0.289
その他	42	0.09	0.0001	0.04	0.005	0.860
	-	0.46	0.001	0.22	0.05	0.460
	43	0.13	0.0003	0.06	0.01	0.433
	44	0.10	0.0005	0.05	0.02	0.200
	45					
	46					
その他不燃物	47	0.23	0.0002	0.11	0.01	1.150
	48					
	49					
	50					
	51					
	52	3.99	0.005	1.92	0.24	0.782
プラスチック類（分別回収対象）	-	27.14	0.880	13.06	40.86	0.031
レジ袋	-	1.51	0.080	0.73	3.71	0.019
	53					
発泡トレイ	54	1.51	0.080	0.73	3.71	0.019
	-	0.66	0.105	0.32	4.88	0.006
発泡スチロール	55					
	56	0.66	0.105	0.32	4.88	0.006
透明トレイ	-					
	57					
その他のプラスチック容器包装	58					
	-	1.45	0.150	0.70	6.97	0.010
リサイクルできる透明トレイ	59					
	60	1.45	0.150	0.70	6.97	0.010
その他のプラスチック容器包装	-	11.84	0.330	5.70	15.32	0.036
	61					
リサイクルできない透明トレイ	62	11.84	0.330	5.70	15.32	0.036
	-					
容器包装以外のプラスチック類	63	11.68	0.215	5.62	9.98	0.054
	64	11.68	0.215	5.62	9.98	0.054
プラスチック類（分別回収対象外）	-	2.35	0.103	1.13	4.78	0.023
ペットボトル	-	2.35	0.103	1.13	4.78	0.023
	65					
リサイクルできるペットボトル	66	2.35	0.103	1.13	4.78	0.023
	-					
選別残渣	67	2.63	0.005	1.26	0.23	0.525
	総合計	207.81	2.154	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

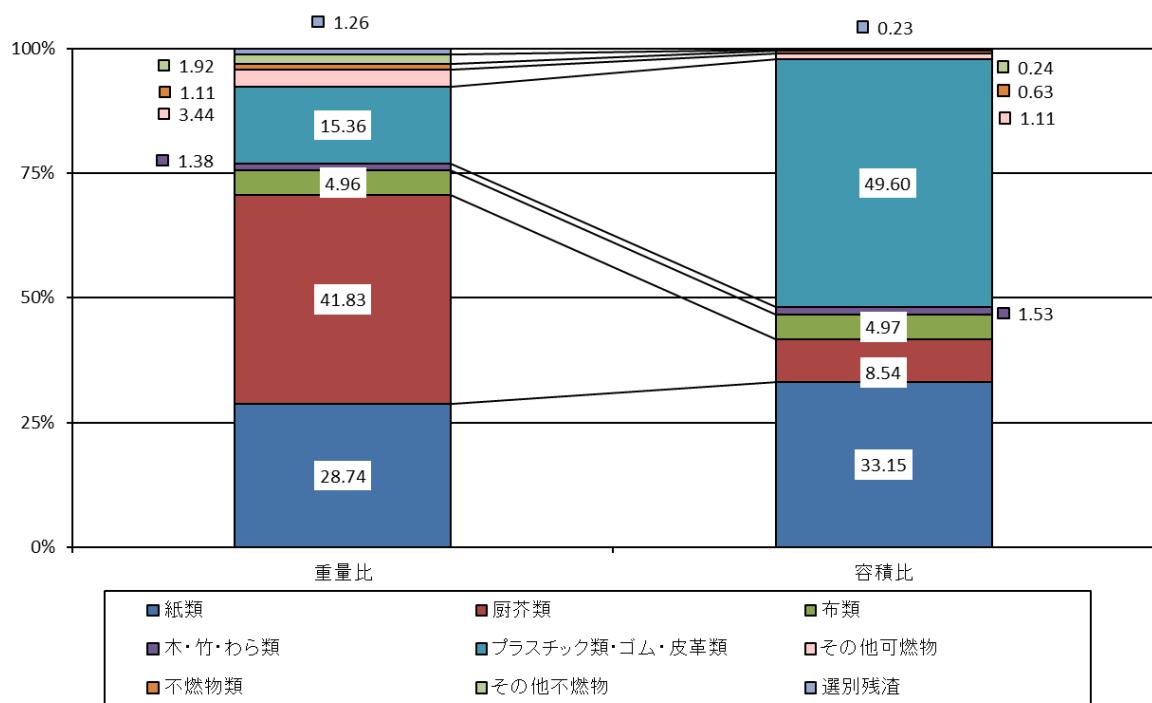


図2-7 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：可燃ごみ）

表2-6 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

項目 分類	東部-可燃ごみ(重量比) (%)					東部-可燃ごみ(容積比) (%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	34.87	30.01	35.64	31.45	28.74	28.11	35.63	33.40	38.04	33.15
厨芥類	32.89	36.92	32.03	43.89	41.83	6.83	6.39	5.84	9.11	8.54
布類	4.21	5.40	3.93	2.55	4.96	2.50	4.16	4.24	1.11	4.97
木・竹・わら類	2.83	2.26	1.88	1.64	1.38	2.46	2.27	1.50	1.68	1.53
プラスチック類・ゴム・皮革類	20.03	22.53	20.24	15.36	15.36	57.82	50.76	52.11	48.49	49.60
その他可燃物	0.37	1.01	3.83	4.01	3.44	0.28	0.38	1.24	1.11	1.11
不燃物類	1.25	0.62	2.43	1.07	1.11	1.30	0.09	1.66	0.46	0.63
その他不燃物	0.00	0.00	0.02	0.00	1.92	0.00	0.00	0.01	0.00	0.24
選別残渣	3.55	1.25	0.00	0.03	1.26	0.70	0.32	0.00	0.00	0.23
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

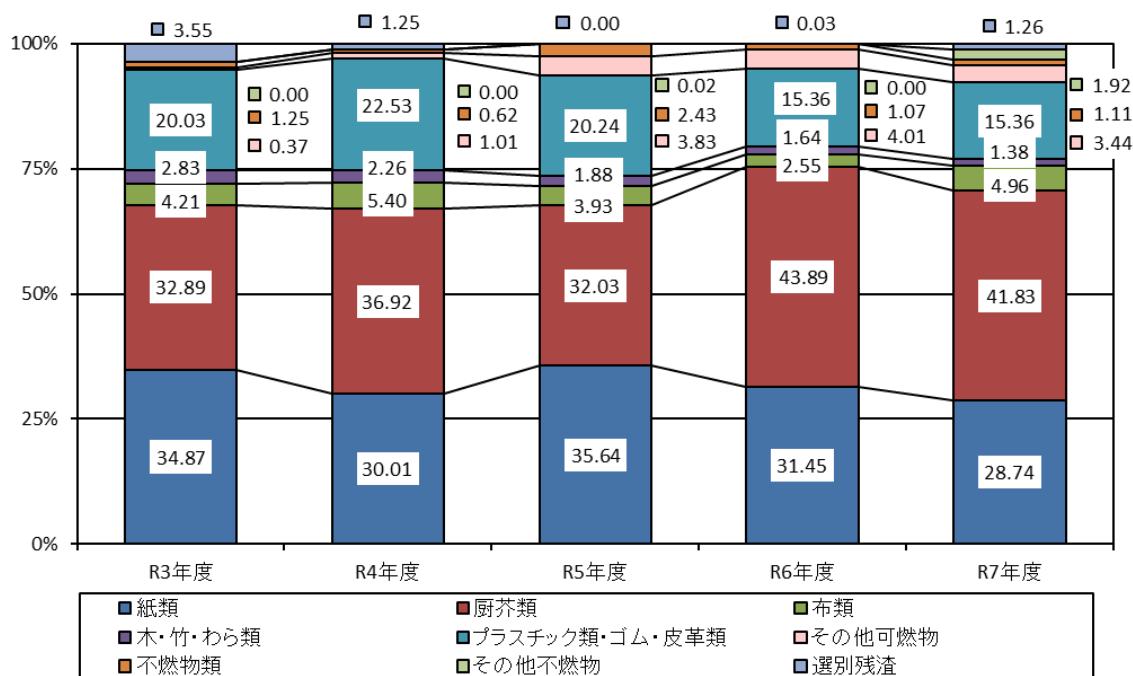


図2-8 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

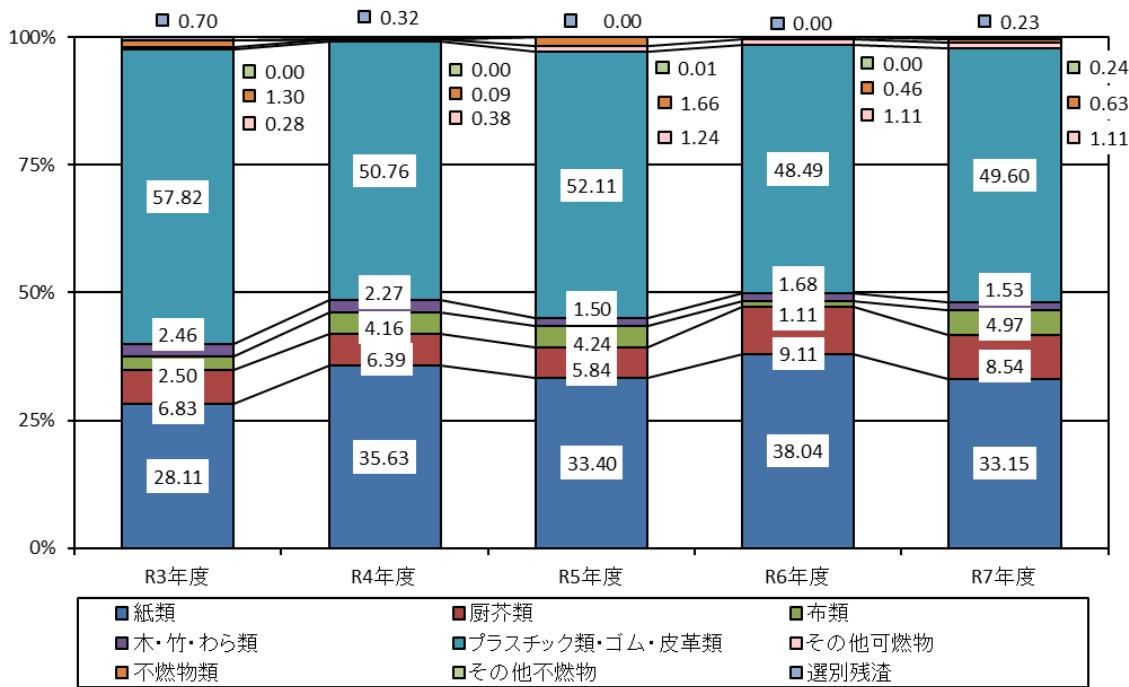


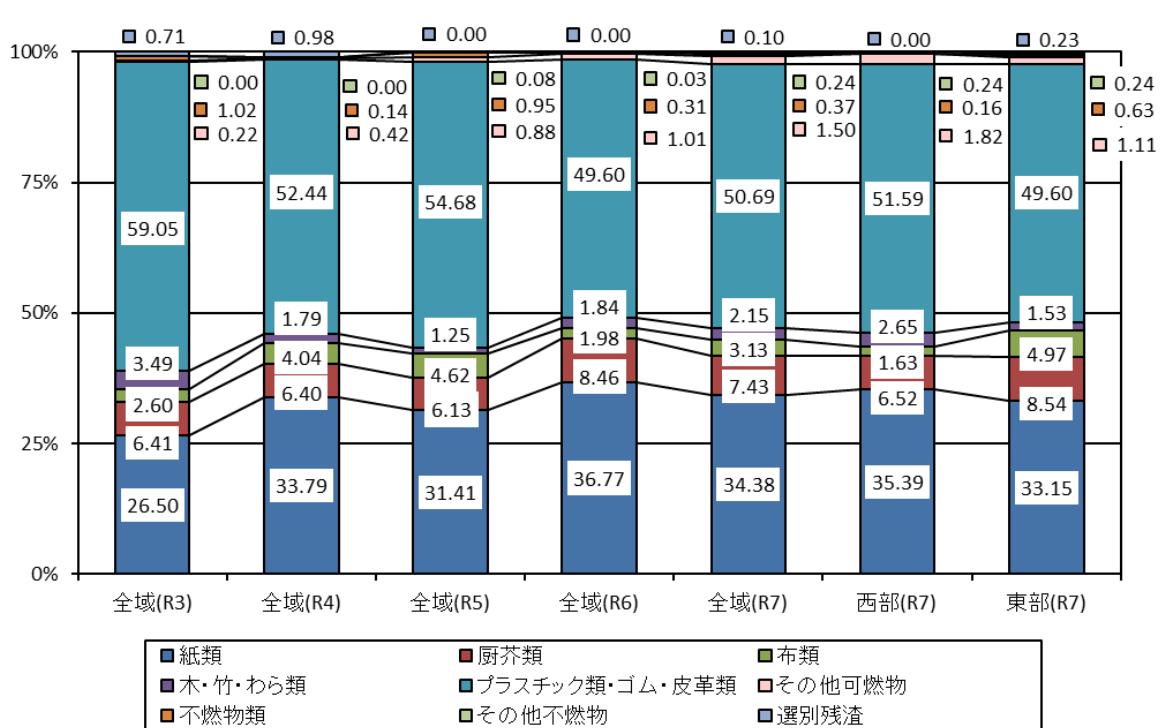
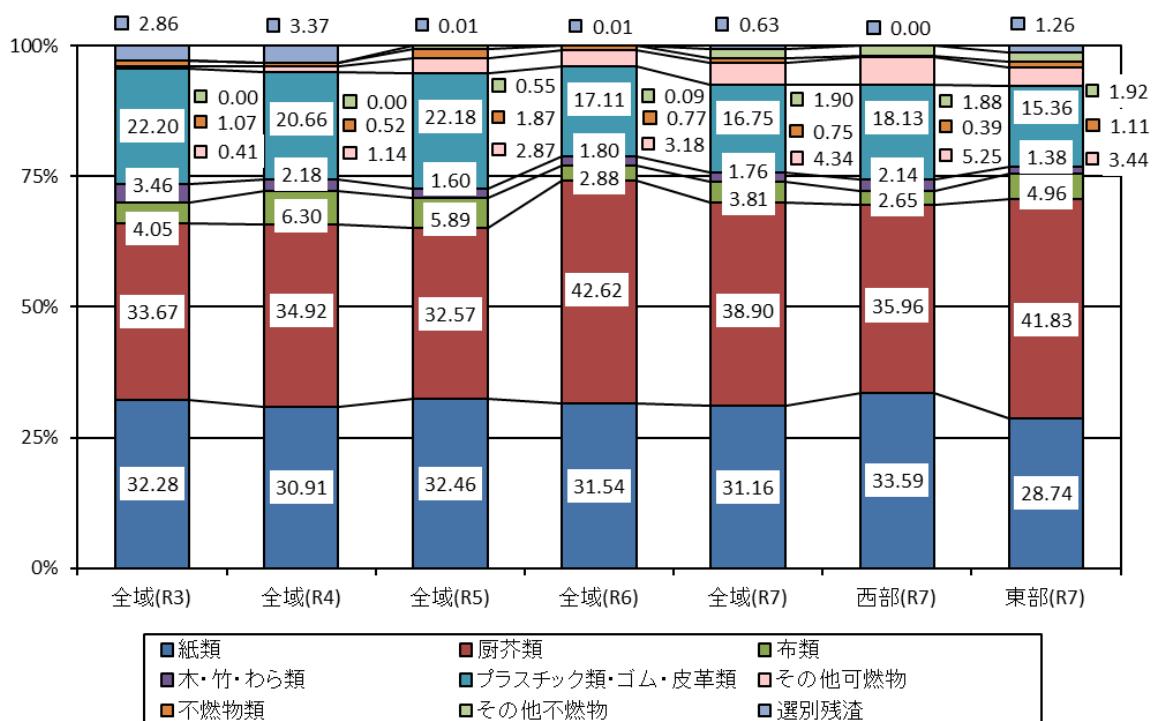
図2-9 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：可燃ごみ）

（4）可燃ごみの排出特性の総括

令和3年度～令和7年度の本市全域（令和7年度分は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図2-10～11に示した。

今回の調査では、重量比では「その他不燃物」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「布類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が増加し、「紙類」、「厨芥類」の構成比が減少していた。

図2-12に可燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、令和3年度より「プラスチック類・ゴム・皮革類」の減少傾向が見られた。



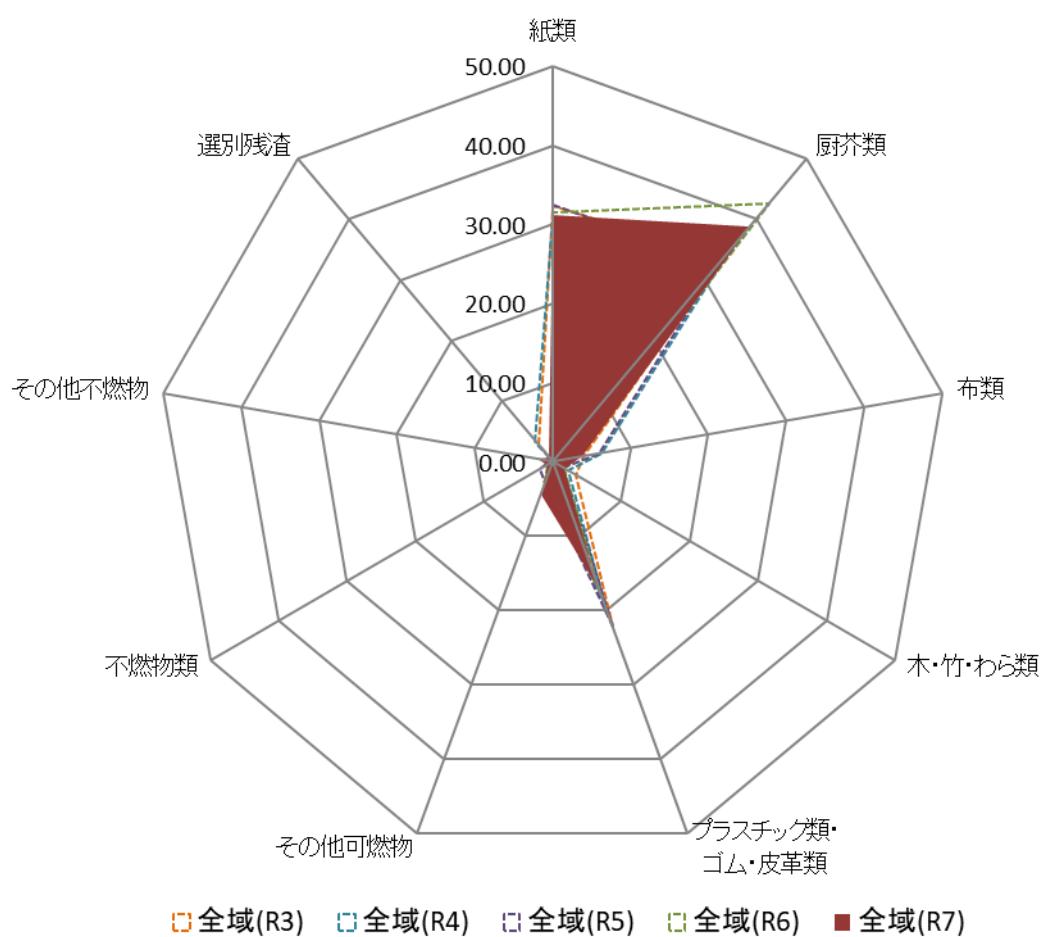


図2-12 可燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

2 不燃ごみの排出特性

(1) 本市全域

今回実施した本市全域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表 2-7 に示した。本市全域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(83.1%) の 1 種類であり、全体の約 83.1% を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類(25.4%)、陶磁器類(17.9%)、小型家電製品(12.3%)、その他ガラス類(8.8%) の構成割合が高かった。

次に本市全域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(17.2%)、「不燃物類」(71.2%) の 2 種類であり、全体の約 88.4% を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(8.6%) が、「不燃物類」ではその他金属類(23.7%)、小型家電製品(12.0%)、の構成割合が高かった。

図 2-13 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比共に、「プラスチック類・ゴム・皮革類」と「不燃物類」でほとんどの割合を占めていた。

次に、経年的な組成分析調査結果を表 2-8、図 2-14~15 に示した。本年度の結果は、重量比では「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「不燃物類」、「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-7 組成分析調査結果1（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	3.34	0.184	0.89	6.59
飲料用パック（アルミ不使用）	-	0.03	0.001	0.01	0.04
500ml 以上	1	0.03	0.001	0.01	0.04
500ml 未満	2				
ダンボール	3	0.08	0.002	0.02	0.06
新聞紙・チラシ	-	1.40	0.106	0.37	3.78
新聞紙	4				
再利用した新聞紙	5	1.07	0.078	0.28	2.80
チラシ	6				
再利用したチラシ	7	0.33	0.027	0.09	0.98
書籍・雑誌類	8				
雑紙	-	1.17	0.043	0.31	1.54
紙箱類	9	0.91	0.038	0.24	1.36
紙包装類	10	0.26	0.005	0.07	0.18
O A用紙	11				
シュレッダーくず	12				
その他の雑紙	13				
リサイクルできない紙	-	0.68	0.033	0.18	1.18
紙おむつ以外	14	0.68	0.033	0.18	1.18
紙おむつ	15				
可燃物類(厨芥類)	-	5.96	0.014	1.58	0.52
食品類	-	5.96	0.014	1.58	0.52
手付かずの食品	16	5.88	0.014	1.56	0.51
食べ残し	17	0.08	0.0001	0.02	0.00
調理くず（可食部分）	18				
調理くず（不可食部分）	19				
食品以外	20				
可燃物類(布類)	-	0.36	0.006	0.10	0.22
リサイクル可能	21				
リサイクル不可	22	0.36	0.006	0.10	0.22
可燃物類(木・竹・わら類)	-	12.84	0.084	3.41	3.01
剪定枝	23				
草	24				
その他	25	12.84	0.084	3.41	3.01
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	3.53	0.032	0.94	1.15
可燃物類(プラスチック類)	-	3.01	0.109	0.80	3.91
医療系	27				
ゴムを含むもの	28	0.20	0.002	0.05	0.07
有料指定袋(収集袋)	29	2.20	0.105	0.58	3.77
その他プラスチック類	30	0.61	0.002	0.16	0.07
可燃物類(その他)	31	0.22	0.0008	0.06	0.03

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-7 組成分析調査結果2（本市全域：不燃ごみ）

項目	全域（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	313.35	1.986	83.14	71.21	0.158
金属類	-	113.78	0.951	30.19	34.11	0.120
	32	1.36	0.012	0.36	0.44	0.112
	33	5.24	0.044	1.39	1.57	0.120
	34	9.03	0.123	2.40	4.39	0.074
	35	0.89	0.038	0.24	1.34	0.024
	36	1.65	0.075	0.44	2.70	0.022
その他金属類	37	95.60	0.660	25.36	23.67	0.145
ガラス類	-	64.78	0.274	17.19	9.82	0.237
	38					
	39	0.97	0.002	0.26	0.06	0.539
	40	5.85	0.026	1.55	0.93	0.225
	41	24.97	0.105	6.63	3.77	0.238
	42	33.00	0.141	8.75	5.06	0.234
その他	-	134.80	0.761	35.77	27.28	0.177
陶磁器類	43	67.42	0.204	17.89	7.32	0.330
	44	46.21	0.335	12.26	12.01	0.138
	45	16.32	0.213	4.33	7.64	0.077
	46					
	47	3.59	0.002	0.95	0.08	1.707
	48	0.01	0.0002	0.00	0.01	0.055
	49	0.06	0.0001	0.02	0.00	0.640
	50					
	51	1.19	0.006	0.32	0.23	0.189
その他不燃物	52	4.79	0.014	1.27	0.48	0.355
プラスチック類(分別回収対象)	-	20.19	0.338	5.36	12.12	0.060
レジ袋	-	0.45	0.052	0.12	1.86	0.009
	53					
	54	0.45	0.052	0.12	1.86	0.009
発泡トレイ	-					
	55					
	56					
発泡スチロール	-					
	57					
	58					
透明トレイ	-					
	59					
	60					
その他のプラ製容器包装	-	3.73	0.047	0.99	1.69	0.079
	61					
	62	3.73	0.047	0.99	1.69	0.079
容器包装以外のプラスチック類	-	16.02	0.239	4.25	8.57	0.067
	63	0.13	0.002	0.03	0.07	0.065
	64	15.89	0.237	4.22	8.50	0.067
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.04	0.0004	0.01	0.01	0.088
ペットボトル	-	0.04	0.0004	0.01	0.01	0.088
	65					
	66	0.04	0.0004	0.01	0.01	0.088
選別残渣	67	9.27	0.021	2.46	0.74	0.450
総合計		376.90	2.789	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

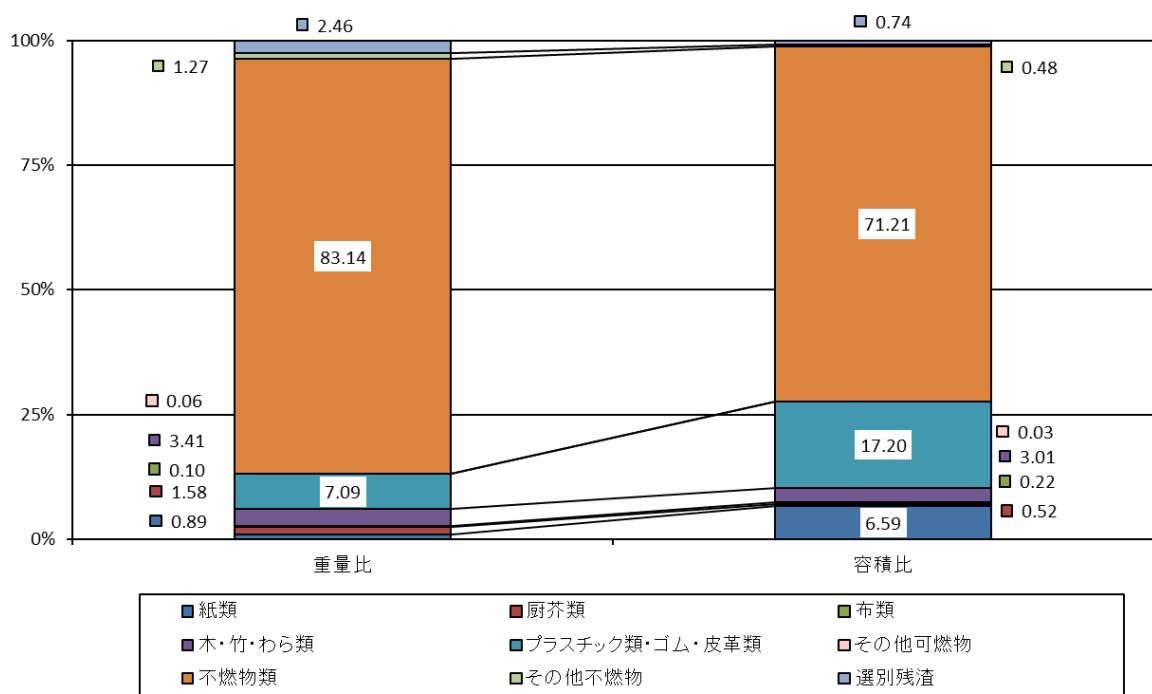


図2-13 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：不燃ごみ）

表2-8 大分類組成調査分析結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

項目 分類	全域-不燃ごみ(重量比) (%)					全域-不燃ごみ(容積比) (%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	0.67	0.73	0.92	1.35	0.89	4.29	4.67	6.68	8.00	6.59
厨芥類	1.82	1.49	1.06	1.04	1.58	0.20	0.28	0.22	0.46	0.52
布類	0.15	0.14	0.56	0.72	0.10	0.18	0.25	1.13	0.72	0.22
木・竹・わら類	0.31	0.42	1.19	0.78	3.41	0.21	1.80	1.20	1.02	3.01
プラスチック類・ゴム・皮革類	8.69	7.65	10.46	8.85	7.09	23.00	20.31	26.20	23.20	17.20
その他可燃物	0.44	0.43	0.44	1.49	0.06	0.06	0.11	0.09	0.32	0.03
不燃物類	85.60	88.08	80.64	84.65	83.14	71.47	72.10	63.12	66.04	71.21
その他不燃物	0.26	0.84	0.21	0.52	1.27	0.19	0.44	0.08	0.11	0.48
選別残渣	2.06	0.22	4.52	0.60	2.46	0.40	0.04	1.29	0.13	0.74
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

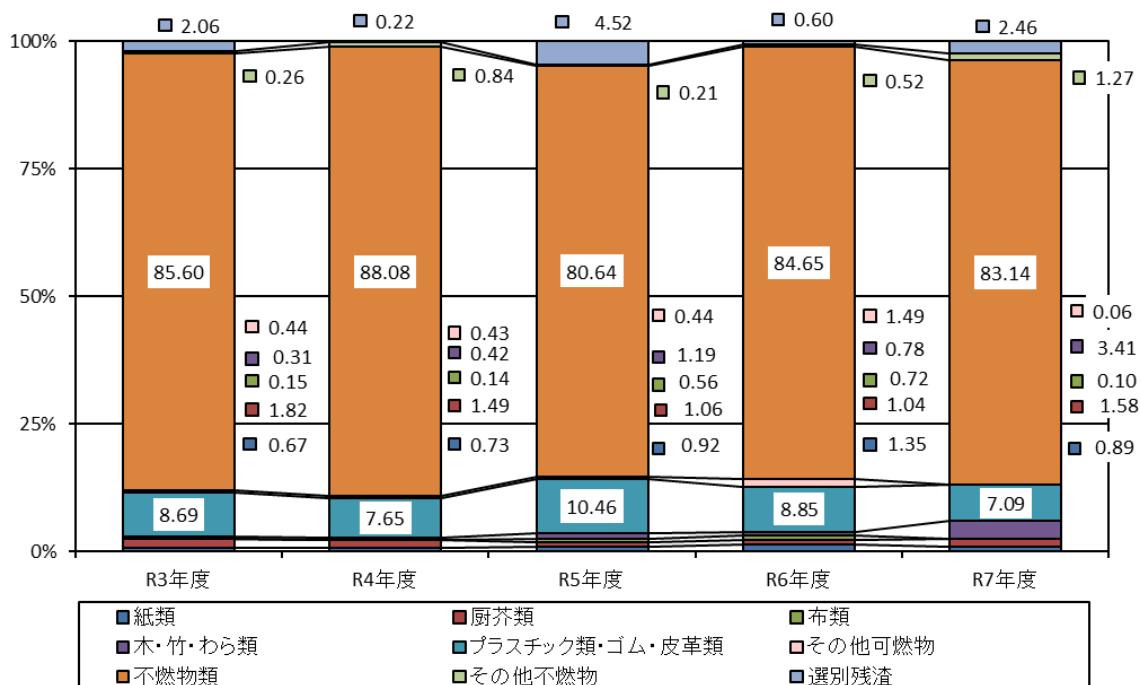


図2-14 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

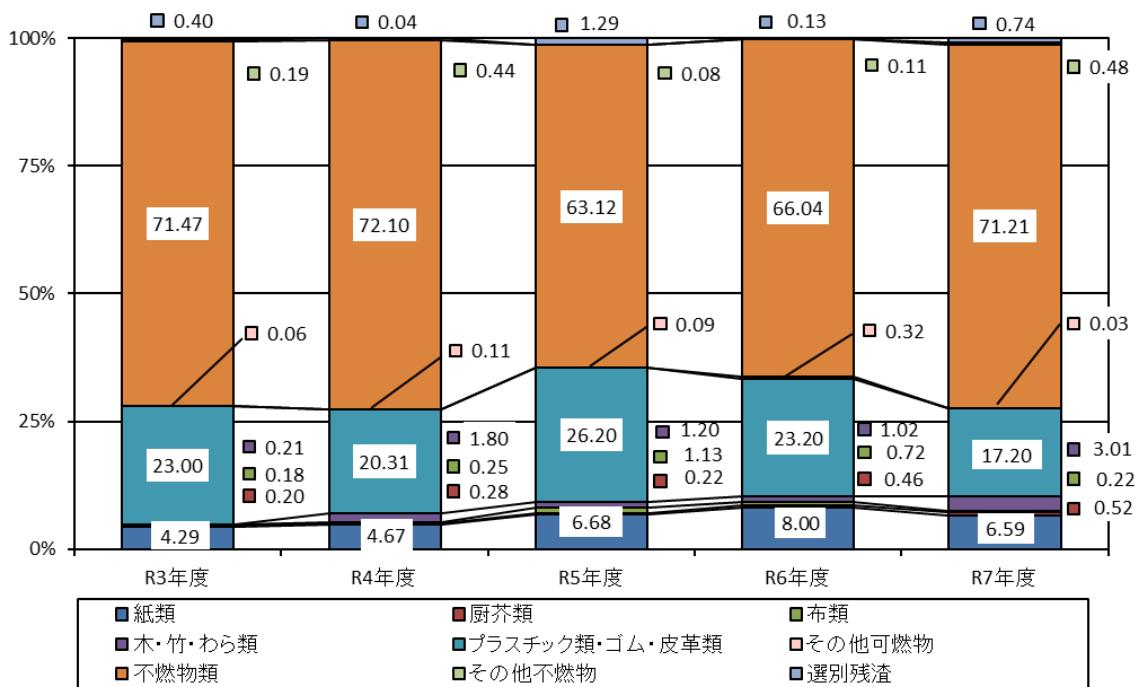


図2-15 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（本市全域：不燃ごみ）

（2）西部地域

今回実施した西部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-9に示した。西部地域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(85.6%)の1種類であり、全体の約85.6%を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類(27.9%)、陶磁器類(21.9%)、小型家電製品(12.0%)、その他ガラス類(9.0%)の構成割合が高かった。

次に西部地域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(12.6%)、「不燃物類」(74.5%)の2種類であり、全体の約87.1%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(4.9%)が、「不燃物類」では、その他金属類(23.5%)、小型家電製品(13.5%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図2-16参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-10、図2-17～18に示した。本年度の調査結果は、重量比で「木・竹・わら類」の構成比が増加していた。また、重量比で「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-9 組成分析調査結果1（西部地域：不燃ごみ）

項目	西部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	1.66	0.083	0.84	5.90	0.020
飲料用パック（アルミ不使用）	-	0.03	0.001	0.02	0.07	0.030
500ml 以上	1	0.03	0.001	0.02	0.07	0.030
500ml 未満	2					
ダンボール	3	0.07	0.001	0.04	0.10	0.050
新聞紙・チラシ	-	0.89	0.053	0.45	3.80	0.017
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.74	0.043	0.37	3.06	0.017
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.15	0.010	0.08	0.73	0.015
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.50	0.015	0.25	1.07	0.033
紙箱類	9	0.24	0.010	0.12	0.71	0.024
紙包装類	10	0.26	0.005	0.13	0.36	0.052
O A用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.18	0.012	0.09	0.86	0.015
紙おむつ以外	14	0.18	0.012	0.09	0.86	0.015
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	5.71	0.014	2.87	1.00	0.408
食品類	-	5.71	0.014	2.87	1.00	0.408
手付かずの食品	16	5.71	0.014	2.87	1.00	0.408
食べ残し	17					
調理くず（可食部分）	18					
調理くず（不可食部分）	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.15	0.002	0.08	0.16	0.070
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.15	0.002	0.08	0.16	0.070
可燃物類(木・竹・わら類)	-	11.16	0.080	5.61	5.70	0.139
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	11.16	0.080	5.61	5.70	0.139
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.73	0.012	0.87	0.86	0.143
可燃物類(プラスチック類)	-	1.42	0.058	0.71	4.11	0.025
医療系	27					
ゴムを含むもの	28	0.20	0.002	0.10	0.14	0.100
有料指定袋(収集袋)	29	1.05	0.055	0.53	3.92	0.019
その他プラスチック類	30	0.18	0.0007	0.09	0.05	0.250
可燃物類(その他)	31	0.22	0.0007	0.11	0.05	0.307

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-9 組成分析調査結果2（西部地域：不燃ごみ）

項目	西部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
不燃物類	-	170.37	1.046	85.62	74.49	0.163
金属類	-	63.72	0.464	32.02	33.02	0.137
	32	0.27	0.005	0.14	0.36	0.054
	33	4.34	0.035	2.18	2.49	0.124
	34	2.21	0.028	1.11	1.96	0.080
	35	0.07	0.001	0.04	0.07	0.073
	36	1.28	0.065	0.64	4.63	0.020
その他金属類	37	55.55	0.330	27.91	23.51	0.168
ガラス類	-	27.98	0.101	14.06	7.19	0.277
	38					
	39					
	40					
	41	10.12	0.044	5.08	3.13	0.230
	42	17.87	0.057	8.98	4.06	0.313
その他	-	78.67	0.481	39.54	34.28	0.163
陶磁器類	43	43.49	0.140	21.86	9.97	0.311
	44	23.93	0.190	12.02	13.53	0.126
	45	10.26	0.150	5.16	10.68	0.068
	46					
	47	0.85	0.0007	0.42	0.05	1.207
	48	0.005	0.0001	0.00	0.01	0.050
	49	0.06	0.0001	0.03	0.01	0.640
	50					
	51	0.08	0.0003	0.04	0.02	0.273
その他不燃物	52	1.34	0.002	0.67	0.11	0.893
プラスチック類(分別回収対象)	-	5.16	0.107	2.59	7.62	0.048
レジ袋	-	0.23	0.028	0.12	1.99	0.008
	53					
	54	0.23	0.028	0.12	1.99	0.008
発泡トレイ	-					
	55					
	56					
発泡スチロール	-					
	57					
	58					
透明トレイ	-					
	59					
	60					
その他のプラスチック類	-	0.52	0.010	0.26	0.71	0.052
	61					
	62	0.52	0.010	0.26	0.71	0.052
容器包装以外のプラスチック類	-	4.41	0.069	2.21	4.91	0.064
	63	0.13	0.002	0.07	0.14	0.065
	64	4.28	0.067	2.15	4.77	0.064
プラスチック類(分別回収対象外)	-					
ペットボトル	-					
	65					
	66					
選別残渣	67	0.08	0.0002	0.04	0.01	0.415
総合計		198.99	1.404	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

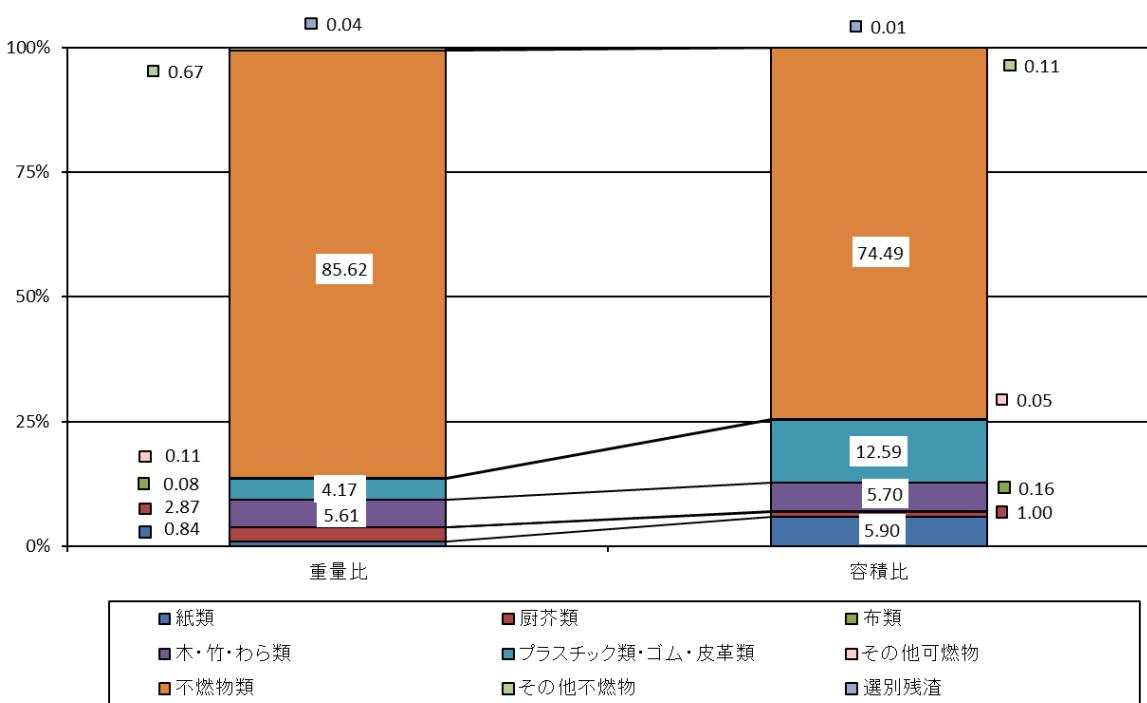


図2-16 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：不燃ごみ）

表2-10 大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

項目 分類	西部-不燃ごみ(重量比)(%)					西部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	0.56	0.72	0.95	1.01	0.84	3.30	4.25	6.55	7.52	5.90
厨芥類	2.89	1.92	0.31	1.24	2.87	0.28	0.42	0.06	0.47	1.00
布類	0.05	0.11	0.16	0.25	0.08	0.03	0.15	0.22	0.36	0.16
木・竹・わら類	0.58	0.76	0.67	0.19	5.61	0.40	0.68	0.37	0.10	5.70
プラスチック類・ゴム・皮革類	9.02	8.99	10.01	8.63	4.17	21.48	20.79	24.60	23.15	12.59
その他可燃物	0.32	0.36	0.79	0.25	0.11	0.04	0.12	0.13	0.08	0.05
不燃物類	82.72	86.92	79.88	87.32	85.62	73.66	73.39	66.01	68.11	74.49
その他不燃物	0.30	0.14	0.21	1.02	0.67	0.19	0.18	0.12	0.20	0.11
選別残渣	3.56	0.08	7.03	0.09	0.04	0.62	0.02	1.94	0.01	0.01
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

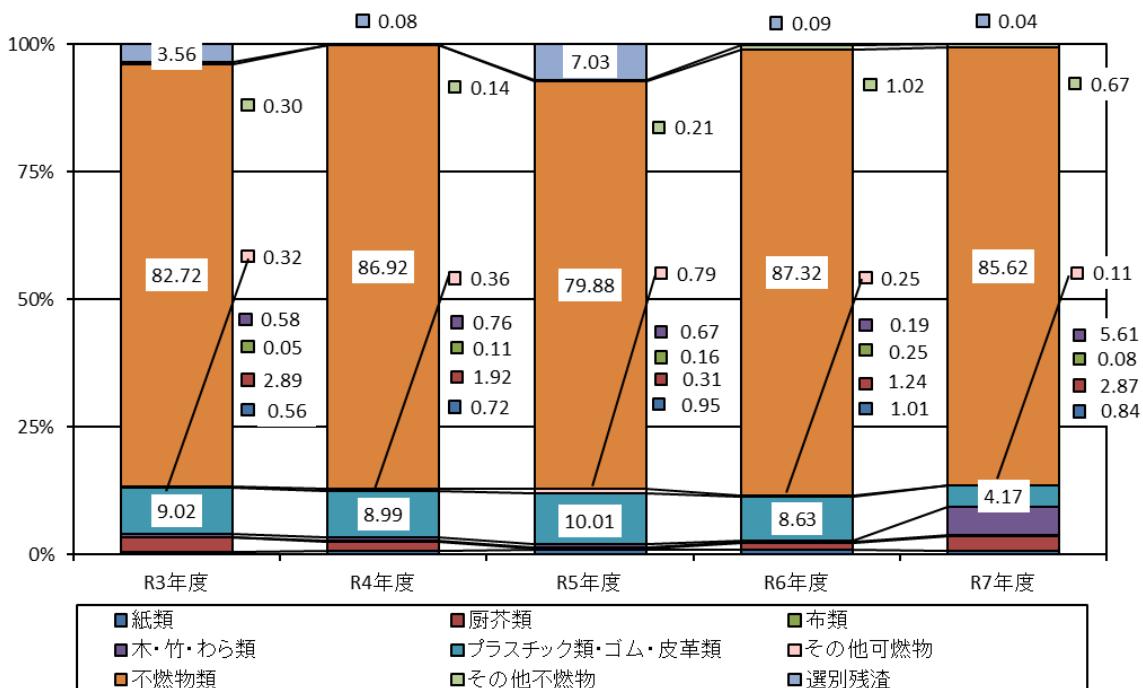


図2-17 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

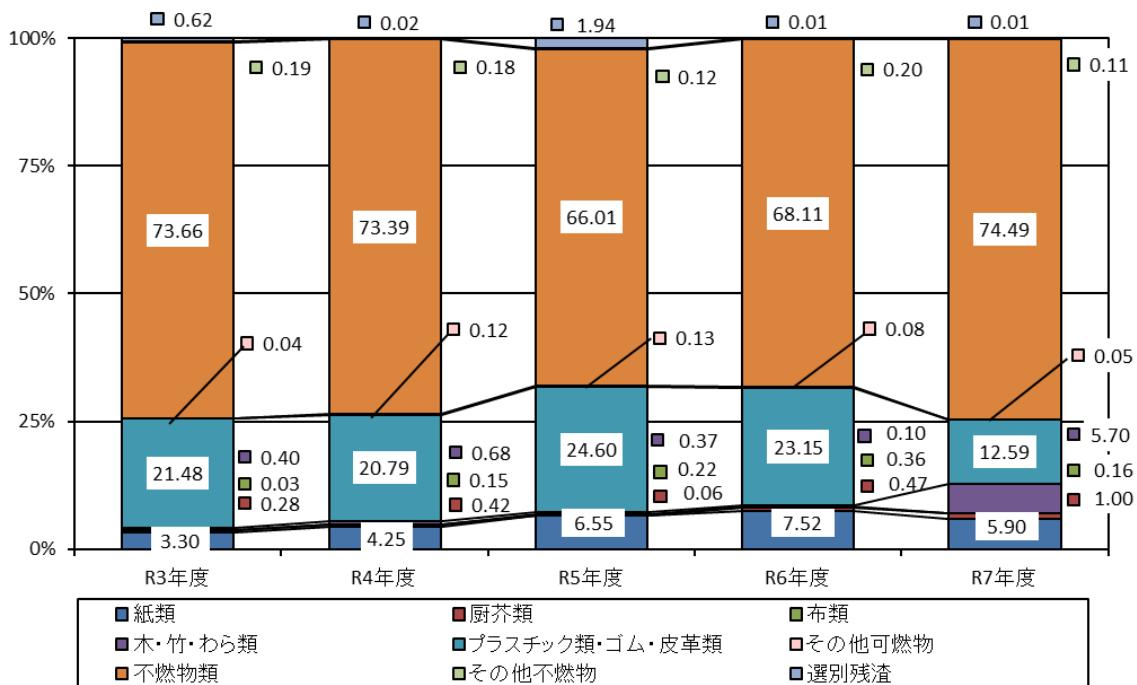


図2-18 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（西部地域：不燃ごみ）

(3) 東部地域

今回実施した東部地域の不燃ごみの組成分析調査の調査結果を表2-11に示した。東部地域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「不燃物類」(80.4%)の1種類であり、全体の約80.4%を占めていた。「不燃物類」を個別にみると、その他金属類(22.5%)、陶磁器類(13.5%)、小型家電製品(12.5%)、その他ガラス類(8.5%)の構成割合が高かった。

次に東部地域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類・ゴム・皮革類」(21.9%)、「不燃物類」(67.9%)の2種類であり、全体の約89.8%を占めていた。個別にみると「プラスチック類・ゴム・皮革類」では容器包装以外のプラスチック類(12.3%)が、「不燃物類」ではその他金属類(23.8%)、小型家電製品(10.5%)の構成割合が高かった。

重量比と容積比の比較については、本市全域と同様の傾向が確認された(図2-19参照)。

次に、経年的な組成分析調査結果を表2-12、図2-20～21に示した。本年度の調査結果は、重量比では「その他可燃物」の構成比が減少していた。また、容積比では「不燃物類」の構成比が増加し、「木・竹・わら類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

表2-11 組成分析調査結果1（東部地域：不燃ごみ）

項目	東部（不燃ごみ）					
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重			
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重	
可燃物類(紙類)	-	1.68	0.101	0.94	7.30	0.017
飲料用パック（アルミ不使用）	-					
500ml 以上	1					
500ml 未満	2					
ダンボール	3	0.008	0.0002	0.004	0.01	0.040
新聞紙・チラシ	-	0.51	0.052	0.29	3.77	0.010
新聞紙	4					
再利用した新聞紙	5	0.33	0.035	0.19	2.54	0.009
チラシ	6					
再利用したチラシ	7	0.18	0.017	0.10	1.23	0.010
書籍・雑誌類	8					
雑紙	-	0.67	0.028	0.38	2.02	0.024
紙箱類	9	0.67	0.028	0.38	2.02	0.024
紙包装類	10					
O A用紙	11					
シュレッダーくず	12					
その他の雑紙	13					
リサイクルできない紙	-	0.49	0.021	0.28	1.49	0.024
紙おむつ以外	14	0.49	0.021	0.28	1.49	0.024
紙おむつ	15					
可燃物類(厨芥類)	-	0.25	0.0004	0.14	0.03	0.628
食品類	-	0.25	0.0004	0.14	0.03	0.628
手付かずの食品	16	0.17	0.0003	0.10	0.02	0.567
食べ残し	17	0.08	0.0001	0.05	0.01	0.810
調理くず（可食部分）	18					
調理くず（不可食部分）	19					
食品以外	20					
可燃物類(布類)	-	0.21	0.004	0.12	0.29	0.051
リサイクル可能	21					
リサイクル不可	22	0.21	0.004	0.12	0.29	0.051
可燃物類(木・竹・わら類)	-	1.68	0.004	0.94	0.29	0.420
剪定枝	23					
草	24					
その他	25	1.68	0.004	0.94	0.29	0.420
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	1.80	0.020	1.01	1.45	0.090
可燃物類(プラスチック類)	-	1.59	0.051	0.89	3.70	0.031
医療系	27					
ゴムを含むもの	28					
有料指定袋(収集袋)	29	1.16	0.050	0.65	3.61	0.023
その他プラスチック類	30	0.43	0.001	0.24	0.09	0.331
可燃物類(その他)	31	0.008	0.0001	0.004	0.01	0.080

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-11 組成分析調査結果2（東部地域：不燃ごみ）

項目	東部（不燃ごみ）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
不燃物類	-	142.99	0.940	80.37	67.88
金属類	-	50.06	0.488	28.14	35.22
	32	1.09	0.007	0.61	0.52
	33	0.90	0.009	0.51	0.64
	34	6.82	0.095	3.83	6.86
	35	0.82	0.037	0.46	2.64
	36	0.37	0.010	0.21	0.74
ガラス類	37	40.05	0.330	22.51	23.83
	-	36.80	0.173	20.68	12.48
	38				
	39	0.97	0.002	0.55	0.13
	40	5.85	0.026	3.29	1.88
	41	14.86	0.061	8.35	4.41
その他	42	15.13	0.084	8.50	6.07
	-	56.13	0.280	31.55	20.18
	43	23.93	0.064	13.45	4.62
	44	22.28	0.145	12.52	10.47
	45	6.06	0.063	3.41	4.55
	46				
その他不燃物	47	2.74	0.001	1.54	0.10
	48	0.006	0.0001	0.00	0.01
	49				
	50				
	51	1.11	0.006	0.62	0.43
	-				
プラスチック類(分別回収対象)	52	3.45	0.012	1.94	0.87
レジ袋	-	15.04	0.231	8.45	16.68
	-	0.22	0.024	0.12	1.73
	53				
	54	0.22	0.024	0.12	1.73
	-				
発泡トレイ	-				
	55				
	56				
	-				
発泡スチロール	-				
	57				
	58				
	-				
透明トレイ	-				
	59				
	60				
	-				
その他のプラスチック容器包装	-	3.21	0.037	1.80	2.67
	61				
	62	3.21	0.037	1.80	2.67
	-				
容器包装以外のプラスチック類	-	11.62	0.170	6.53	12.28
	63				
	64	11.62	0.170	6.53	12.28
	-				
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.04	0.0004	0.02	0.03
ペットボトル	-	0.04	0.0004	0.02	0.03
	65				
	66	0.04	0.0004	0.02	0.03
	-				
選別残渣	67	9.19	0.020	5.16	1.47
総合計		177.91	1.385	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

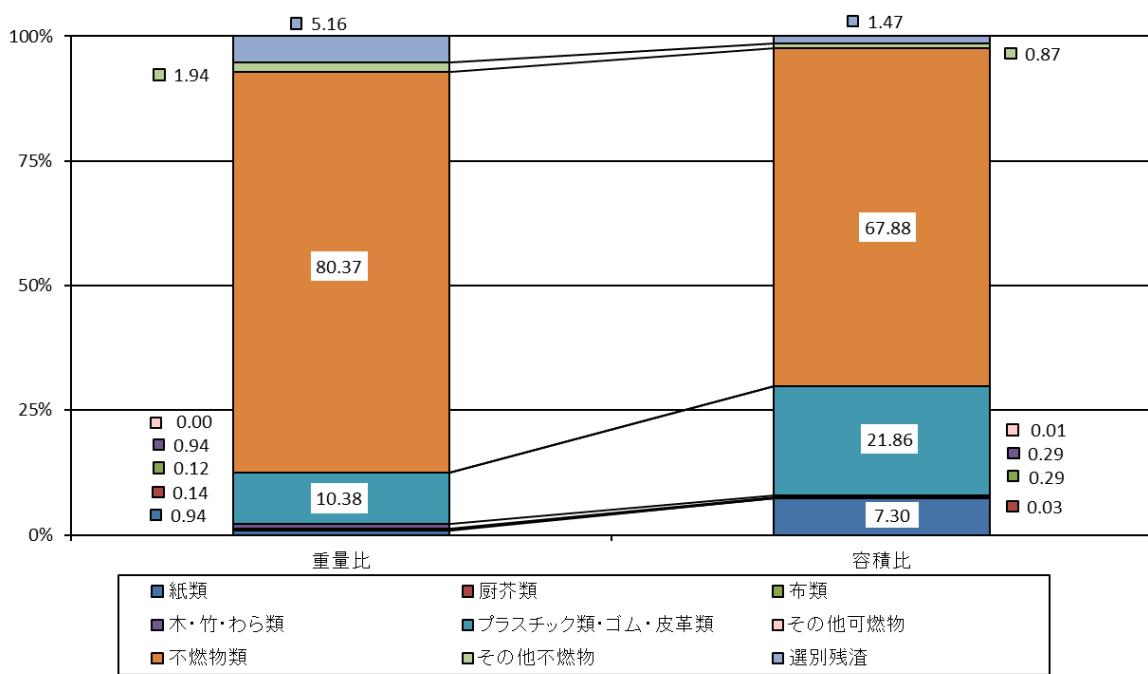


図2-19 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：不燃ごみ）

表2-12 大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

項目 分類	東部-不燃ごみ(重量比)(%)					東部-不燃ごみ(容積比)(%)				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紙類	0.78	0.75	0.90	1.70	0.94	5.30	5.21	6.81	8.45	7.30
厨芥類	0.74	1.03	1.76	0.83	0.14	0.12	0.09	0.39	0.45	0.03
布類	0.24	0.18	0.94	1.19	0.12	0.33	0.37	2.10	1.05	0.29
木・竹・わら類	0.04	0.05	1.68	1.37	0.94	0.02	3.24	2.09	1.87	0.29
プラスチック類・ゴム・皮革類	8.18	6.19	10.89	9.05	10.38	23.83	19.68	27.92	23.22	21.86
その他可燃物	0.57	0.51	0.11	2.72	0.00	0.07	0.10	0.03	0.54	0.01
不燃物類	88.68	89.33	81.36	82.01	80.37	69.96	70.45	60.01	64.15	67.88
その他不燃物	0.21	1.59	0.22	0.02	1.94	0.19	0.79	0.04	0.02	0.87
選別残渣	0.56	0.37	2.14	1.11	5.16	0.18	0.07	0.60	0.25	1.47
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※1 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

※2 プラスチック類・ゴム・皮革類は「可燃物類（ゴム・皮革類）」、「可燃物類（プラスチック類）」、「プラスチック類（分別回収対象）」、「プラスチック類（分別回収対象外）」の合計値である。

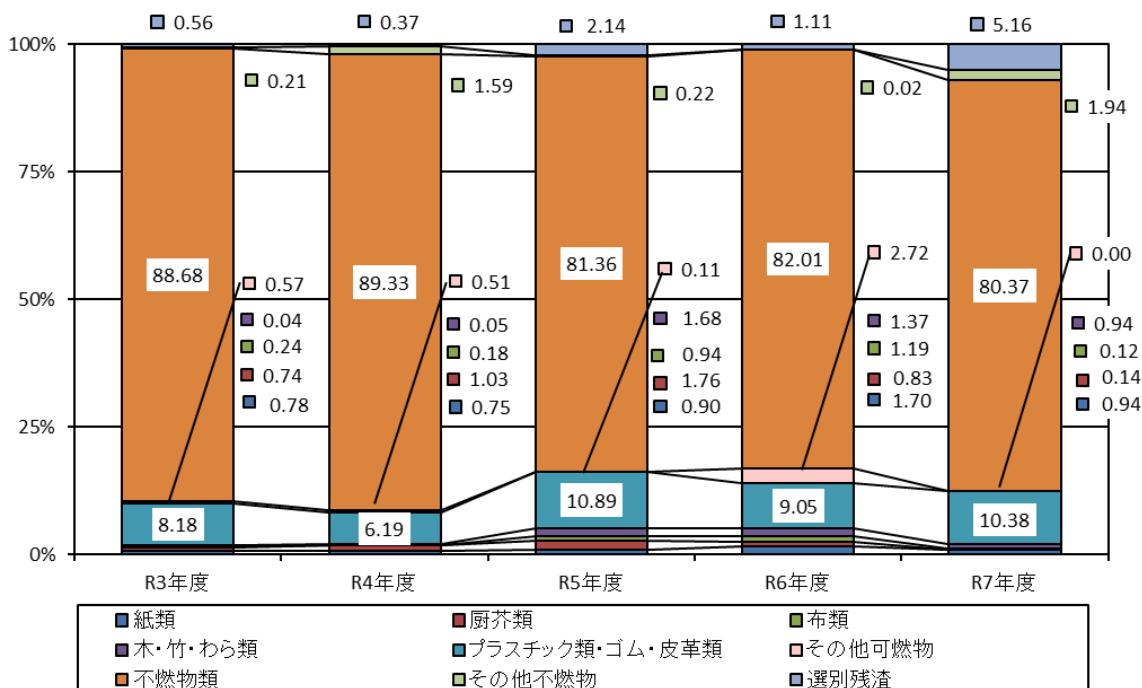


図2-20 重量比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

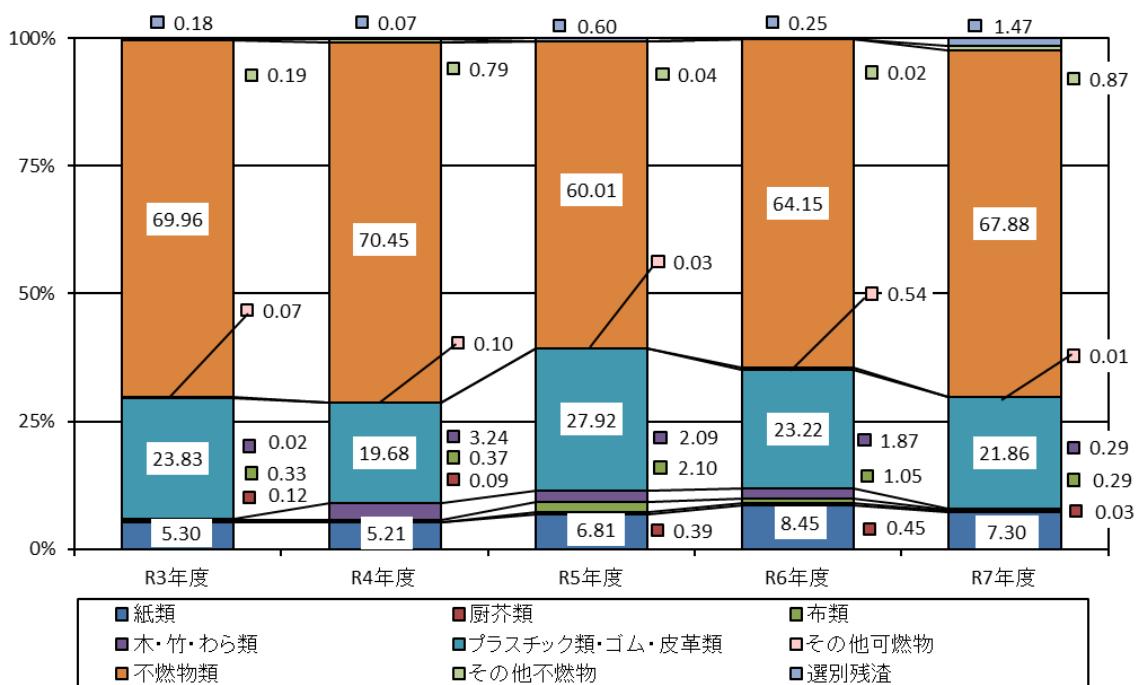


図2-21 容積比の大分類組成分析調査結果の比較（東部地域：不燃ごみ）

（4）不燃ごみの排出特性の総括

令和3年度～令和7年度の本市全域（令和7年度分は西部地域・東部地域も掲載）の構成比を比較した結果を図2-22～23に示した。

今回の調査では、重量比では「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。また、容積比では「不燃物類」、「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

図2-24に不燃ごみの特性比較を示した。構成比の分布状況は、令和6年度とほぼ同様であった。

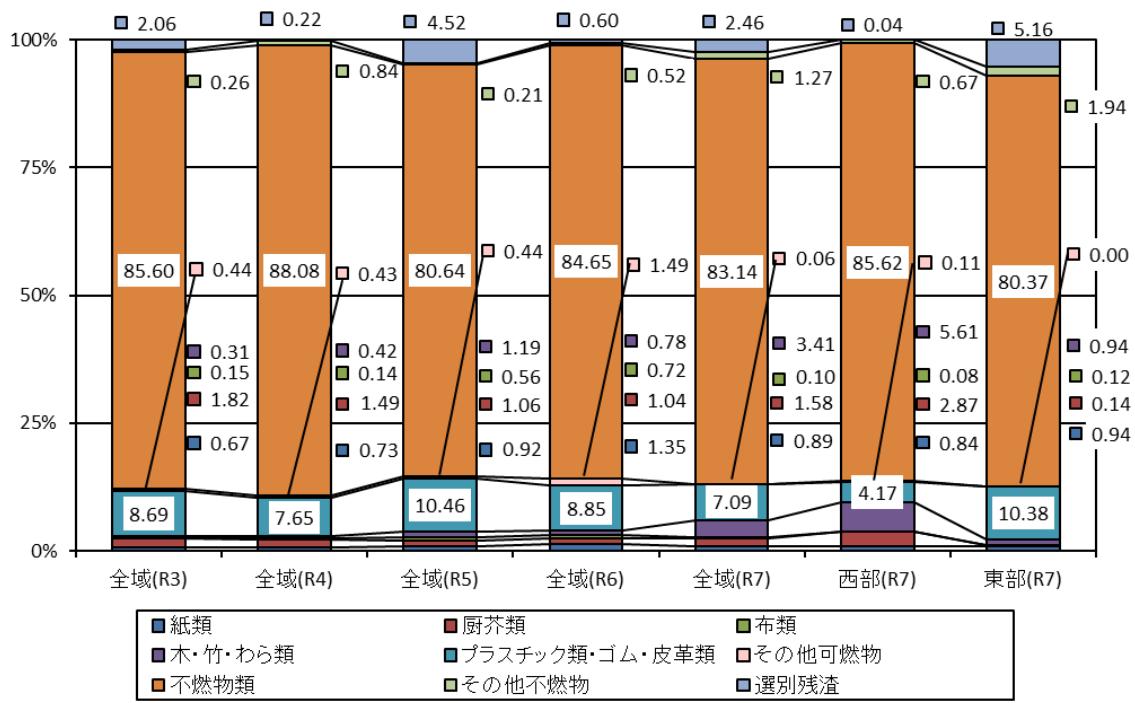


図2-22 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：不燃ごみ）

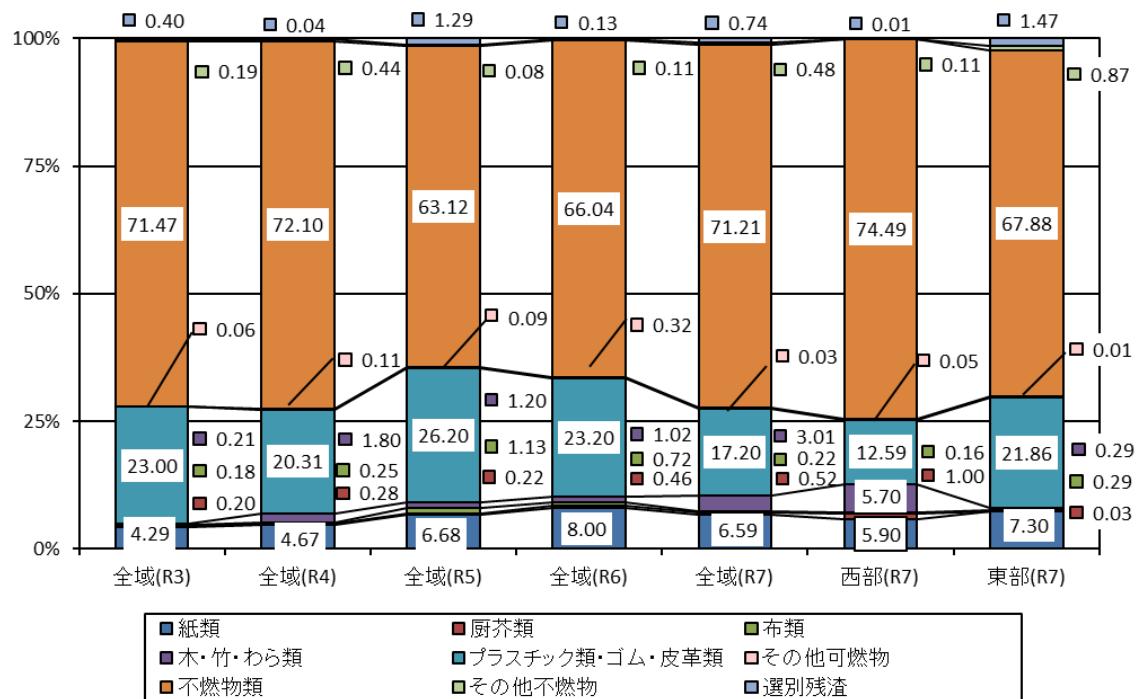


図2-23 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：不燃ごみ）

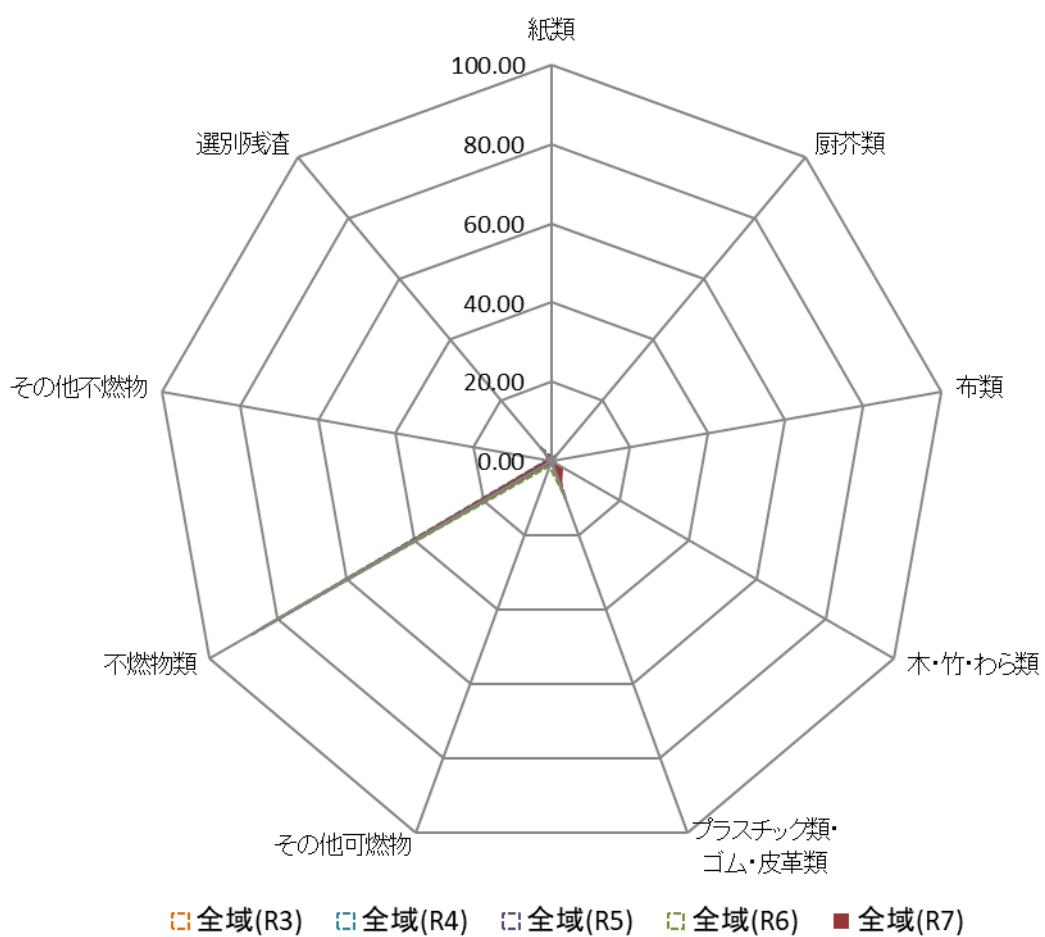


図2-24 不燃ごみの特性比較（重量比：全体図）

3 プラスチック資源の排出特性

(1) 本市全域

今調査では、令和6年3月から始まった「プラスチック資源」の分別回収について、「プラスチック資源」としてリサイクル対象となる「容器包装プラスチック」及び「製品プラスチック」の組成分析調査を実施したものである。

今回実施した本市全域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表2-13に示した。本市全域の重量比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類(分別回収対象)」(92.9%)の1種類のみであった。

その内訳は食品や洗剤などを入れた容器として使用されていたプラスチック(容器包装プラスチック)の割合が70.2%、レジ袋や発泡スチロール、ストロー、コップなどプラスチックのみでできているもの(製品プラスチック)の割合が約27.7%であった(表2-14参照)。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの(29.8%)、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの(19.3%)、製品プラスチックでリサイクルできないもの(11.6%)、製品プラスチックでリサイクルできるもの(9.5%)の構成割合が高かった。

次に、本市全域の容積比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類(分別回収対象)」(94.4%)の1種類のみであった。

その内訳は容器包装プラスチックの割合が約78.5%、製品プラスチックの割合が約15.9%であった(表2-14参照)。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの(24.1%)、リサイクルできる透明トレイ(17.5%)、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの(12.4%)の構成割合が高かった。

図2-25に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比とともにプラスチック類(分別回収対象)の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図2-26~27に示した。重量比、容積比とともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高かった。

次に、プラスチック資源中のリサイクルの可否に関する構成比を表2-14、図2-28~29に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が44.9%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が25.3%で2番目に多かった。

容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が53.3%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が25.2%で2番目に多かった。

表2-13 組成分析調査結果1（本市全域：プラスチック資源）

項目	全域（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	0.73	0.034	1.20	0.90
飲料用パック（アルミ不使用）	-				
500ml 以上	1				
500ml 未満	2				
ダンボール	3				
新聞紙・チラシ	-				
新聞紙	4				
再利用した新聞紙	5				
チラシ	6				
再利用したチラシ	7				
書籍・雑誌類	8				
雑紙	-				
紙箱類	9				
紙包装類	10				
OA用紙	11				
シュレッダーくず	12				
その他の雑紙	13				
リサイクルできない紙	-	0.73	0.034	1.20	0.90
紙おむつ以外	14	0.73	0.034	1.20	0.90
紙おむつ	15				
可燃物類(厨芥類)	-	0.06	0.0003	0.10	0.01
食品類	-	0.06	0.0003	0.10	0.01
手付かずの食品	16	0.06	0.0003	0.10	0.01
食べ残し	17				
調理くず（可食部分）	18				
調理くず（不可食部分）	19				
食品以外	20				
可燃物類(布類)	-	0.03	0.0006	0.05	0.02
リサイクル可能	21				
リサイクル不可	22	0.03	0.0006	0.05	0.02
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.03	0.0002	0.04	0.01
剪定枝	23				
草	24				
その他	25	0.03	0.0002	0.04	0.01
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.36	0.003	0.59	0.07
可燃物類(プラスチック類)	-	1.67	0.130	2.74	3.43
医療系	27	0.37	0.015	0.61	0.40
ゴムを含むもの	28				
有料指定袋(収集袋)	29	1.28	0.115	2.10	3.03
その他プラスチック類	30	0.02	0.0001	0.04	0.00
可燃物類(その他)	31	0.11	0.0005	0.18	0.01

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表 2-13 組成分析調査結果 2 (本市全域 : プラスチック資源)

項目	全域 (プラスチック資源)				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
不燃物類	-	0.02	0.0001	0.03	0.00
金属類	-	0.02	0.0001	0.02	0.00
	32				
	33				
	34				
	35				
	36				
その他金属類	37	0.02	0.0001	0.02	0.00
ガラス類	-				
リターナブルびん	38				
汚れたリターナブルびん	39				
ワンウェイびん	40				
汚れたワンウェイびん	41				
その他ガラス類	42				
その他	-	0.001	0.00001	0.00	0.00
陶磁器類	43				
小型家電製品	44				
複合素材	45				
医療系	46				
乾電池	47				
ボタン電池	48	0.001	0.00001	0.00	0.00
リチウム蓄電池	49				
水銀入りの体温計・血圧計	50				
蛍光灯	51				
その他不燃物	52				
プラスチック類(分別回収対象)	-	56.78	3.581	92.94	94.38
レジ袋	-	0.38	0.036	0.61	0.95
リサイクルできるレジ袋	53				
リサイクルできないレジ袋	54	0.38	0.036	0.61	0.95
発泡トレイ	-	3.51	0.612	5.75	16.13
リサイクルできる発泡トレイ	55	2.57	0.442	4.20	11.65
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.95	0.170	1.55	4.48
発泡スチロール	-	0.60	0.100	0.97	2.64
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.42	0.075	0.68	1.98
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.18	0.025	0.29	0.66
透明トレイ	-	9.43	0.980	15.43	25.83
リサイクルできる透明トレイ	59	6.68	0.665	10.94	17.53
リサイクルできない透明トレイ	60	2.75	0.315	4.49	8.30
その他のプラ製容器包装	-	29.97	1.385	49.05	36.50
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	61	18.18	0.915	29.76	24.12
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	62	11.79	0.470	19.29	12.39
容器包装以外のプラスチック類	-	12.91	0.468	21.13	12.33
リサイクルできるもの	63	5.82	0.220	9.53	5.80
リサイクルできないもの	64	7.09	0.248	11.60	6.54
プラスチック類(分別回収対象外)	-	1.31	0.045	2.15	1.18
ペットボトル	-	1.31	0.045	2.15	1.18
リサイクルできるペットボトル	65	0.53	0.022	0.87	0.57
リサイクルできないペットボトル	66	0.78	0.023	1.27	0.61
選別残渣	67				
総合計		61.09	3.794	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

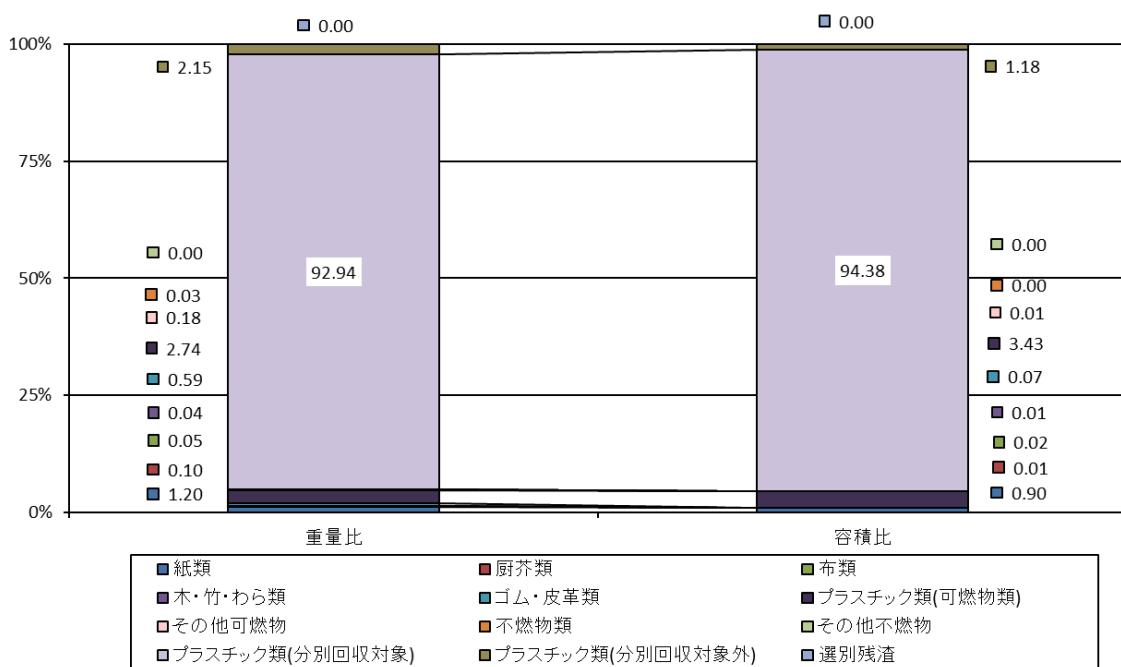


図2-25 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（本市全域：プラスチック資源）

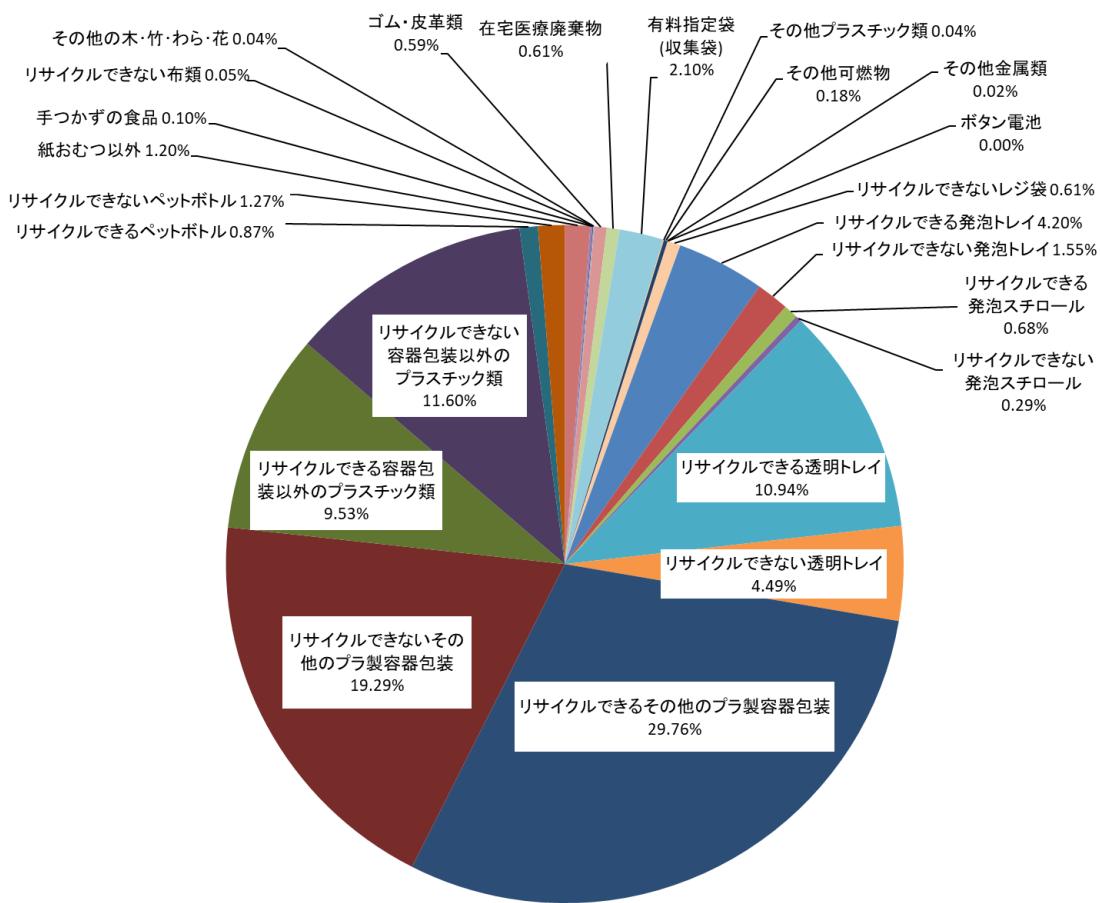


図2-26 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：本市全域）

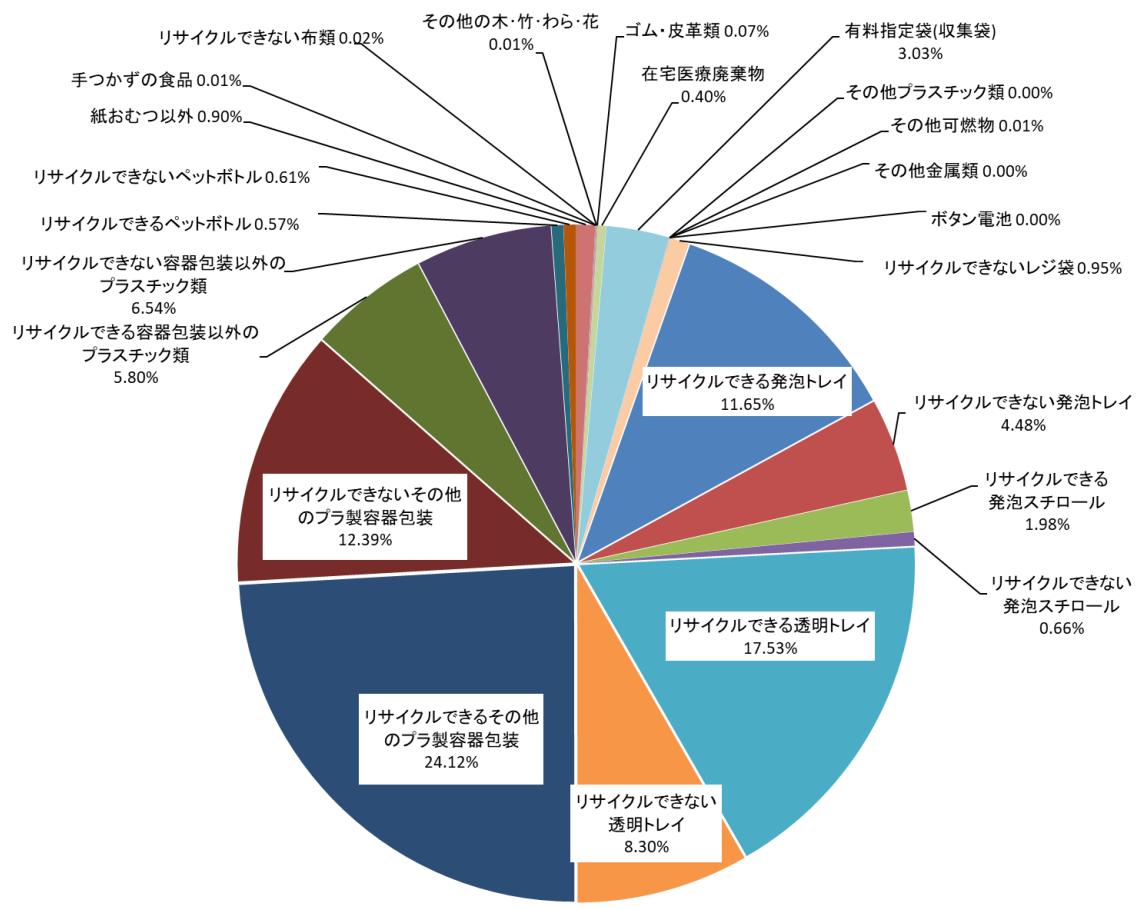


図2-27 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：本市全域）

表2-14 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果

(本市全域：プラスチック資源)

項目	本市全域（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	
容器包装プラスチック	42.90	2.977	70.23	78.46	
発泡トレイ	3.51	0.612	5.75	16.13	
	リサイクルできる発泡トレイ	2.57	0.442	4.20	11.65
	リサイクルできない発泡トレイ	0.95	0.170	1.55	4.48
透明トレイ	9.43	0.980	15.43	25.83	
	リサイクルできる透明トレイ	6.68	0.665	10.94	17.53
	リサイクルできない透明トレイ	2.75	0.315	4.49	8.30
その他のプラ製容器包装	29.97	1.385	49.05	36.50	
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	18.18	0.915	29.76	24.12
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	11.79	0.470	19.29	12.39
製品プラスチック	13.88	0.604	22.71	15.92	
レジ袋	0.38	0.036	0.61	0.95	
	リサイクルできるレジ袋				
	リサイクルできないレジ袋	0.38	0.036	0.61	0.95
発泡スチロール	0.60	0.100	0.97	2.64	
	リサイクルできる発泡スチロール	0.42	0.075	0.68	1.98
	リサイクルできない発泡スチロール	0.18	0.025	0.29	0.66
容器包装以外のプラスチック類	12.91	0.468	21.13	12.33	
	リサイクルできるもの	5.82	0.220	9.53	5.80
	リサイクルできないもの	7.09	0.248	11.60	6.54
プラスチック資源(非該当)	3.03	0.098	4.96	2.59	
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	1.72	0.054	2.82	1.41	
	ペットボトル	1.31	0.045	2.15	1.18
有料指定袋(収集袋)	1.28	0.115	2.10	3.03	
総合計	61.09	3.794	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

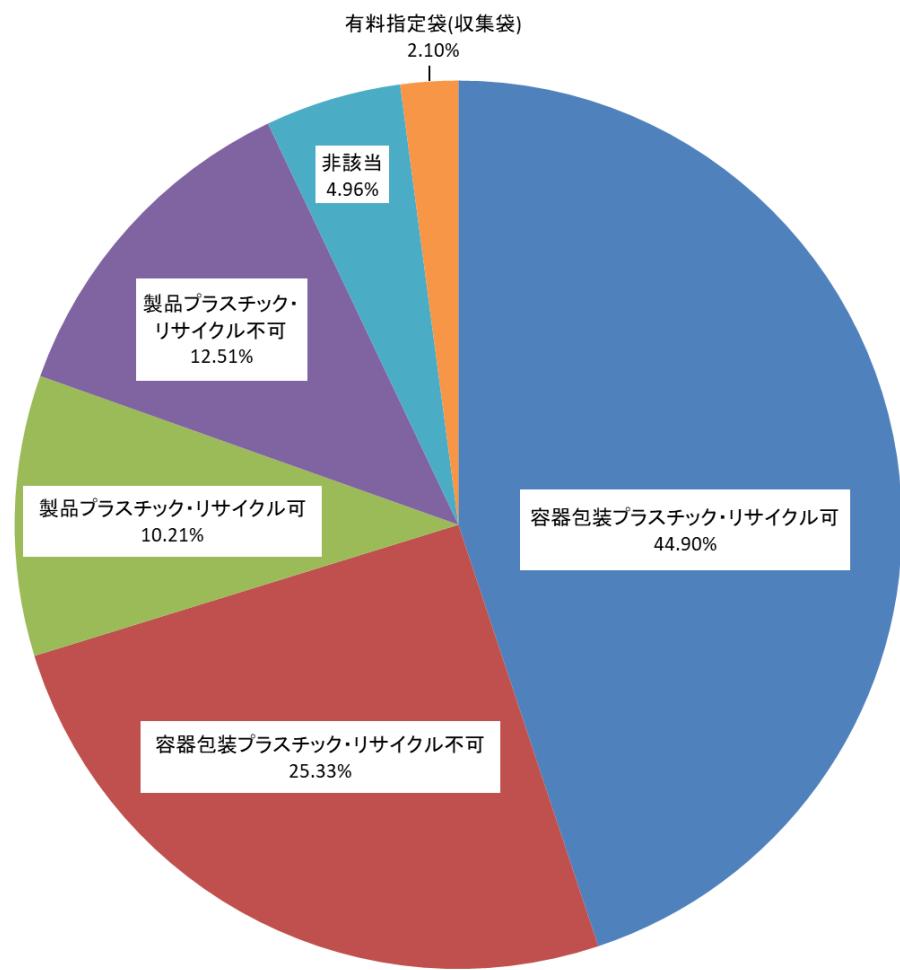


図2-28 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：本市全域）

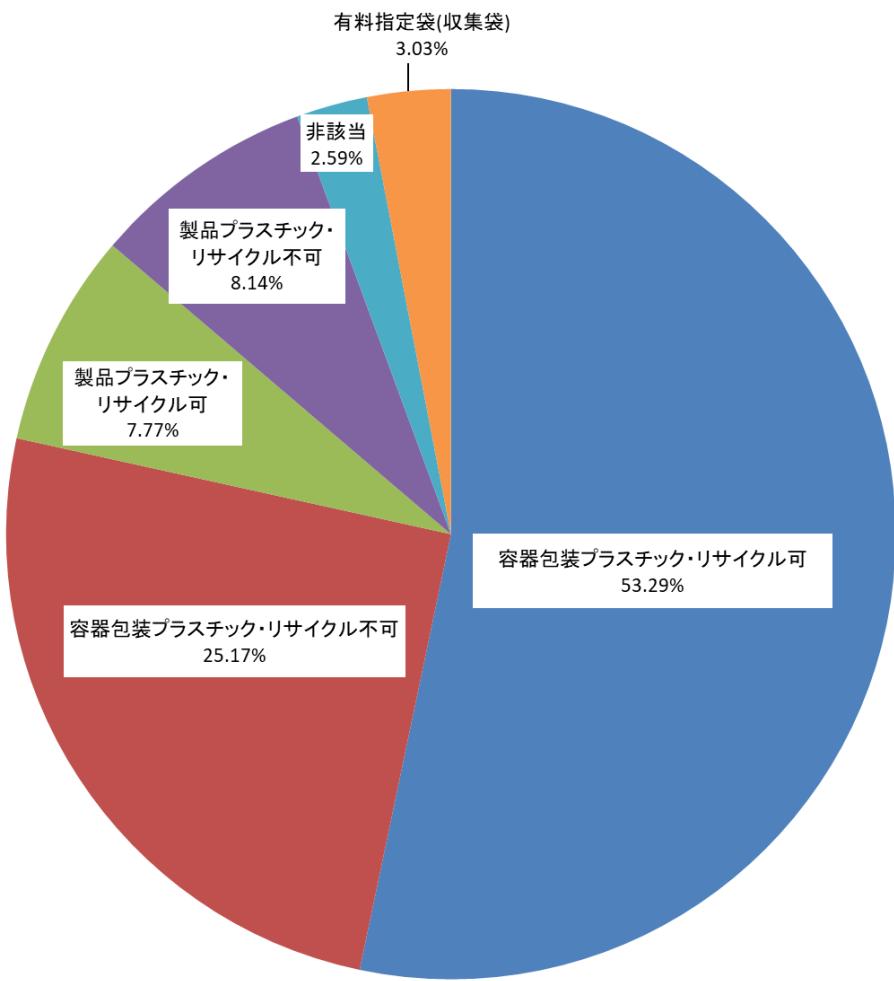


図2-29 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：本市全域）

(2) 西部地域

今回実施した西部地域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表 2-15 に示した。西部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（94.2%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 71.8%、製品プラスチックの割合が約 22.4% であった（表 2-16 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（29.7%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（22.1%）、製品プラスチックでリサイクルできないもの（11.1%）の構成割合が高かった。

次に西部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（95.7%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 80.7%、製品プラスチックの割合が約 15.0% であった（表 2-16 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（24.3%）、リサイクルできる透明トレイ（15.7%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（13.8%）、リサイクルできる発泡トレイ（11.8%）の構成割合が高かった。

図 2-30 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともにプラスチック類（分別回収対象）の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図 2-31～32 に示した。重量比、容積比ともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高いことがわかった。

次に、プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比を表 2-16、図 2-33～34 に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が 42.6% で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 29.2% で 2 番目に多かった。容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が 51.7% で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 29.0% で 2 番目に多かった。

表2-15 組成分析調査結果1（西部地域：プラスチック資源）

項目	西部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	0.34	0.015	1.09	0.78
飲料用パック（アルミ不使用）	-				
500ml 以上	1				
500ml 未満	2				
ダンボール	3				
新聞紙・チラシ	-				
新聞紙	4				
再利用した新聞紙	5				
チラシ	6				
再利用したチラシ	7				
書籍・雑誌類	8				
雑紙	-				
紙箱類	9				
紙包装類	10				
OA用紙	11				
シュレッダーくず	12				
その他の雑紙	13				
リサイクルできない紙	-	0.34	0.015	1.09	0.78
紙おむつ以外	14	0.34	0.015	1.09	0.78
紙おむつ	15				
可燃物類(厨芥類)	-				
食品類	-				
手付かずの食品	16				
食べ残し	17				
調理くず（可食部分）	18				
調理くず（不可食部分）	19				
食品以外	20				
可燃物類(布類)	-	0.01	0.0005	0.05	0.03
リサイクル可能	21				
リサイクル不可	22	0.01	0.0005	0.05	0.03
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.009	0.0001	0.03	0.01
剪定枝	23				
草	24				
その他	25	0.009	0.0001	0.03	0.01
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.32	0.002	1.03	0.13
可燃物類(プラスチック類)	-	0.66	0.055	2.14	2.87
医療系	27				
ゴムを含むもの	28				
有料指定袋(収集袋)	29	0.65	0.055	2.11	2.87
その他プラスチック類	30	0.01	0.0001	0.03	0.01
可燃物類(その他)	31	0.02	0.00004	0.07	0.00

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-15 組成分析調査結果2（西部地域：プラスチック資源）

項目	西部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
不燃物類	-	0.01	0.00003	0.02	0.00
金属類	-	0.004	0.00002	0.01	0.00
スチール缶	32				
スプレー缶	33				
汚れたスチール缶	34				
アルミ缶	35				
汚れたアルミ缶	36				
その他金属類	37	0.004	0.00002	0.01	0.00
ガラス類	-				
リターナブルびん	38				
汚れたリターナブルびん	39				
ワンウェイびん	40				
汚れたワンウェイびん	41				
その他ガラス類	42				
その他	-	0.001	0.00001	0.00	0.00
陶磁器類	43				
小型家電製品	44				
複合素材	45				
医療系	46				
乾電池	47				
ボタン電池	48	0.001	0.00001	0.00	0.00
リチウム蓄電池	49				
水銀入りの体温計・血圧計	50				
蛍光灯	51				
その他不燃物	52				
プラスチック類(分別回収対象)	-	28.86	1.834	94.21	95.66
レジ袋	-	0.18	0.014	0.59	0.73
リサイクルできるレジ袋	53				
リサイクルできないレジ袋	54	0.18	0.014	0.59	0.73
発泡トレイ	-	1.94	0.337	6.32	17.58
リサイクルできる発泡トレイ	55	1.33	0.227	4.33	11.84
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.61	0.110	1.99	5.74
発泡スチロール	-	0.42	0.075	1.35	3.91
リサイクルできる発泡スチロール	57	0.42	0.075	1.35	3.91
リサイクルできない発泡スチロール	58				
透明トレイ	-	4.17	0.480	13.60	25.04
リサイクルできる透明トレイ	59	2.61	0.300	8.50	15.65
リサイクルできない透明トレイ	60	1.56	0.180	5.09	9.39
その他のプラスチック容器包装	-	15.89	0.730	51.87	38.08
その他のプラスチック容器包装でリサイクルできるもの	61	9.11	0.465	29.74	24.25
その他のプラスチック容器包装でリサイクルできないもの	62	6.78	0.265	22.13	13.82
容器包装以外のプラスチック類	-	6.28	0.198	20.48	10.33
リサイクルできるもの	63	2.89	0.085	9.43	4.43
リサイクルできないもの	64	3.39	0.113	11.05	5.89
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.42	0.010	1.37	0.52
ペットボトル	-	0.42	0.010	1.37	0.52
リサイクルできるペットボトル	65	0.12	0.003	0.39	0.16
リサイクルできないペットボトル	66	0.30	0.007	0.98	0.37
選別残渣	67				
総合計	30.63	1.917	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

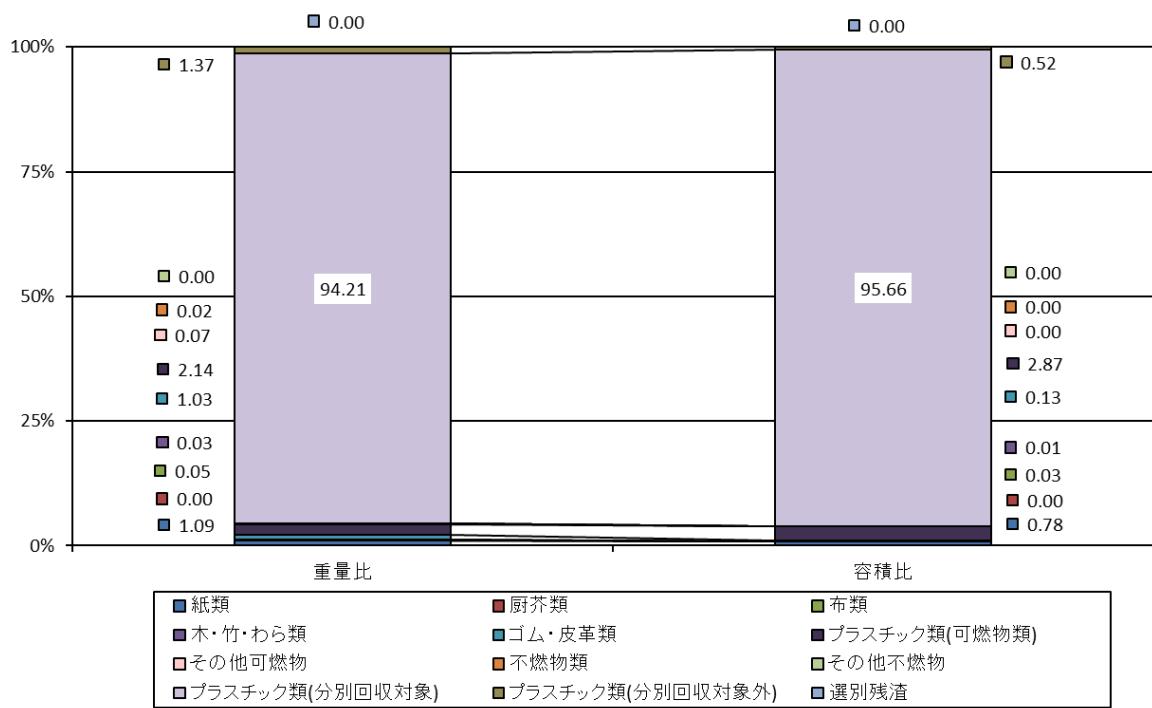


図2-30 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（西部地域：プラスチック資源）

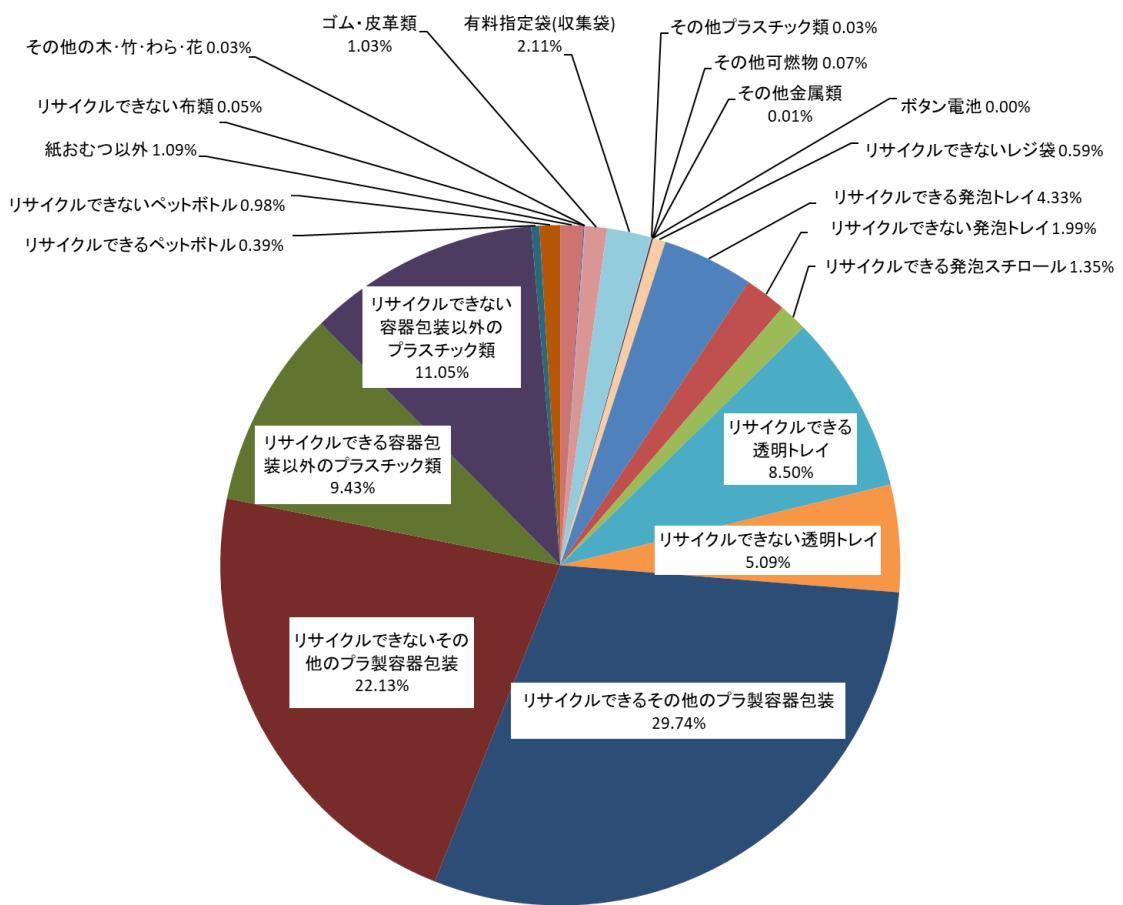


図2-31 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：西部地域）

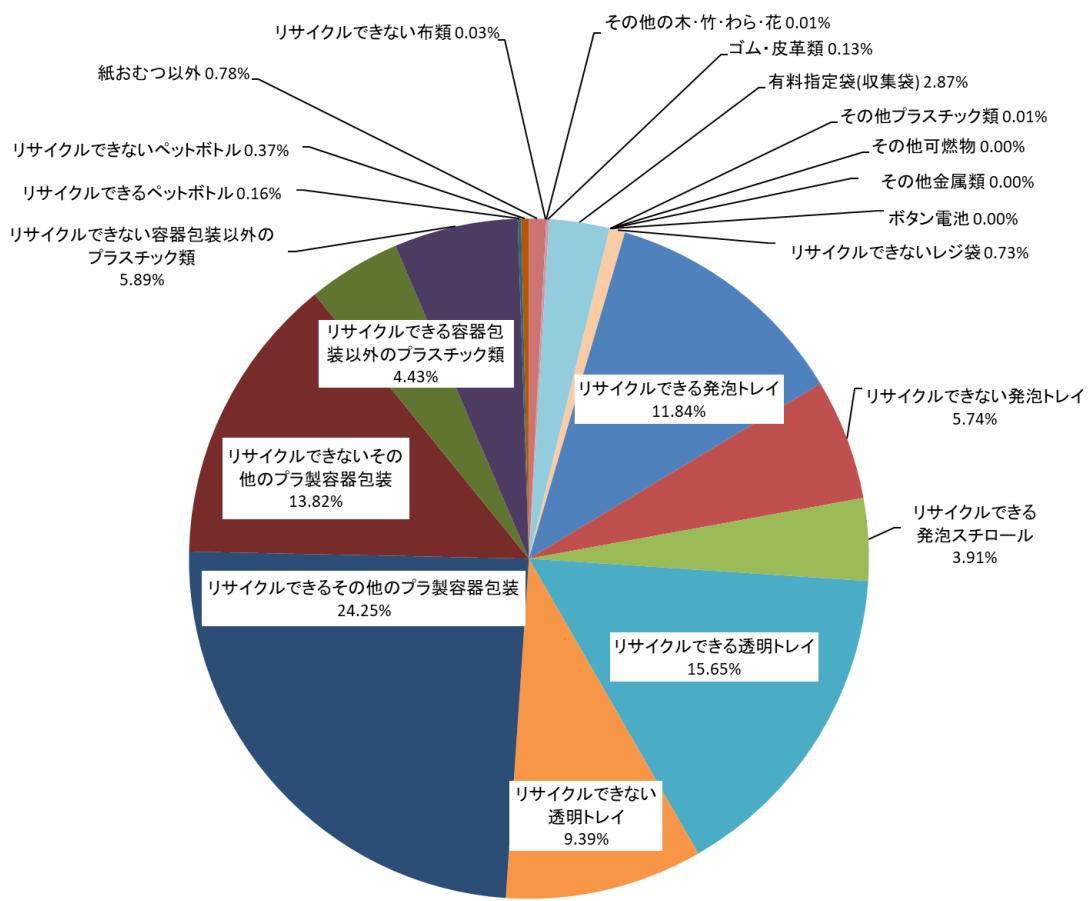


図2-32 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：西部地域）

表 2-16 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果
(西部地域：プラスチック資源)

項目	西部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	
容器包装プラスチック	21.99	1.547	71.78	80.69	
発泡トレイ	1.94	0.337	6.32	17.58	
	リサイクルできる発泡トレイ	1.33	0.227	4.33	11.84
	リサイクルできない発泡トレイ	0.61	0.110	1.99	5.74
透明トレイ	4.17	0.480	13.60	25.04	
	リサイクルできる透明トレイ	2.61	0.300	8.50	15.65
	リサイクルできない透明トレイ	1.56	0.180	5.09	9.39
その他のプラ製容器包装	15.89	0.730	51.87	38.08	
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	9.11	0.465	29.74	24.25
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	6.78	0.265	22.13	13.82
製品プラスチック	6.87	0.287	22.43	14.97	
レジ袋	0.18	0.014	0.59	0.73	
	リサイクルできるレジ袋				
	リサイクルできないレジ袋	0.18	0.014	0.59	0.73
発泡スチロール	0.42	0.075	1.35	3.91	
	リサイクルできる発泡スチロール	0.42	0.075	1.35	3.91
	リサイクルできない発泡スチロール				
容器包装以外のプラスチック類	6.28	0.198	20.48	10.33	
	リサイクルできるもの	2.89	0.085	9.43	4.43
	リサイクルできないもの	3.39	0.113	11.05	5.89
プラスチック資源（非該当）	1.13	0.028	3.69	1.47	
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	0.71	0.018	2.31	0.95	
	ペットボトル	0.42	0.010	1.37	0.52
有料指定袋(収集袋)	0.65	0.055	2.11	2.87	
総合計	30.63	1.917	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

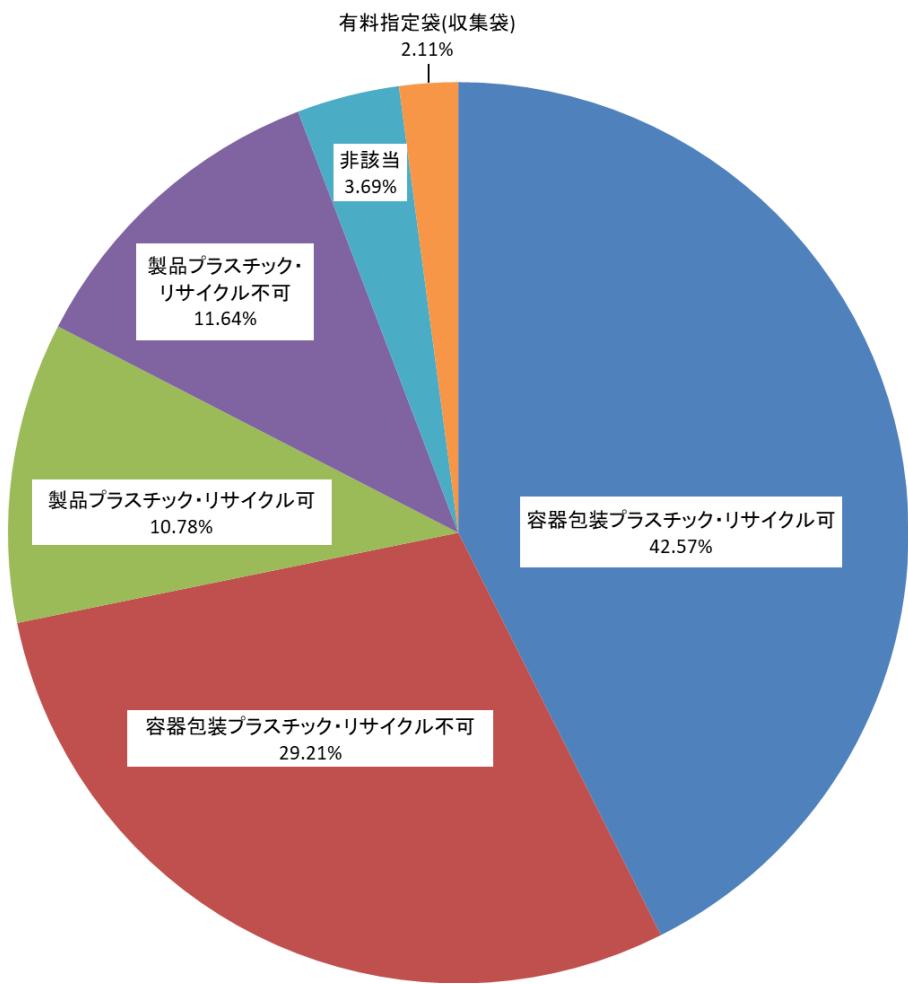


図2-33 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：西部地域）

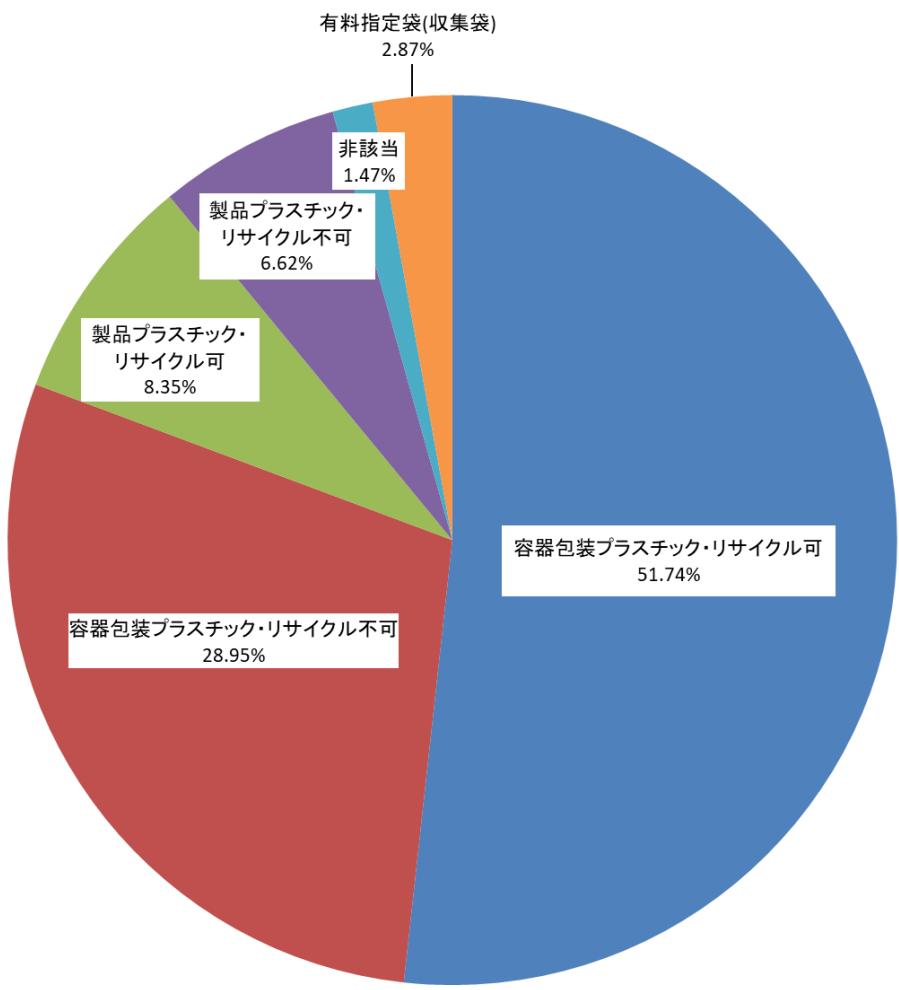


図2-34 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：西部地域）

(3) 東部地域

今回実施した東部地域のプラスチック資源の組成分析調査の調査結果を表 2-17 に示した。東部地域の重量比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象」（91.7%）の 1 種類のみであった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 68.7%、製品プラスチックの割合が約 23.0%であった（表 2-18 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（29.8%）、容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（16.4%）の構成割合が高かった。

次に東部地域の容積比で 10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類（分別回収対象）」（93.1%）の 1 種類であった。

その内訳は、容器包装プラスチックの割合が約 76.2%、製品プラスチックの割合が約 16.9%であった（表 2-18 参照）。個別にみると、容器包装プラスチックでリサイクルできるもの（24.0%）、リサイクルできる透明トレイ（19.5%）、リサイクルできる発泡トレイ（11.5%）容器包装プラスチックでリサイクルできないもの（10.9%）の構成割合が高かった。

図 2-35 に重量比と容積比の比較を示した。重量比、容積比ともにプラスチック類（分別回収対象）の構成割合が高かった。また、プラスチック資源中の各品目の構成比を図 2-36～37 に示した。重量比、容積比ともに容器包装プラスチックでリサイクルできるものの構成割合が高いことがわかった。

次に、プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比を表 2-18、図 2-38～39 に示した。重量比においては、容器包装プラスチック・リサイクル可が 47.2%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 21.4%で 2 番目に多かった。容積比においても、容器包装プラスチック・リサイクル可が 54.9%で最も多く、続いて容器包装プラスチック・リサイクル不可が 21.3%で 2 番目に多かった。

表2-17 組成分析調査結果1（東部地域：プラスチック資源）

項目	東部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
可燃物類(紙類)	-	0.40	0.019	1.30	1.01
飲料用パック（アルミ不使用）	-				
500ml 以上	1				
500ml 未満	2				
ダンボール	3				
新聞紙・チラシ	-				
新聞紙	4				
再利用した新聞紙	5				
チラシ	6				
再利用したチラシ	7				
書籍・雑誌類	8				
雑紙	-				
紙箱類	9				
紙包装類	10				
OA用紙	11				
シュレッダーくず	12				
その他の雑紙	13				
リサイクルできない紙	-	0.40	0.019	1.30	1.01
紙おむつ以外	14	0.40	0.019	1.30	1.01
紙おむつ	15				
可燃物類(厨芥類)	-	0.06	0.0003	0.19	0.02
食品類	-	0.06	0.0003	0.19	0.02
手付かずの食品	16	0.06	0.0003	0.19	0.02
食べ残し	17				
調理くず（可食部分）	18				
調理くず（不可食部分）	19				
食品以外	20				
可燃物類(布類)	-	0.02	0.0001	0.06	0.01
リサイクル可能	21				
リサイクル不可	22	0.02	0.0001	0.06	0.01
可燃物類(木・竹・わら類)	-	0.02	0.00007	0.06	0.00
剪定枝	23				
草	24				
その他	25	0.02	0.00007	0.06	0.00
可燃物類(ゴム・皮革類)	26	0.04	0.0003	0.14	0.02
可燃物類(プラスチック類)	-	1.02	0.075	3.34	4.00
医療系	27	0.37	0.015	1.22	0.80
ゴムを含むもの	28				
有料指定袋(収集袋)	29	0.64	0.060	2.09	3.20
その他プラスチック類	30	0.01	0.00003	0.04	0.00
可燃物類(その他)	31	0.09	0.0004	0.28	0.02

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

表2-17 組成分析調査結果2（東部地域：プラスチック資源）

項目	東部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比・見かけ比重		
	重量(kg)	容積(m³)	重量比(%)	容積比(%)	見かけ比重
不燃物類	-	0.01	0.00009	0.04	0.00
金属類	-	0.01	0.00009	0.04	0.00
スチール缶	32				
スプレー缶	33				
汚れたスチール缶	34				
アルミ缶	35				
汚れたアルミ缶	36				
その他金属類	37	0.01	0.00009	0.04	0.00
ガラス類	-				
リターナブルびん	38				
汚れたリターナブルびん	39				
ワンウェイびん	40				
汚れたワンウェイびん	41				
その他ガラス類	42				
その他	-				
陶磁器類	43				
小型家電製品	44				
複合素材	45				
医療系	46				
乾電池	47				
ボタン電池	48				
リチウム蓄電池	49				
水銀入りの体温計・血圧計	50				
蛍光灯	51				
その他不燃物	52				
プラスチック類(分別回収対象)	-	27.92	1.747	91.68	93.06
レジ袋	-	0.20	0.022	0.64	1.17
リサイクルできるレジ袋	53				
リサイクルできないレジ袋	54	0.20	0.022	0.64	1.17
発泡トレイ	-	1.58	0.275	5.17	14.65
リサイクルできる発泡トレイ	55	1.24	0.215	4.07	11.45
リサイクルできない発泡トレイ	56	0.34	0.060	1.10	3.20
発泡スチロール	-	0.18	0.025	0.59	1.33
リサイクルできる発泡スチロール	57				
リサイクルできない発泡スチロール	58	0.18	0.025	0.59	1.33
透明トレイ	-	5.26	0.500	17.27	26.64
リサイクルできる透明トレイ	59	4.08	0.365	13.38	19.45
リサイクルできない透明トレイ	60	1.19	0.135	3.89	7.19
その他のプラスチック容器包装	-	14.08	0.655	46.22	34.90
その他のプラスチック容器包装でリサイクルできるもの	61	9.07	0.450	29.78	23.97
その他のプラスチック容器包装でリサイクルできないもの	62	5.01	0.205	16.44	10.92
容器包装以外のプラスチック類	-	6.63	0.270	21.77	14.38
リサイクルできるもの	63	2.93	0.135	9.62	7.19
リサイクルできないもの	64	3.70	0.135	12.15	7.19
プラスチック類(分別回収対象外)	-	0.89	0.035	2.93	1.85
ペットボトル	-	0.89	0.035	2.93	1.85
リサイクルできるペットボトル	65	0.41	0.019	1.36	0.99
リサイクルできないペットボトル	66	0.48	0.016	1.57	0.86
選別残渣	67				
総合計		30.45	1.877	100	100

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

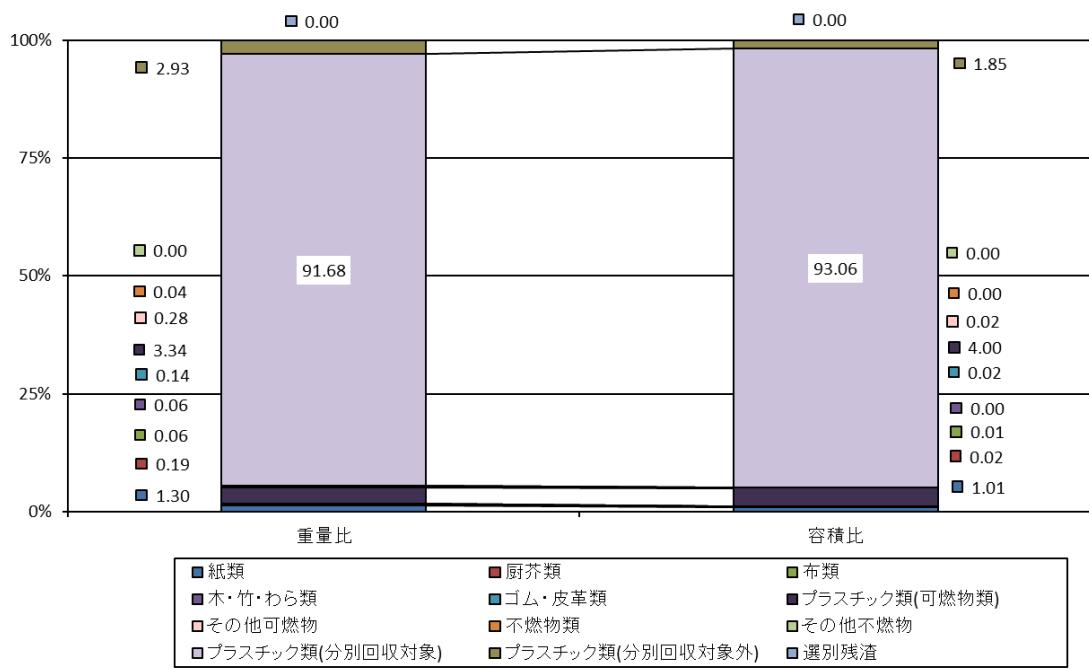


図2-35 重量比と容積比の大分類組成分析調査結果比較（東部地域：プラスチック資源）

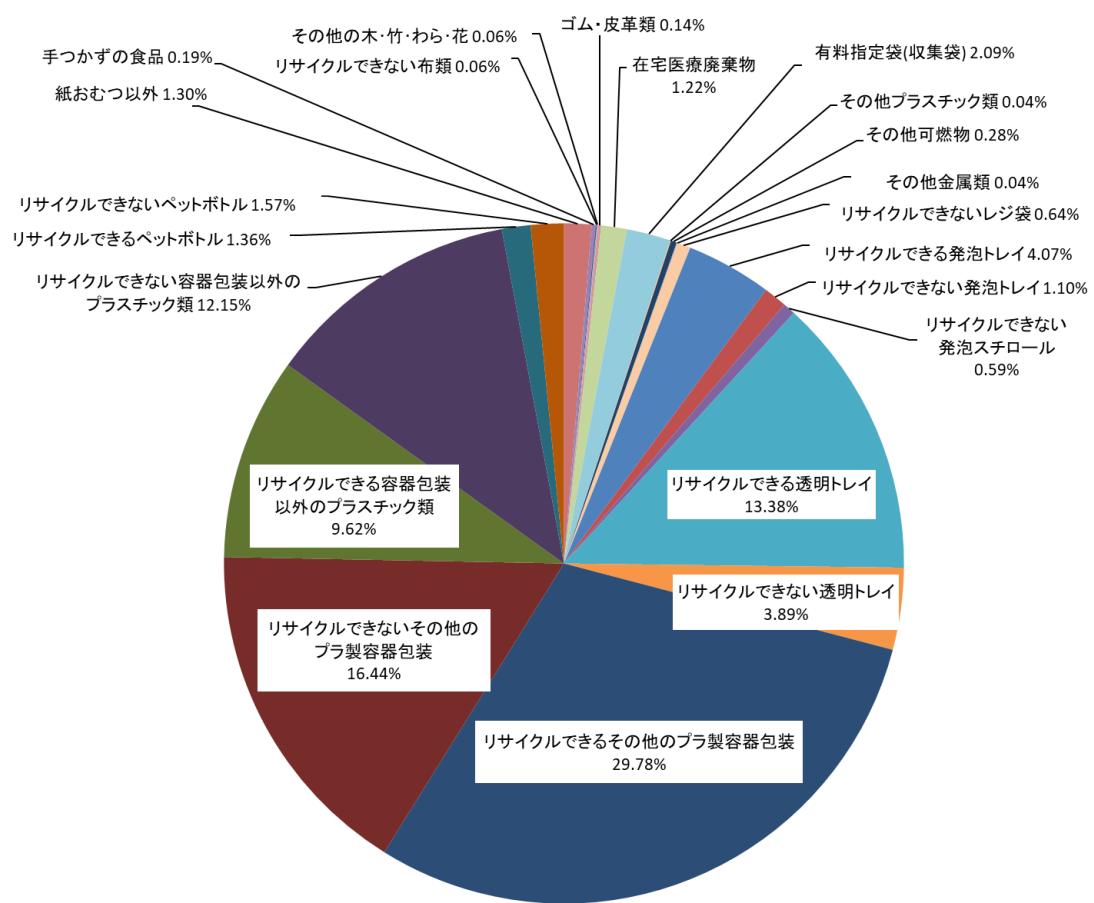


図2-36 プラスチック資源中の各品目の構成比（重量比：東部地域）

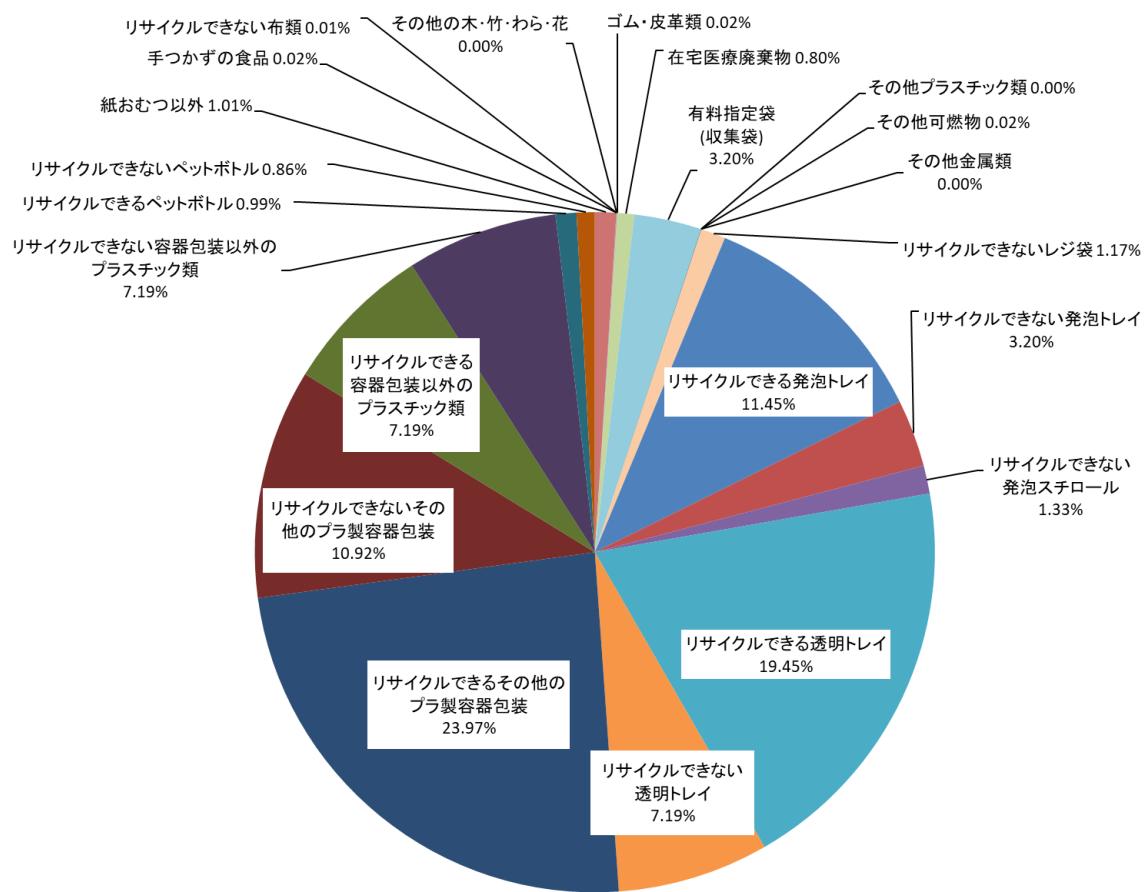


図2-37 プラスチック資源中の各品目の構成比（容積比：東部地域）

表 2-18 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する組成分析調査結果

(東部地域：プラスチック資源)

項目	東部（プラスチック資源）				
	重量・容積		重量比・容積比		
	重量(kg)	容積(m ³)	重量比(%)	容積比(%)	
容器包装プラスチック	20.91	1.430	68.67	76.18	
発泡トレイ	1.58	0.275	5.17	14.65	
	リサイクルできる発泡トレイ	1.24	0.215	4.07	11.45
	リサイクルできない発泡トレイ	0.34	0.060	1.10	3.20
透明トレイ	5.26	0.500	17.27	26.64	
	リサイクルできる透明トレイ	4.08	0.365	13.38	19.45
	リサイクルできない透明トレイ	1.19	0.135	3.89	7.19
その他のプラ製容器包装	14.08	0.655	46.22	34.90	
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	9.07	0.450	29.78	23.97
	その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	5.01	0.205	16.44	10.92
製品プラスチック	7.01	0.317	23.00	16.89	
レジ袋	0.20	0.022	0.64	1.17	
	リサイクルできるレジ袋				
	リサイクルできないレジ袋	0.20	0.022	0.64	1.17
発泡スチロール	0.18	0.025	0.59	1.33	
	リサイクルできる発泡スチロール				
	リサイクルできない発泡スチロール	0.18	0.025	0.59	1.33
容器包装以外のプラスチック類	6.63	0.270	21.77	14.38	
	リサイクルできるもの	2.93	0.135	9.62	7.19
	リサイクルできないもの	3.70	0.135	12.15	7.19
プラスチック資源(非該当)	1.90	0.070	6.25	3.73	
食べ残しなど「プラスチック資源」以外のもの	1.01	0.035	3.32	1.88	
	ペットボトル	0.89	0.035	2.93	1.85
有料指定袋(収集袋)	0.64	0.060	2.09	3.20	
総合計	30.45	1.877	100	100	

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

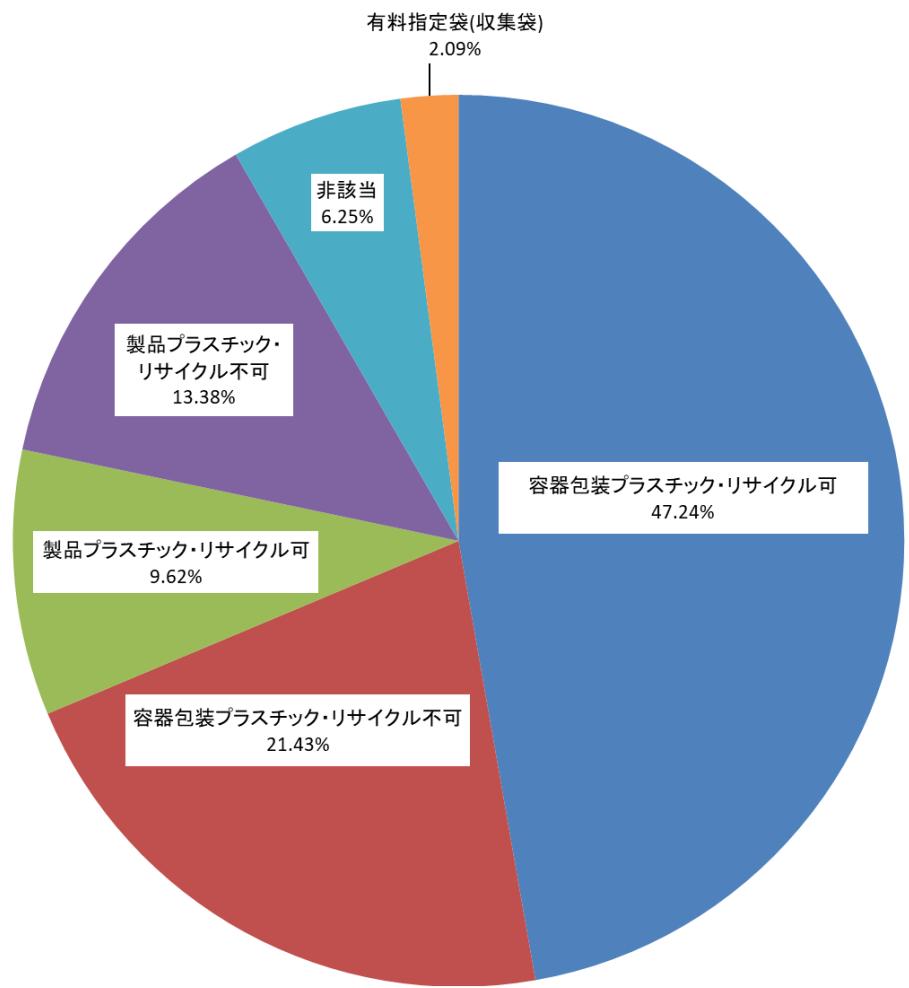


図2-38 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（重量比：東部地域）

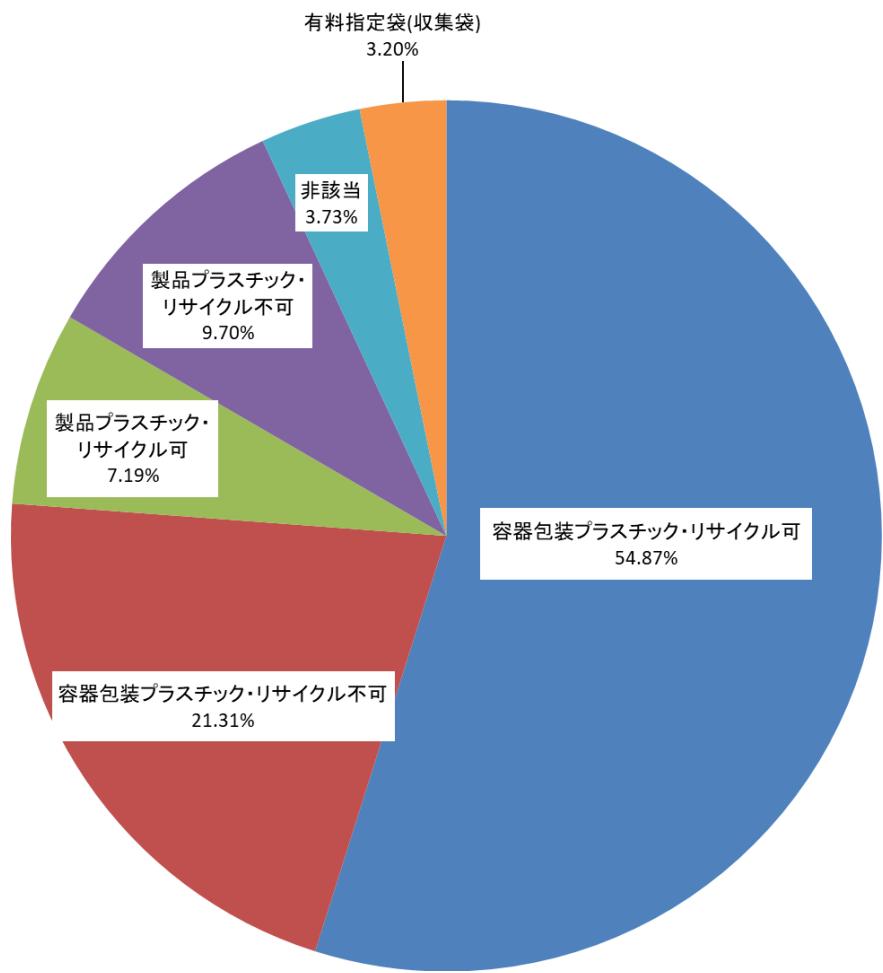


図2-39 プラスチック資源中のリサイクル可否に関する構成比（容積比：東部地域）

(4) プラスチック資源組成調査結果の比較

今回実施した大分類組成分析調査結果を表2-19、図2-40～41に示した。西部、東部、全域で重量比、容積比ともにプラスチック類(分別回収対象)が最も多く、続いて可燃物類のプラスチック類が多かった。

表2-19 大分類組成分析調査結果の比較(プラスチック資源)

分類	項目	全域-プラスチック資源(重量比)(%)			全域-プラスチック資源(容積比)(%)		
		西部	東部	全域	西部	東部	全域
可燃物類	紙類	1.09	1.30	1.20	0.78	1.01	0.90
	厨芥類	0.00	0.19	0.10	0.00	0.02	0.01
	布類	0.05	0.06	0.05	0.03	0.01	0.02
	木・竹・わら類	0.03	0.06	0.04	0.01	0.00	0.01
	ゴム・皮革類	1.03	0.14	0.59	0.13	0.02	0.07
	プラスチック類	2.14	3.34	2.74	2.87	4.00	3.43
	うち 有料指定袋(収集袋)	2.11	2.09	2.10	2.87	3.20	3.03
	その他	0.07	0.28	0.18	0.00	0.02	0.01
不燃物類	不燃物類	0.02	0.04	0.03	0.00	0.00	0.00
	その他(不燃物)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
プラスチック類	分別回収対象	94.21	91.68	92.94	95.66	93.06	94.38
	分別回収対象外	1.37	2.93	2.15	0.52	1.85	1.18
	選別残渣	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	合計	100	100	100	100	100	100

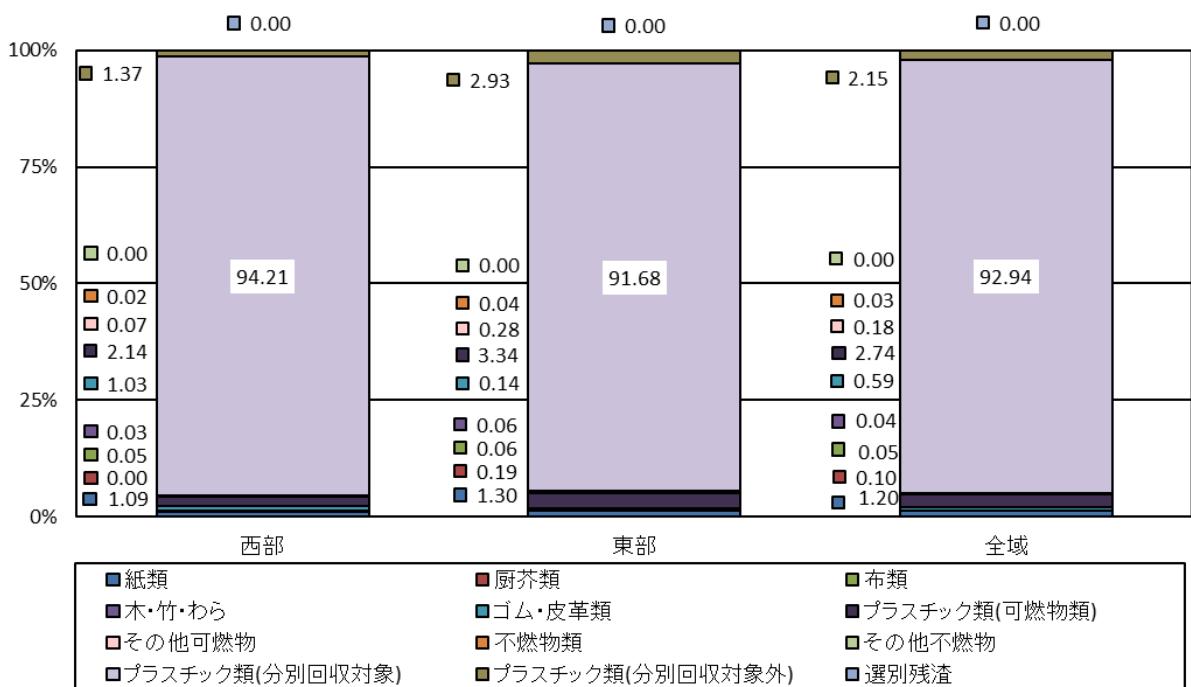


図2-40 大分類組成分析調査結果の比較（重量比：プラスチック資源）

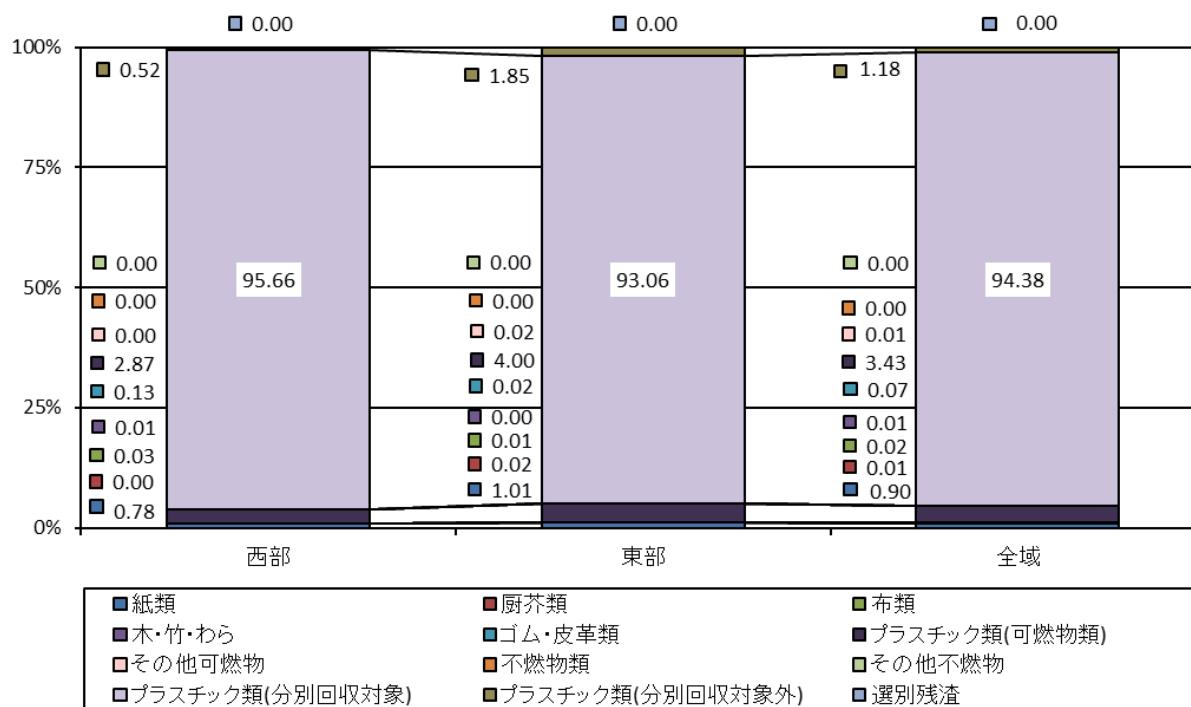


図2-41 大分類組成分析調査結果の比較（容積比：プラスチック資源）

第2節 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみの適正分別の状況把握を行っている。

1 可燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-20、図2-42に示した。

可燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約90.4%（R6:93.5%）、東部地域で約87.3%（R6:94.3%）となっており、本市全域で見ると約88.8%（R6:93.9%）と、適正分別の構成比は減少していた。

可燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約8.0%（R6:5.5%）であり、昨年度の構成比と比較して増加していた。混入している資源化物としては、図2-43に示すように紙箱類の構成比が高かった。混入していた不燃ごみは、本市全域で約3.2%（R6:0.6%）と昨年度と比較して増加していた。

表2-20 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	7.32	8.66	7.99
飲料用紙パック(アルミ不使用)500mℓ以上	0.59	0.30	0.45
ダンボール	0.56	0.07	0.32
新聞紙	0.30	0.65	0.48
チラシ	0.62	0.74	0.68
書籍・雑誌類	0.40	0.00	0.20
紙箱類	3.96	2.60	3.28
紙包装類	0.29	0.07	0.18
OA用紙	0.01	0.15	0.08
シュレッダーくず	0.00	0.39	0.20
その他の雑紙	0.18	0.14	0.16
リサイクルできる布類	0.28	3.34	1.81
スチール缶	0.00	0.00	0.00
スプレー缶	0.00	0.04	0.02
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	0.01	0.05	0.03
乾電池	0.01	0.11	0.06
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.03	0.00	0.01
リサイクルできるその他プラスチック	0.01	0.00	0.01
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.04	0.00	0.02
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	2.25	4.09	3.17
適正な分別(可燃ごみ)	90.43	87.25	88.84
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

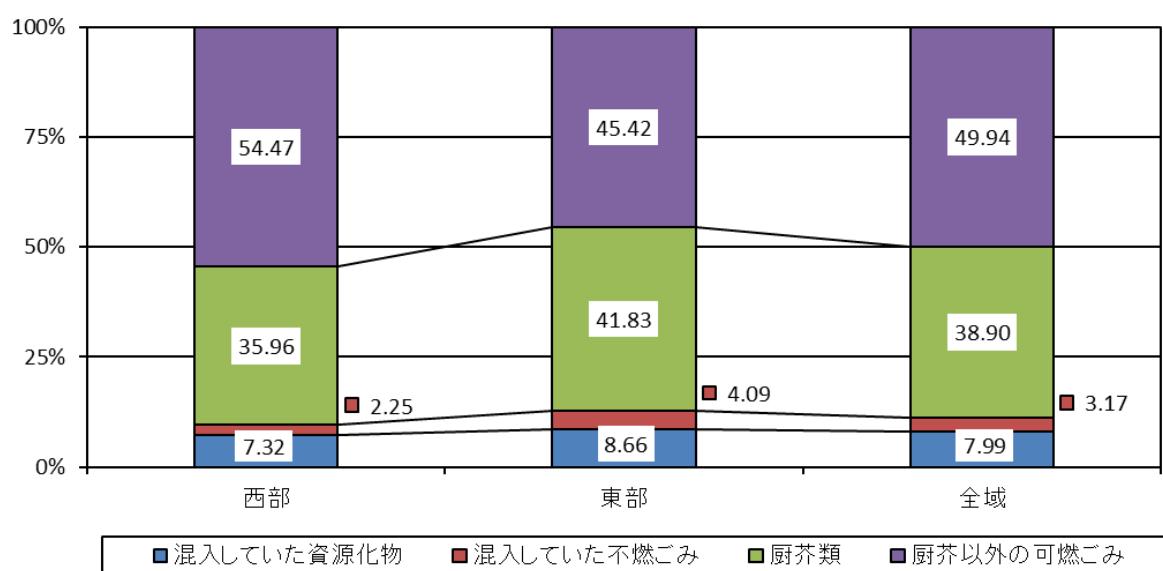


図2-42 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

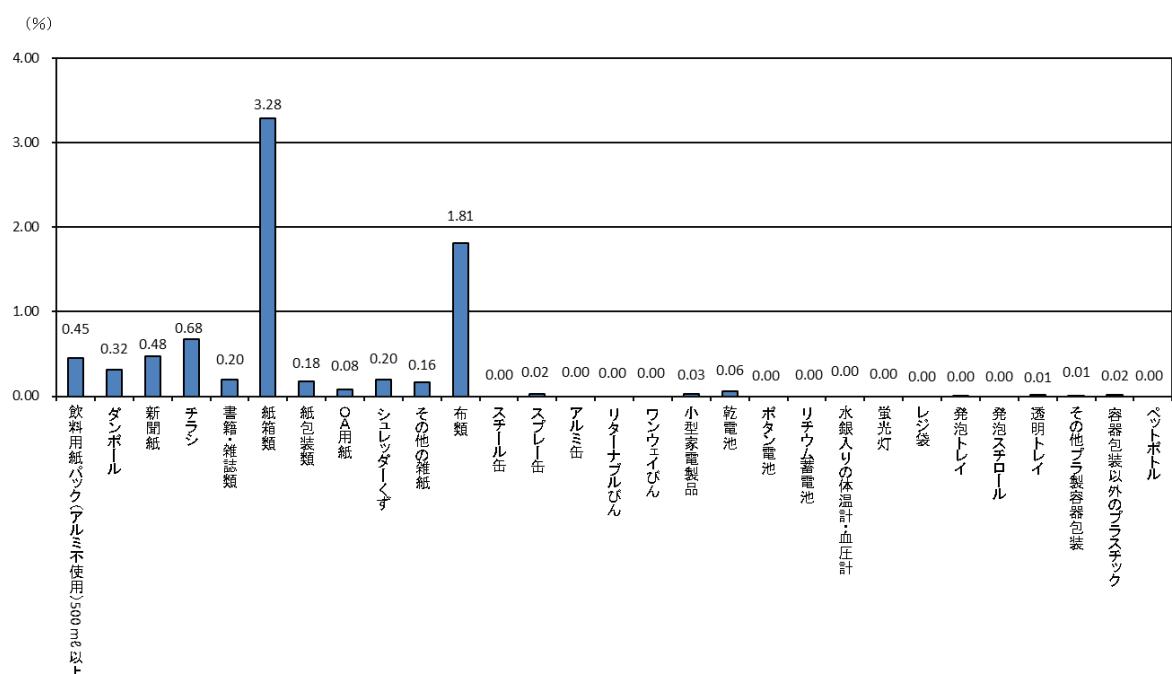


図2-43 可燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

2 不燃ごみの状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況を、表2-21、図2-44に示した。

不燃ごみとして適正に排出されているごみは西部地域で約71.5%（R6:70.8%）、東部地域で約67.9%（R6:63.1%）となっており、本市全域で見ると約69.8%（R6:66.9%）と、適正分別の構成比は増加していた。

不燃ごみに混入していた資源化物の割合は、本市全域で約17.5%（R6:20.2%）であり、昨年度の構成比と比較して減少していた。混入している資源化物としては、図2-45に示すように小型家電製品が主体であった。混入していた可燃ごみは、本市全域で約12.8%（R6:12.8%）と昨年度の構成比と同じだった。

表2-21 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	15.24	19.94	17.46
飲料用紙パック(アルミ不使用)500ml以上	0.02	0.00	0.01
ダンボール	0.04	0.00	0.02
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.12	0.38	0.24
紙包装類	0.13	0.00	0.07
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.14	0.61	0.36
スプレー缶	2.18	0.51	1.39
アルミ缶	0.04	0.46	0.24
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	3.29	1.55
小型家電製品	12.02	12.52	12.26
乾電池	0.42	1.54	0.95
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.03	0.00	0.02
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.04	0.62	0.32
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるその他プラスチック製容器	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.07	0.00	0.03
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた可燃ごみ	13.30	12.14	12.76
適正な分別(不燃ごみ)	71.46	67.92	69.78
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

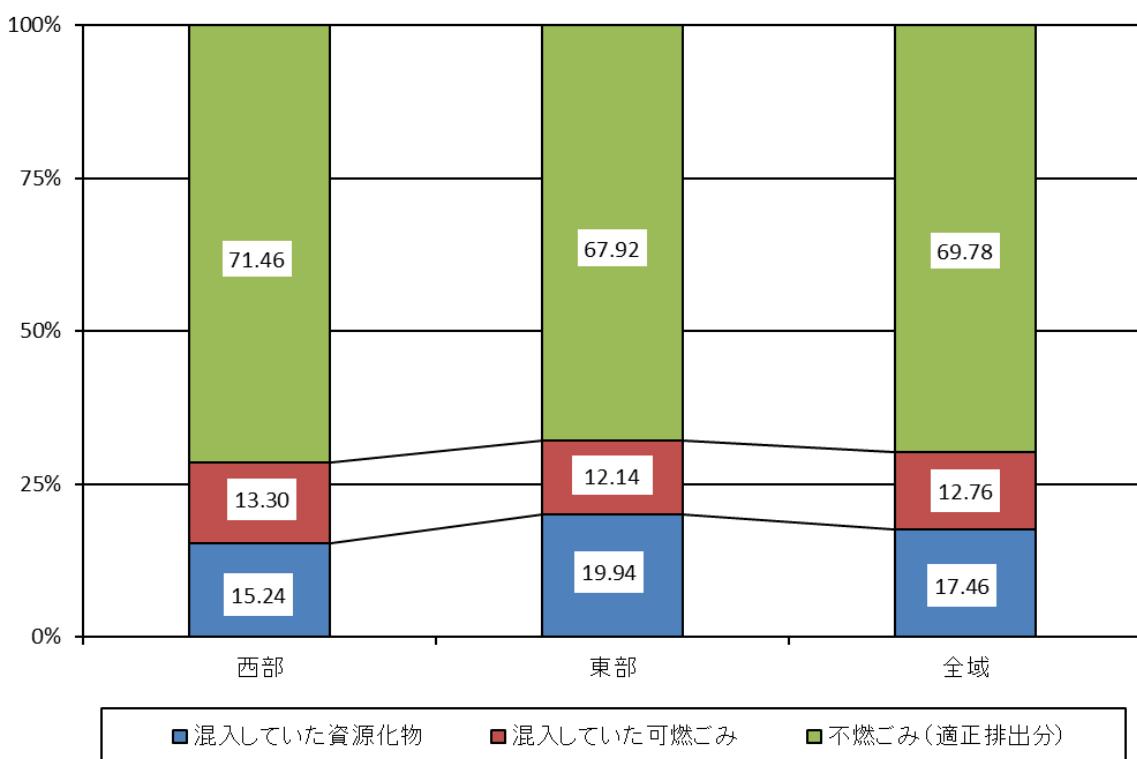


図2-44 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

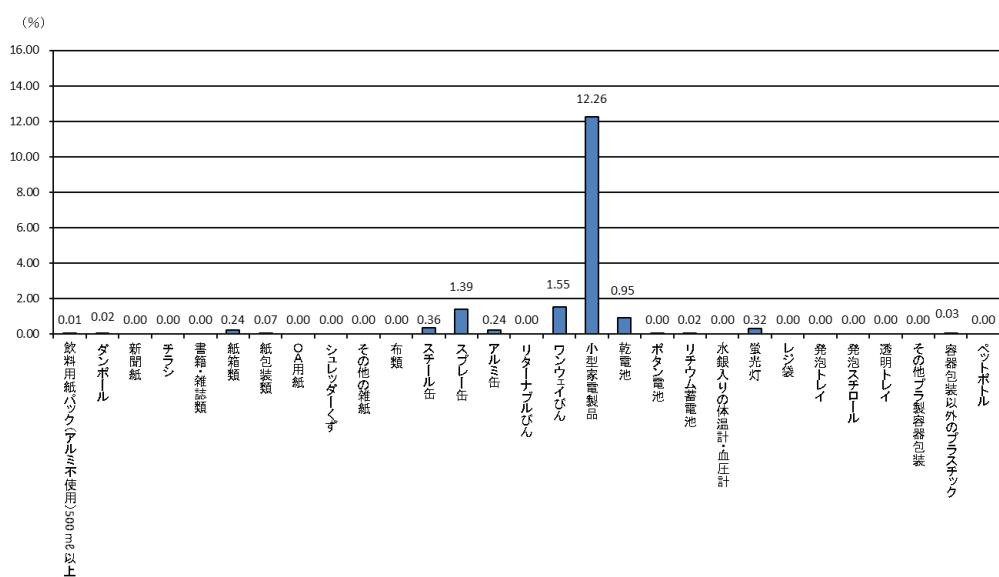


図2-45 不燃ごみに混入していた資源化物の状況（重量比）

3 プラスチック資源の状況把握

西部地域、東部地域及び本市全域のプラスチック資源への区分以外の混入状況を、表2-22、図2-46に示した。

プラスチック資源として適正に排出されている資源は西部地域で約94.2%、東部地域で約91.7%となっており、本市全域で見ると約92.9%であった。

表2-22 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた可燃物類	4.40	5.37	4.88
混入していた不燃物類	0.02	0.04	0.03
混入していたプラスチック類(分別回収対象外)	1.37	2.93	2.15
リサイクルできるペットボトル	0.39	1.36	0.87
リサイクルできないペットボトル	0.98	1.57	1.27
分別対象回収(プラスチック資源)	94.21	91.68	92.94
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできないレジ袋	0.59	0.64	0.61
リサイクルできる発泡トレイ	4.33	4.07	4.20
リサイクルできない発泡トレイ	1.99	1.10	1.55
リサイクルできる発泡スチロール	1.35	0.00	0.68
リサイクルできない発泡スチロール	0.00	0.59	0.29
リサイクルできる透明トレイ	8.50	13.38	10.94
リサイクルできない透明トレイ	5.09	3.89	4.49
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	29.74	29.78	29.76
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	22.13	16.44	19.29
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	9.43	9.62	9.53
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできないもの	11.05	12.15	11.60
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-13、表2-15、表2-17に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

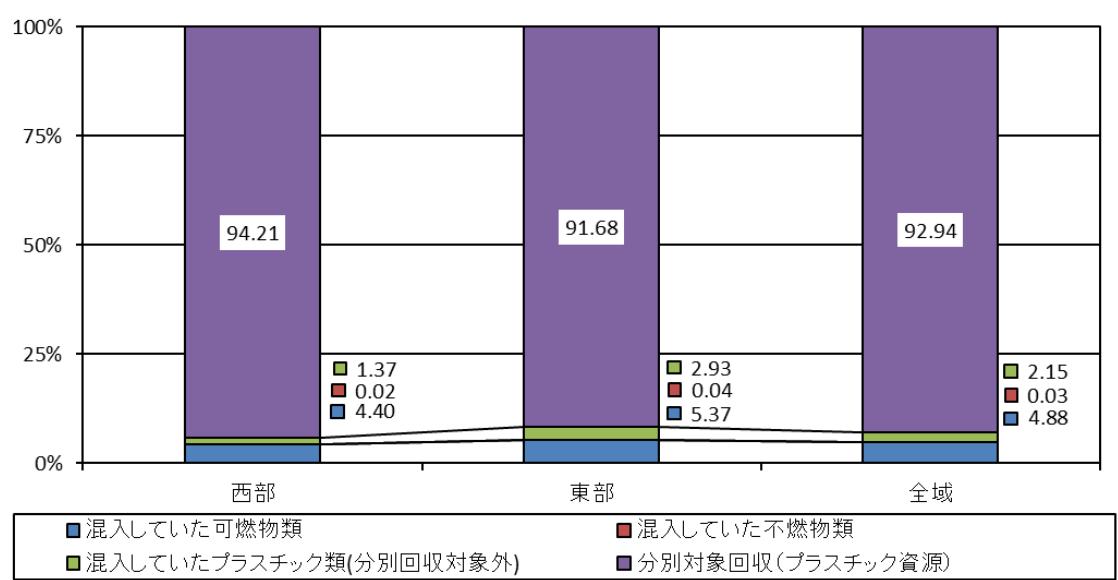


図2-46 プラスチック資源への区分以外のごみの混入状況（重量比）

4 小型家電製品の混入状況

昨年同様に混入していた小型家電製品を個別に調査した。小型家電製品の混入状況を表2-23に示した。今回の調査では、調査全体で121個の小型家電製品が混入していた。

表2-23 小型家電製品の混入状況（1）

番号	主な品名	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
		西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
1	電話機					
2	ファクシミリ					
3	有線通信機					
4	携帯電話端末					3 3
5	PHS端末					
6	無線通信機					
7	ラジオ受信機					
8	テレビ（家電リ法対象品以外）					
9	デジタルカメラ					
10	ビデオカメラ				1	1
11	フィルムカメラ					
12	DVDレコーダ					
13	HDDレコーダ					
14	BDレコーダ					
15	ビデオテープレコーダ					
16	チューナ					
17	映像用機器					
18	携帯音楽プレーヤ					
19	MDプレーヤ					
20	CDプレーヤ					
21	テープレコーダ					
22	ステレオセット					
23	ヘッドホン					
24	イヤホン				1	1
25	ICレコーダ					
26	補聴器					
27	電気音響機器					
28	パーソナルコンピュータ					
29	磁気ディスク装置				1	1
30	光ディスク装置					
31	USBメモリ・メモリーカード				2	2
32	パソコン用パーツ			4	2	6
33	記憶装置					
34	プリンタ					
35	印刷装置					
36	モニター					
37	電子書籍端末					
38	電子辞書					
39	電子式卓上計算機				1	1
40	事務用電気機器					
41	ヘルスメーター				1	1
42	計量用電気機器					
43	測量用電気機器					
44	電子体温計			1		1
45	電子血圧計				1	1
46	電動式吸入器					
47	医療用電気機器					
48	ヘアドライヤー			3		3
49	ヘアアイロン			2	2	4
50	電気かみそり			3	2	5

表2-23 小型家電製品の混入状況（2）

番号	主な品名	可燃ごみ		不燃ごみ		本市全域
		西部地域	東部地域	西部地域	東部地域	
51	電気バリカン			1		1
52	電動歯ブラシ					
53	理容用電気機器			1		1
54	懐中電灯			1	3	4
55	電子時計				1	1
56	電気時計			4	3	7
57	据置型ゲーム機					
58	携帯型ゲーム機					
59	ミニ電子ゲーム					
60	電子玩具					
61	電動式玩具			1	3	1
62	カーナビ					
63	カーテレビ					
64	カーチューナ			2		2
65	カーラジオ					
66	カーコードプレーヤ					
67	カーディスク					
68	カースピーカ			2		2
69	カーアンプ					
70	ETC車載ユニット					
71	ACアダプタ			5	7	12
72	ケーブル・コード	1		12	9	22
73	プラグ・ジャック					
74	充電器				1	1
75	リモコン		1	2	2	5
76	電動ミシン					
77	電気ドリル					
78	電動工具			1		1
79	ジャー炊飯器					
80	電子レンジ					
81	台所用電気機器(家電リ法対象品以外)				4	4
82	扇風機			2		2
83	電気除湿機			1		1
84	空調用電気機器(家電リ法対象品以外)			1	2	3
85	電気アイロン				1	1
86	電気掃除機			2		2
87	衣料用電気機器					
88	衛生用電気機器(家電リ法対象品以外)					
89	電気こたつ					
90	電気ストーブ					
91	保温用電気機器					
92	電気マッサージ器					
93	ランニングマシン					
94	運動用電気機器					
95	電気芝刈機					
96	園芸用電気機器			1	1	2
97	蛍光灯器具(蛍光管を除く本体部分)			1		1
98	電気照明器具(電球を除く本体部分)			1	8	9
99	電子楽器・電気楽器			1		1
100	その他小型家電 ※				1	1
	合 計	1	2	58	60	121

※ 上記以外のもの(例:電動灯油ポンプ)

第3節 容器包装廃棄物の混入状況の把握

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみに混入する容器包装リサイクル法対象廃棄物の混入状況を把握している。

これは、プラスチック資源として排出されているプラスチックのうち容器包装プラスチックは本調査でも約49%（重量比）を占めていること、また容器包装廃棄物は使用後すぐに廃棄されるものが多く、汚れ等を除去し、適正に排出しやすいことから容器包装廃棄物に焦点をあてたものである。

1 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表2-24、図2-47に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約13.9%（R5:12.2%）となっており、令和6年度と比較して増加していた。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、レジ袋、発泡トレイ、発泡スチロール、透明トレイ、その他のプラスチック製容器包装、スチール缶、スプレー缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が可燃ごみに占める割合は、本市全域で約13.9%であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、図2-47に示すように資源化対象としている紙箱類の構成比が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-24 可燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)	構成比(%) (本市全域)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.65	0.41	0.53	3.8	○
ダンボール	0.56	0.07	0.32	2.3	○
紙箱類	3.96	2.60	3.28	23.6	○
紙包装類	0.29	0.07	0.18	1.3	○
ペットボトル	0.78	1.13	0.96	6.9	○
レジ袋	0.66	0.73	0.69	5.0	○
発泡トレイ	0.45	0.32	0.38	2.7	○
発泡スチロール	0.00	0.00	0.00	0.0	○
透明トレイ	0.90	0.70	0.80	5.8	○
その他のプラスチック製容器包装	6.83	5.70	6.26	45.0	○
スチール缶	0.04	0.08	0.06	0.4	○
スプレー缶	0.00	0.04	0.02	0.2	○
アルミ缶	0.03	0.09	0.06	0.4	○
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00	0.0	○
ワンウェイびん	0.16	0.58	0.37	2.7	○
合計	15.32	12.52	13.92	100	-

- ※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。
- ※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は500ml以上と500ml未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 透明トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラスチック製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

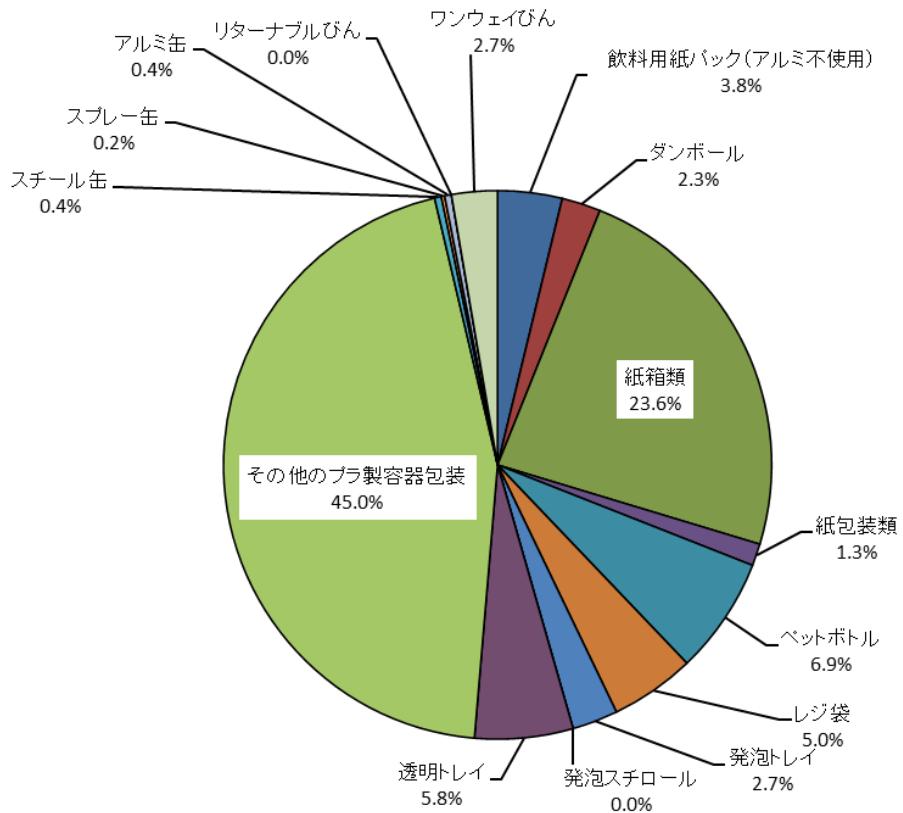


図 2-47 可燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比：本市全域）

2 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の状況

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況を、表 2-25、図 2-48 に示した。

本市における容器包装廃棄物の混入状況としては、本市全域で約 14.7% (R6 : 9.1%) となっており、令和 6 年度と比較して大きく増加していた。

本市が現在資源化対象としている容器包装廃棄物は、飲料用紙パック（アルミ不使用）、ダンボール、紙箱類、紙包装類、ペットボトル、レジ袋、発泡トレイ、発泡スチロール、透明トレイ、その他のプラスチック製容器包装、スチール缶、スプレー缶、アルミ缶、リターナブルびん、ワンウェイびんであり、これらの資源化対象物が不燃ごみに占める割合は、本市全域で約 14.7% であった。

容器包装廃棄物の構成割合としては、図 2-48 に示すようにスチール缶、スプレー缶、ワンウェイびんの構成比が高くなっているため、こうした品目の分別の徹底を図っていく必要があると考えられた。

表2-25 不燃ごみ中の容器包装廃棄物の混入状況（重量比）

項目	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)	構成比(%) (本市全域)	資源化対象
飲料用紙パック(アルミ不使用)	0.02	0.00	0.01	0.1	○
ダンボール	0.04	0.00	0.02	0.1	○
紙箱類	0.12	0.38	0.24	1.6	○
紙包装類	0.13	0.00	0.07	0.5	○
ペットボトル	0.00	0.02	0.01	0.1	○
レジ袋	0.12	0.12	0.12	0.8	○
発泡トレイ	0.00	0.00	0.00	0.0	○
発泡スチロール	0.00	0.00	0.00	0.0	○
透明トレイ	0.00	0.00	0.00	0.0	○
その他のプラスチック製容器包装	0.26	1.80	0.99	6.7	○
スチール缶	1.24	4.45	2.76	18.7	○
スプレー缶	2.18	0.51	1.39	9.5	○
アルミ缶	0.68	0.67	0.68	4.6	○
リターナブルびん	0.00	0.55	0.26	1.7	○
ワンウェイびん	5.08	11.64	8.18	55.6	○
合計	9.87	20.13	14.71	100	-

- ※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。
- ※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。
- ※ 飲料用紙パック（アルミ不使用）は500ml以上と500ml未満の合計値である。
- ※ ペットボトルはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ レジ袋はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 発泡スチロールはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 透明トレイはリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ その他のプラスチック製容器包装はリサイクル可能物と不可能物の合計値である。
- ※ 缶類は汚れた缶類を含む。
- ※ びん類は汚れたびん類を含む。

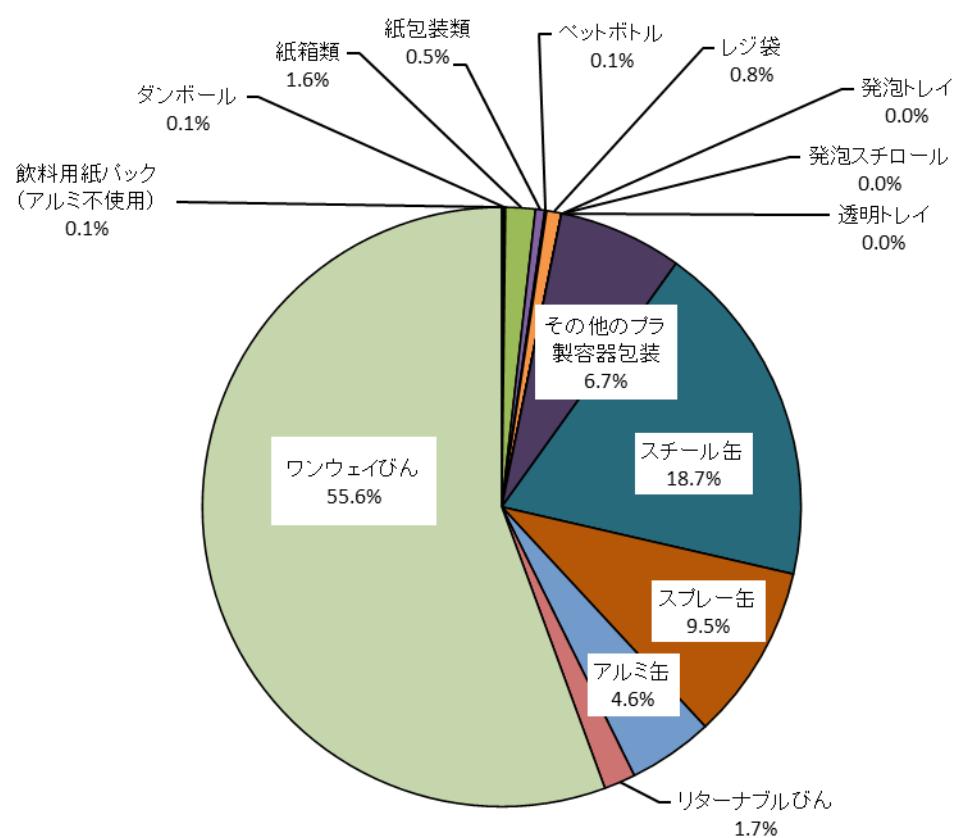


図2-48 不燃ごみ中の容器包装廃棄物に占める各品目の構成比（重量比：本市全域）

第4節 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

本節では、今回の調査結果をもとに可燃ごみ及び不燃ごみ中に混入している再資源化及び減量化が可能なものの全てを抽出し、再資源化や減量化がどの程度可能であるか状況の把握を行った。調査方法としては、汚れのないきれいなものと、汚れているもので組成品目を分類し、実際に再資源化できるかどうかという視点に立った検討を行っている。

1 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表2-26及び図2-49、図2-50に示した。

本市から排出された可燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「紙類」で、全体の約6.0%（R6：4.1%）を占めていた。「紙類」の構成比では、紙箱類の割合が高かった。

可燃ごみのうち再資源化・減量化が可能な分類としては、これまでの調査結果と同様に本市全域の約36.5%（R6：40.3%）を占める「厨芥類」が挙げられる。本分類については、生ごみ処理容器購入費補助制度や、厨芥類の水切りなどの啓発を実施しており、本年度の調査結果は、昨年度と比較して減少していた。

表2-26 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
可燃ごみ	100	100	100
可燃物類（紙類）	33.59	28.74	31.16
再資源化可能なものの割合	6.93	5.12	6.02
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.59	0.30	0.45
ダンボール	0.56	0.07	0.32
新聞紙	0.30	0.65	0.48
チラシ	0.62	0.74	0.68
書籍・雑誌類	0.40	0.00	0.20
紙箱類	3.96	2.60	3.28
紙包装類	0.29	0.07	0.18
OA用紙	0.01	0.15	0.08
シュレッダーくず	0.00	0.39	0.20
その他の雑紙	0.18	0.14	0.16
再資源化不可能なものの割合	26.66	23.62	25.14
可燃物類（厨芥類）	35.96	41.83	38.90
再資源化・減量化が可能なものの割合	33.16	39.83	36.50
手付かずの食品	3.74	6.87	5.31
食べ残し	4.73	8.40	6.57
調理くず（可食部分）	1.19	2.15	1.67
調理くず（不可食部分）	23.50	22.41	22.95
再資源化・減量化が不可能なものの割合	2.80	2.00	2.40
可燃物類（布類）	2.65	4.96	3.81
再資源化可能なものの割合	0.28	3.34	1.81
再資源化不可能なものの割合	2.38	1.62	2.00
可燃物類（木・竹・わら類）	2.14	1.38	1.76
可燃物類（ゴム・皮革類）	0.90	0.48	0.69
可燃物類（プラスチック類）	17.23	14.87	16.05
再資源化可能なものの割合	0.09	0.00	0.04
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.03	0.00	0.01
その他プラスチック製容器包装でリサイクルできるもの	0.01	0.00	0.01
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	0.04	0.00	0.02
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なものの割合	17.14	14.87	16.01
可燃物類（その他）	5.25	3.44	4.34
不燃物類	0.39	1.11	0.75
再資源化可能なものの割合	0.16	0.24	0.20
スチール缶	0.00	0.00	0.00
スプレー缶	0.00	0.04	0.02
アルミニウム缶	0.00	0.00	0.00
その他金属類	0.14	0.04	0.09
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	0.01	0.05	0.03
乾電池	0.01	0.11	0.06
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なものの割合	0.23	0.86	0.55
その他不燃物	1.88	1.92	1.90
選別残渣（その他分類できないもの）	0.00	1.26	0.63

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

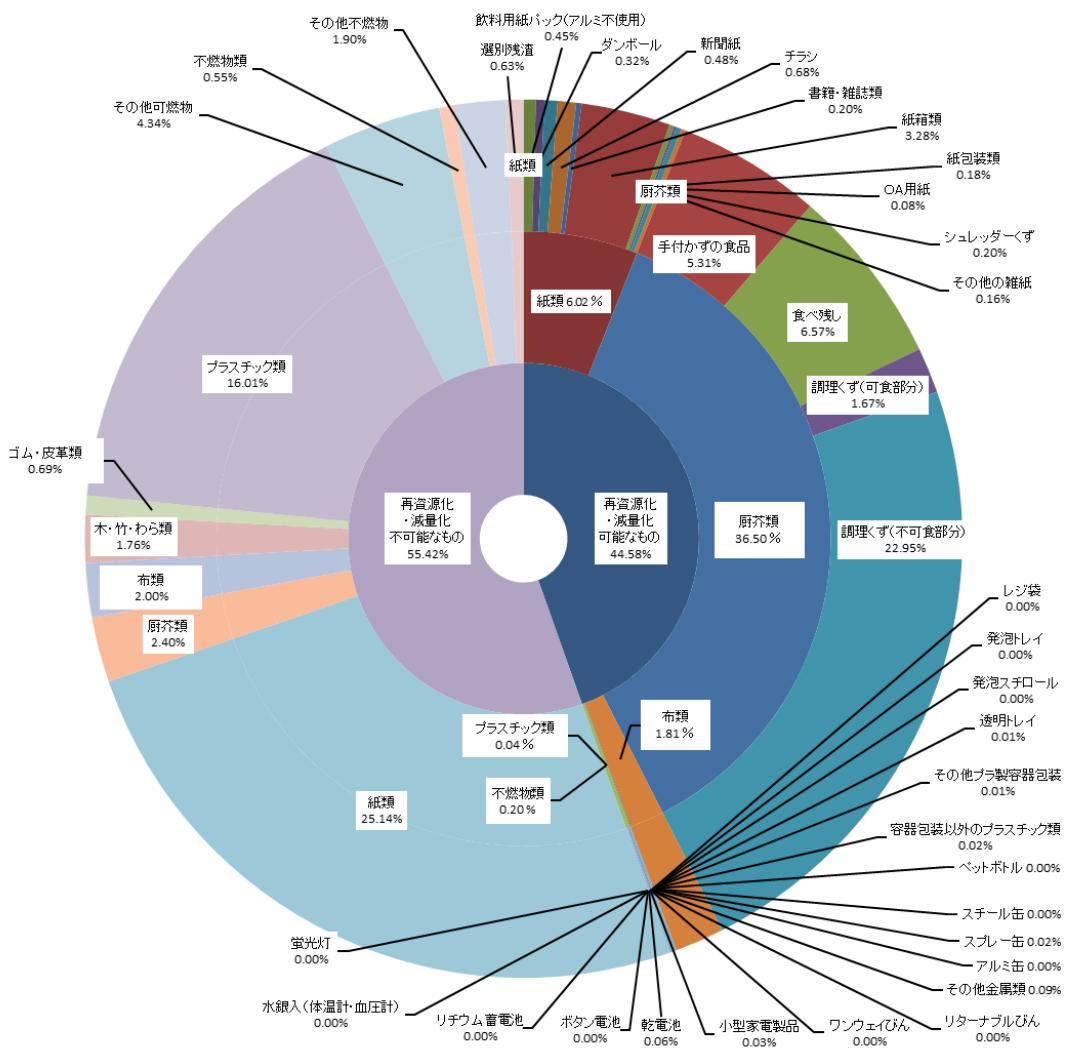


図2-49 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

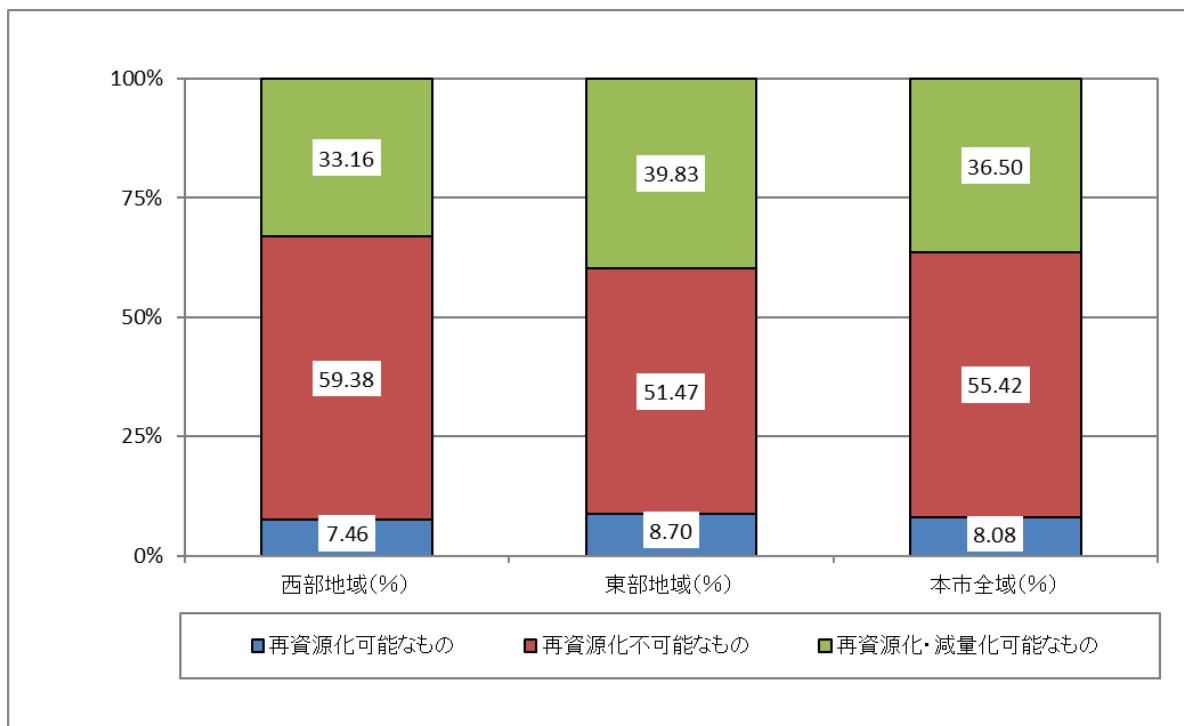


図2-50 可燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

2 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性に関する検討

西部地域、東部地域及び本市全域の不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性を、表2-27及び図2-51、図2-52に示した。

本市から排出された不燃ごみのうちマテリアルリサイクルとして再資源化の可能性が高い分類は「不燃物類」であり、その他金属類、小型家電製品の占める割合が高かった。「不燃物類」の構成比は、全体の約42.5% (R5: 45.0%) を占めていた。「紙類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」のうち再資源化が可能なものの構成比は、それぞれ約0.3% (R6: 0.3%) と約0.0% (R6: 1.1%) であった。

表2-27 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

区分	西部地域 (%)	東部地域 (%)	本市全域 (%)
不燃ごみ	100	100	100
可燃物類（紙類）	0.84	0.94	0.89
再資源化可能なものの割合	0.30	0.38	0.34
飲料用紙パック（アルミ不使用）500ml以上	0.02	0.00	0.01
ダンボール	0.04	0.00	0.02
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.12	0.38	0.24
紙包装類	0.13	0.00	0.07
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なものの割合	0.54	0.56	0.55
可燃物類（厨芥類）	2.87	0.14	1.58
再資源化・減量化が可能なものの割合	2.87	0.14	1.58
手付かずの食品	2.87	0.10	1.56
食べ残し	0.00	0.05	0.02
調理くず（可食部分）	0.00	0.00	0.00
調理くず（不可食部分）	0.00	0.00	0.00
再資源化・減量化が不可能なものの割合	0.00	0.00	0.00
可燃物類（布類）	0.08	0.12	0.10
再資源化可能なものの割合	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なものの割合	0.08	0.12	0.10
可燃物類（木・竹・わら類）	5.61	0.94	3.41
可燃物類（ゴム・皮革類）	0.87	1.01	0.94
可燃物類（プラスチック類）	3.30	9.36	6.16
再資源化可能なものの割合	0.07	0.00	0.03
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
その他プラスチック容器包装でリサイクルできるもの	0.00	0.00	0.00
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	0.07	0.00	0.03
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
再資源化不可能なものの割合	3.24	9.36	6.13
可燃物類（その他）	0.11	0.00	0.06
不燃物類	85.62	80.37	83.14
再資源化可能なものの割合	42.79	42.07	42.45
スチール缶	0.14	0.61	0.36
スプレー缶	2.18	0.51	1.39
アルミニ缶	0.04	0.46	0.24
その他金属類	27.91	22.51	25.36
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	3.29	1.55
小型家電製品	12.02	12.52	12.26
乾電池	0.42	1.54	0.95
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.03	0.00	0.02
水銀入りの体温計・血圧計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.04	0.62	0.32
再資源化不可能なものの割合	42.83	38.30	40.69
その他不燃物	0.67	1.94	1.27
選別残渣（その他分類できないもの）	0.04	5.16	2.46

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

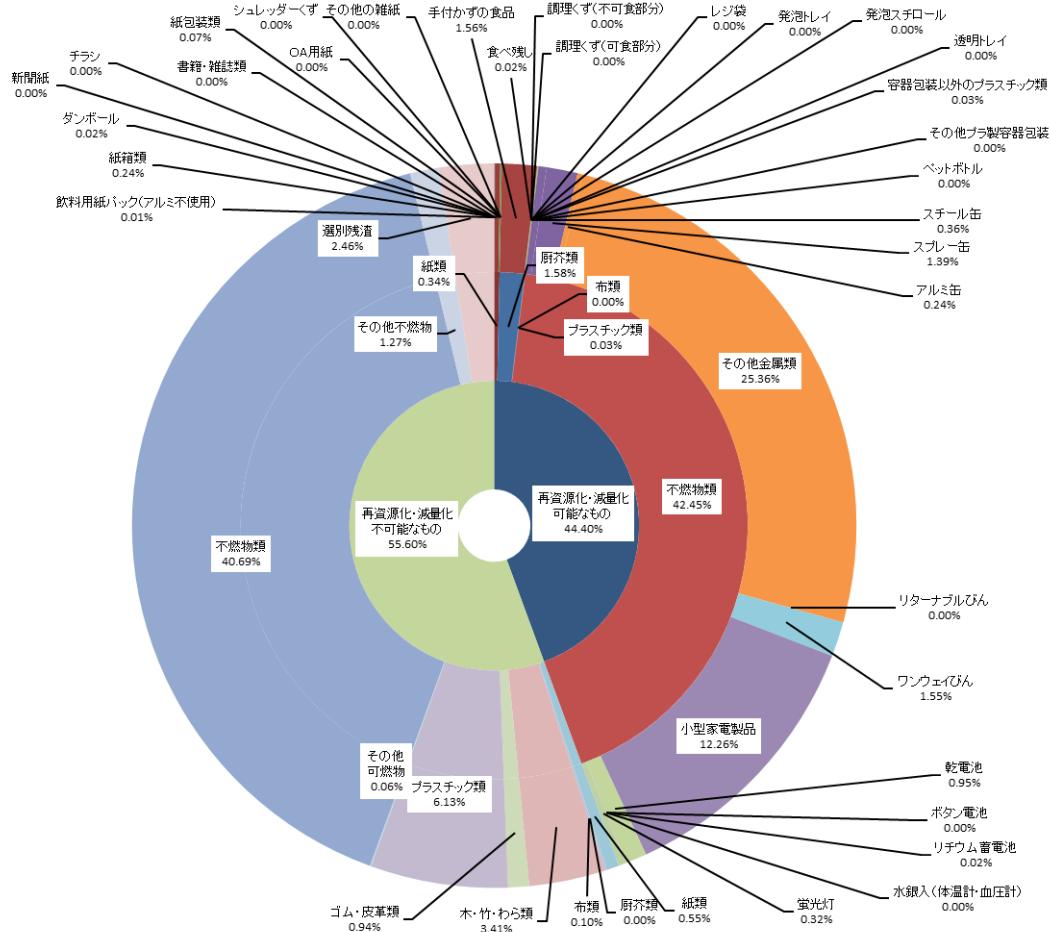


図 2-51 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可否に関する状況（重量比：本市全域）

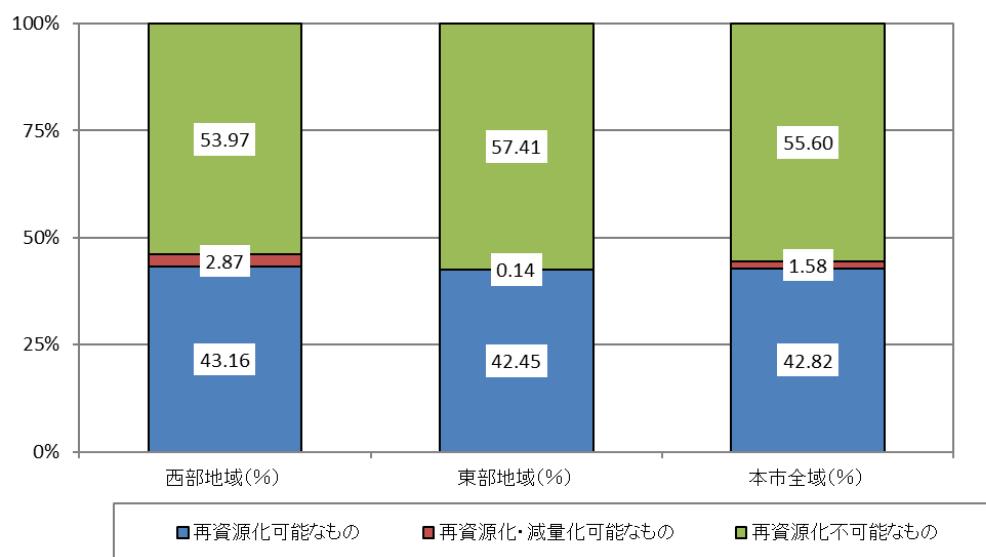


図2-52 不燃ごみ中の再資源化及び減量化の可能性（重量比）

第5節 ごみ袋1袋当たりの投入量等に関する状況把握

本節では、45ℓ（大袋）・30ℓ（中袋）・20ℓ（小袋）・10ℓ（特小袋）・5ℓ（超特小袋）の有料指定袋について、それぞれ1袋当たりの投入量を確認した。

1 可燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

（1）可燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-28に示した。

45ℓ（大袋）1袋につき西部地域では0.8～8.4kg、東部地域では4.2～8.4kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約4.6kgが投入されていた。

30ℓ（中袋）1袋につき西部地域では1.7～6.9kg、東部地域では0.8～10.4kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.7kgが投入されていた。

20ℓ（小袋）1袋につき西部地域では0.3～7.7kg、東部地域では1.5～5.5kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.8kgが投入されていた。

10ℓ（特小袋）1袋につき西部地域では0.4～5.0kg、東部地域では0.4～2.7kgの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.7kgが投入されていた。

5ℓ（超特小袋）1袋につき西部地域では0.4～2.7kg、東部地域で0.5～3.0kgの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.2kgが投入されていた。

次に、図2-53に可燃ごみの投入量の分布状況を示した。45ℓ（大袋）については4～5kg以上、30ℓ（中袋）については2～3kg、20ℓ（小袋）については2～3kg、10ℓ（特小袋）については1～2kg、5ℓ（超特小袋）については1kg未満の投入が主となっていた。

表2-28 可燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部								
袋の数(袋)	12	8	20	15	19	20	17	19	15	8
総重量(kg)	45.68	46.21	65.38	64.86	48.87	59.95	33.67	28.69	17.15	11.20
1袋当たりの重量(kg/袋)	3.81	5.78	3.27	4.32	2.57	3.00	1.98	1.51	1.14	1.40
備考	(市域全体) 4.59kg/袋		(市域全体) 3.72kg/袋		(市域全体) 2.79kg/袋		(市域全体) 1.73kg/袋		(市域全体) 1.23kg/袋	

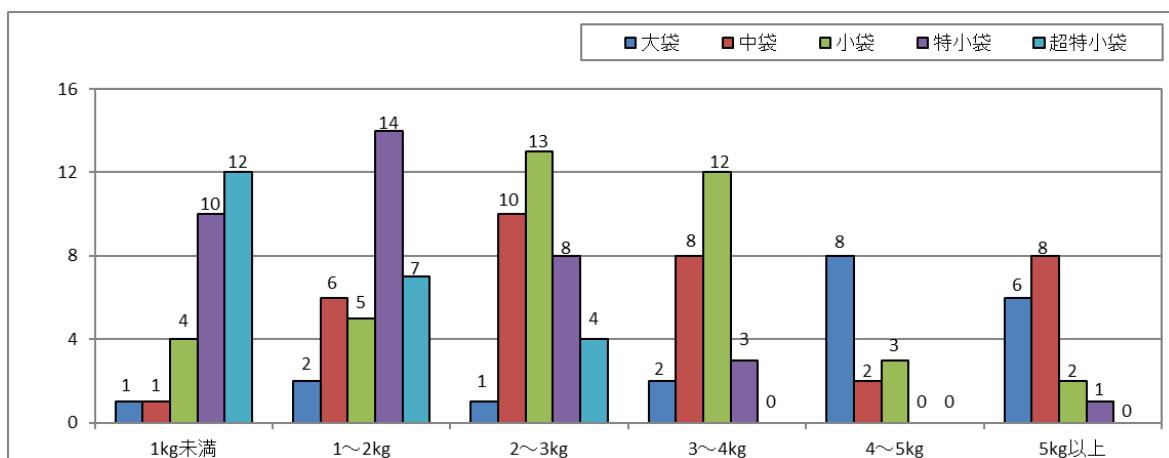


図2-53 可燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 可燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の可燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-29に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地域では40~70ℓ、東部地域では45~70ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約56.8ℓが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地域では30~50ℓ、東部地域では20~45ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約35.9ℓが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地域では14~30ℓ、東部地域では15~30ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約24.7ℓが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地域では5~15ℓ、東部地域では5~15ℓの範囲で可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約11.3ℓが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地域では5~8ℓ、東部地域では5~8ℓの可燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.7ℓが投入されていた。

次に、図2-54に可燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)については50ℓ以上、30ℓ(中袋)については30~40ℓ、20ℓ(小袋)については20~30ℓ、10ℓ(特小袋)については10ℓ未満、5ℓ(超特小袋)については10ℓ未満の投入が主体となっていた。

表2-29 可燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	12	8	20	15	19	20	17	19	15	8
総容量(ℓ)	690	445	740	515	489	476	194	214	105	50
1袋当たりの容量(ℓ/袋)	57.50	55.63	37.00	34.33	25.74	23.80	11.41	11.26	7.00	6.25
備考	(市域全体) 56.75ℓ/袋		(市域全体) 35.86ℓ/袋		(市域全体) 24.74ℓ/袋		(市域全体) 11.33ℓ/袋		(市域全体) 6.74ℓ/袋	

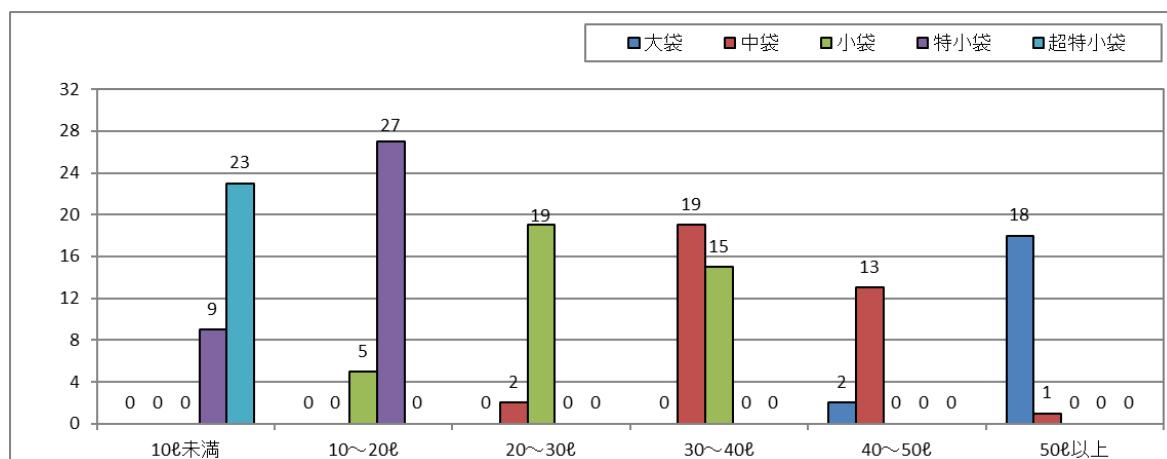


図2-54 可燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

2 不燃ごみの1袋当たりの投入量・投入容量

(1) 不燃ごみの1袋当たりの投入量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入量の状況を、表2-30に示した。

45ℓ(大袋)1袋につき西部地域では0.8~7.9kg、東部地域では2.9~10.9kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.3kgが投入されていた。

30ℓ(中袋)1袋につき西部地域では2.7~7.6kg、東部地域では1.9~8.3kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約5.1kgが投入されていた。

20ℓ(小袋)1袋につき西部地域では0.7~10.4kg、東部地域では0.7~4.5kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約3.6kgが投入されていた。

10ℓ(特小袋)1袋につき西部地域では0.2~4.2kg、東部地域では0.6~4.3kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約2.2kgが投入されていた。

5ℓ(超特小袋)1袋につき西部地域では0.6~2.8kg、東部地域では0.4~3.2kgの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約1.5kgが投入されていた。

次に、図2-55に不燃ごみの投入量の分布状況を示した。45ℓ(大袋)、30ℓ(中袋)については5kg以上、20ℓ(小袋)については2~3kg、10ℓ(特小袋)については1kg未満、5ℓ(超特小袋)については1~2kgの投入が主体となっていた。

表2-30 不燃ごみ1袋当たりの投入量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部								
袋の数(袋)	5	7	10	6	14	18	17	17	7	14
総重量(kg)	25.70	49.63	55.02	26.82	62.41	51.18	43.87	31.25	11.47	19.06
1袋当たりの重量(kg/袋)	5.14	7.09	5.50	4.47	4.46	2.84	2.58	1.84	1.64	1.36
備考	(市域全体) 6.28kg/袋		(市域全体) 5.11kg/袋		(市域全体) 3.55kg/袋		(市域全体) 2.21kg/袋		(市域全体) 1.45kg/袋	

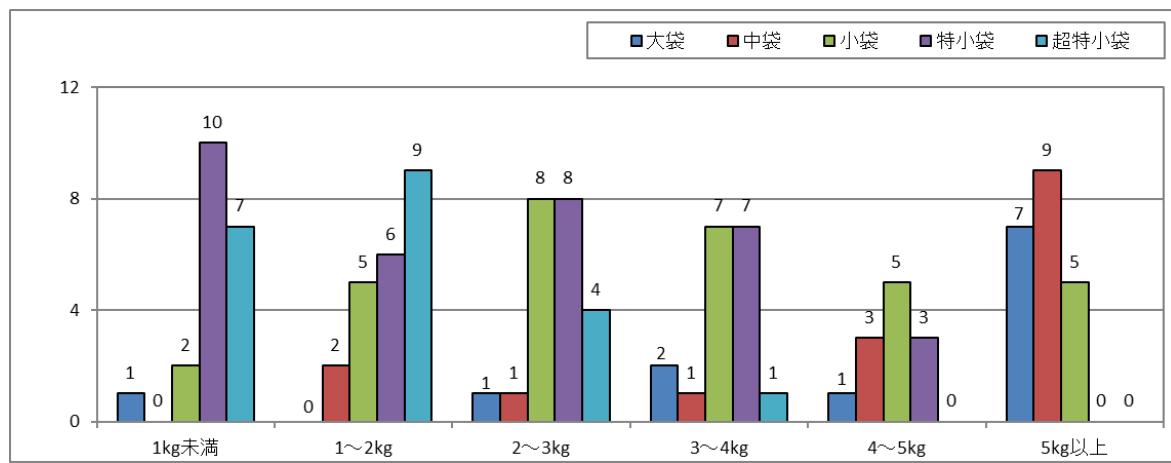


図2-55 不燃ごみ1袋当たりの投入量の分布状況

(2) 不燃ごみの1袋当たりの投入容量

西部地域及び東部地域の不燃ごみ1袋当たりの投入容量の状況を、表2-31に示した。

45ℓ（大袋）1袋につき西部地域では20～60ℓ、東部地域では20～60ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約43.3ℓが投入されていた。

30ℓ（中袋）1袋につき西部地域では25～45ℓ、東部地域では25～45ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約34.7ℓが投入されていた。

20ℓ（小袋）1袋につき西部地域では5～35ℓ、東部地域では7～30ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約23.4ℓが投入されていた。

10ℓ（特小袋）1袋につき西部地域では2～20ℓ、東部地域では4～20ℓの範囲で不燃ごみが投入されており、本市全域で1袋当たり約10.5ℓが投入されていた。

5ℓ（超特小袋）1袋につき西部地域では3～8ℓ、東部地域では2～10ℓが投入されており、本市全域で1袋当たり約6.2ℓが投入されていた。

次に、図2-56に不燃ごみの投入容量の分布状況を示した。45ℓ（大袋）については50ℓ以上、30ℓ（中袋）については40～50ℓ、20ℓ（小袋）については20～30ℓ、10ℓ（特小袋）については10～20ℓ、5ℓ（超特小袋）については10ℓ未満の投入が主であった。

表2-31 不燃ごみ1袋当たりの投入容量

項目	大袋		中袋		小袋		特小袋		超特小袋	
	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部	西部	東部
袋の数(袋)	5	7	10	6	14	18	17	17	7	14
総容量(ℓ)	230	290	365	190	357	392	189	168	40	90
1袋当たりの容量(ℓ/袋)	46.00	41.43	36.50	31.67	25.50	21.78	11.12	9.88	5.71	6.43
備考	(市域全体) 43.33ℓ/袋		(市域全体) 34.69ℓ/袋		(市域全体) 23.41ℓ/袋		(市域全体) 10.50ℓ/袋		(市域全体) 6.19ℓ/袋	

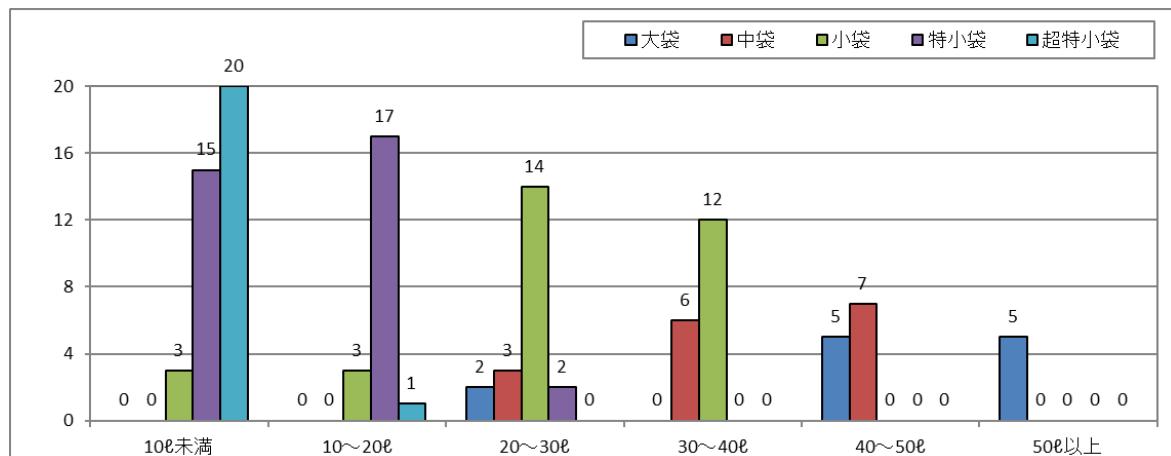


図2-56 不燃ごみ1袋当たりの投入容量の分布状況

3 プラスチック資源の1袋当たりの投入量・投入容量

(1) プラスチック資源の1袋当たりの投入量

今回実施した本市全域のプラスチック資源の投入量の調査結果を表2-32に示した。また、西部、東部のプラスチック資源の袋の個数を図2-57、プラスチック資源の投入量の状況を図2-58にそれぞれ示した。

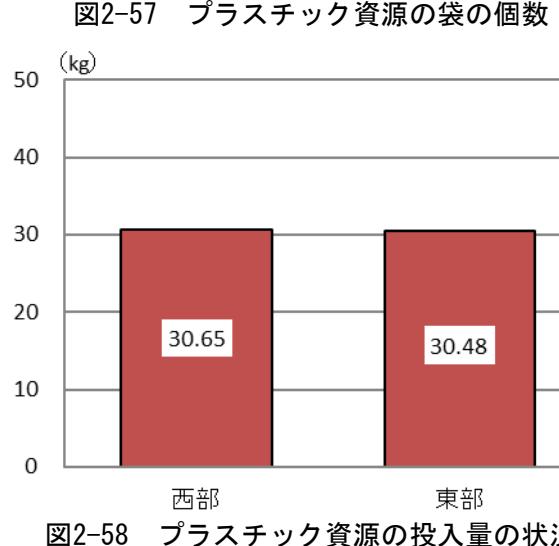
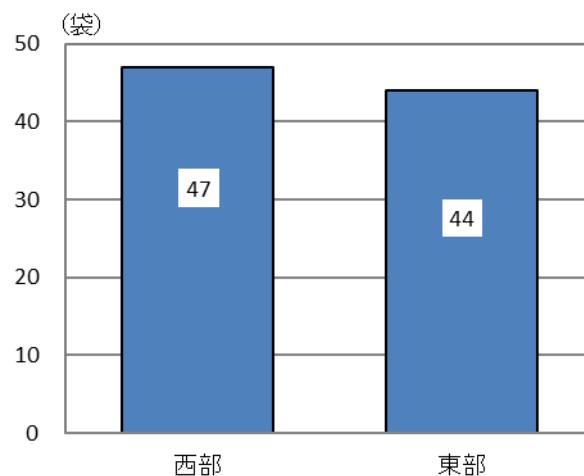
プラスチック資源の袋の調査個数は、西部47袋、東部44袋、全域で91袋であった。

プラスチック資源の調査総重量は、西部30.65kg、東部30.48kg、全域で61.13kgであった。

プラスチック資源の1袋当たりの重量は、西部0.65kg、東部0.69kg、全域で0.67kgであった。

表2-32 プラスチック資源の1袋当たりの投入量

項目	西部	東部	全域
袋の数(袋)	47	44	91
総重量(kg)	30.65	30.48	61.13
1袋当たりの重量(kg/袋)	0.65	0.69	0.67



(2) プラスチック資源の1袋当たりの投入容量

今回実施した本市全域のプラスチック資源の投入容量の調査結果を表2-33に示した。

また、西部、東部のプラスチック資源の投入容量の状況を図2-59に示した。

プラスチック資源の調査総容量は、西部1,742ℓ、東部1,558ℓ、全域で3,300ℓであった。

プラスチック資源の1袋当たりの容量は、西部37.06ℓ、東部35.41ℓ、全域で36.26ℓであった。

表2-33 プラスチック資源の1袋当たりの投入容量

項目	西部	東部	全域
袋の数(袋)	47	44	91
総容量(L)	1,742	1,558	3,300
1袋当たりの容量(L/袋)	37.06	35.41	36.26

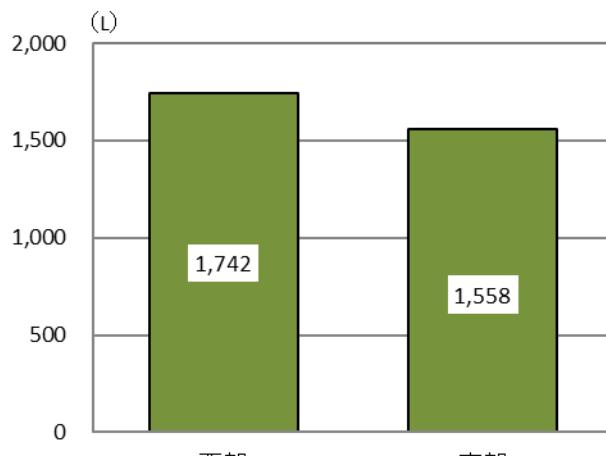


図2-59 プラスチック資源の投入量の状況

家庭ごみ組成分析調査結果の総括

第3章 家庭ごみ組成分析調査結果の総括

今回実施した調査分析結果の総括を以下に整理した。

1 地域的なごみの排出特性の把握

可燃ごみの重量比については、西部地域では「その他可燃物」、「紙類」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。東部地域では、「布類」、「その他不燃物」の構成比が増加し、「紙類」、「厨芥類」の構成比が減少していた。

不燃ごみの重量比については、西部地域では「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。東部地域では「その他可燃物」の構成比が減少していた。

本市全域の可燃ごみ及び不燃ごみの排出特性としては、可燃ごみでは「その他不燃物」、「その他可燃物」の構成比が増加し、「厨芥類」、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。不燃ごみでは「木・竹・わら類」の構成比が増加し、「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少していた。

可燃ごみ、不燃ごみともに「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が減少しており、令和6年3月から始めたプラスチック資源の分別回収の効果が見られた。

2 現行の分別区分に対する適正分別の状況把握

本市における分別状況において、可燃ごみの調査結果（88.8%）は、令和6年度の調査結果（R6:93.9%）と比較して適正分別に関する構成比が減少していた。また、混入していた資源化物の構成比が約8.0%（R6:5.5%）と増加しており、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。可燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約8.0%、不燃ごみが約3.2%となっていた。（表3-1、図3-1参照）

不燃ごみの調査結果（69.8%）は、令和6年度の調査結果（R6:66.9%）と比較して適正分別に関する構成比が増加していた。また、混入していた資源化物の構成比が約17.5%（R6:20.2%）と減少しているが、今後も適正分別に関する啓発活動を継続していく必要があると考えられる。不燃ごみに混入していた不適正な分別区分の内訳としては、資源化物が約17.5%、可燃ごみが約12.8%となっていた。（表3-2、図3-2参照）

令和 6 年 3 月から回収を始めたプラスチック資源の調査結果（92.9%）は、令和 6 年度の調査結果（R6:92.5%）と比較して適正分別に関する構成比がわずかに増加していた。プラスチック資源に混入していた不適正な分別区分の内訳としては、可燃物類が約 4.9%、分別対象外のプラスチック類が約 2.2%となっていた。（表 3-3、図 3-3 参照）

プラスチック資源として適正に排出された 92.9% の割合は容器包装プラスチック（70.2%）、製品プラスチック（22.7%）であった。

プラスチック資源の排出は概ね適正になされていたが、その内訳を見ると汚れの除去等が不十分なものがあるという結果となった。

これは、食べ残しなどの厨芥類が投入されていた（表 2-14 参照）ことで他のきれいなプラスチックを汚してしまいリサイクル対象とできなかった、規格を上回るサイズの製品プラスチックの混入があったなどが原因として考えられるが、プラスチック資源のリサイクルにおける洗浄の重要性等について啓発の必要があると言える。

本調査において、プラスチック資源は分別回収開始してから 2 回目の調査なので排出動向を引き続き注視していく予定である。

表3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	7.32	8.66	7.99
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 ml以上	0.59	0.30	0.45
ダンボール	0.56	0.07	0.32
新聞紙	0.30	0.65	0.48
チラシ	0.62	0.74	0.68
書籍・雑誌類	0.40	0.00	0.20
紙箱類	3.96	2.60	3.28
紙包装類	0.29	0.07	0.18
OA用紙	0.01	0.15	0.08
シュレッダーくず	0.00	0.39	0.20
その他の雑紙	0.18	0.14	0.16
リサイクルできる布類	0.28	3.34	1.81
スチール缶	0.00	0.00	0.00
スプレー缶	0.00	0.04	0.02
アルミ缶	0.00	0.00	0.00
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	0.00	0.00
小型家電製品	0.01	0.05	0.03
乾電池	0.01	0.11	0.06
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.00	0.00	0.00
水銀入りの体温計・血压計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.01	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.03	0.00	0.01
リサイクルできるその他プラスチック容器包装	0.01	0.00	0.01
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.04	0.00	0.02
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた不燃ごみ	2.25	4.09	3.17
適正な分別(可燃ごみ)	90.43	87.25	88.84
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-1、表2-3、表2-5に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

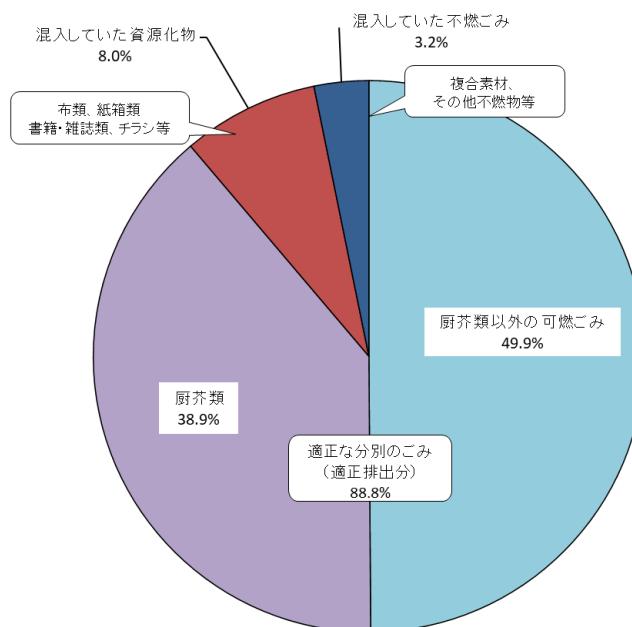


図3-1 可燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

区分	西部地域(%)	東部地域(%)	本市全域(%)
混入していた資源化物	15.24	19.94	17.46
飲料用紙パック(アルミ不使用)500 mL以上	0.02	0.00	0.01
ダンボール	0.04	0.00	0.02
新聞紙	0.00	0.00	0.00
チラシ	0.00	0.00	0.00
書籍・雑誌類	0.00	0.00	0.00
紙箱類	0.12	0.38	0.24
紙包装類	0.13	0.00	0.07
OA用紙	0.00	0.00	0.00
シュレッダーくず	0.00	0.00	0.00
その他の雑紙	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる布類	0.00	0.00	0.00
スチール缶	0.14	0.61	0.36
スプレー缶	2.18	0.51	1.39
アルミ缶	0.04	0.46	0.24
リターナブルびん	0.00	0.00	0.00
ワンウェイびん	0.00	3.29	1.55
小型家電製品	12.02	12.52	12.26
乾電池	0.42	1.54	0.95
ボタン電池	0.00	0.00	0.00
リチウム蓄電池	0.03	0.00	0.02
水銀入りの体温計・血压計	0.00	0.00	0.00
蛍光灯	0.04	0.62	0.32
リサイクルできるレジ袋	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる発泡スチロール	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる透明トレイ	0.00	0.00	0.00
リサイクルできるその他プラスチック容器包装	0.00	0.00	0.00
リサイクルできる容器包装以外のプラスチック	0.07	0.00	0.03
リサイクルできるペットボトル	0.00	0.00	0.00
混入していた可燃ごみ	13.30	12.14	12.76
適正な分別(不燃ごみ)	71.46	67.92	69.78
合計	100	100	100

※ 上表のデータは表2-7、表2-9、表2-11に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

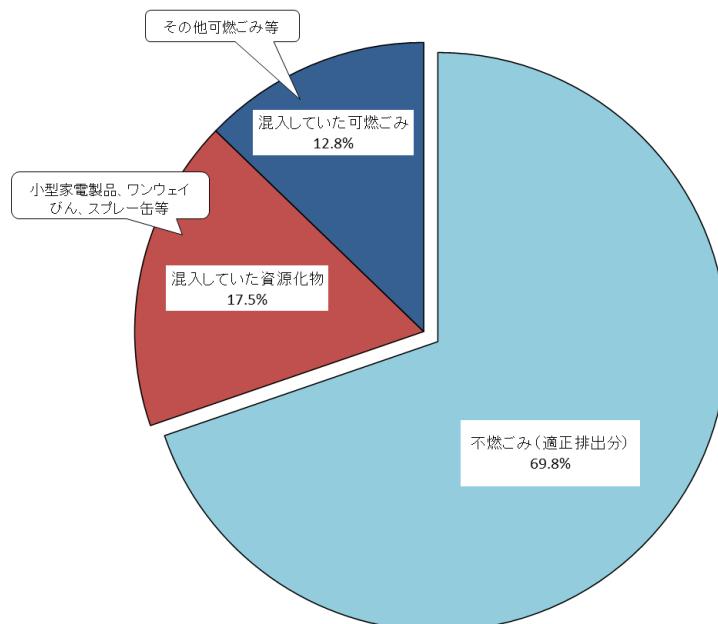


図3-2 不燃ごみへの区分以外のごみの混入状況（重量比）

表3-3 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

区分	本市全域(%)
混入していた可燃物類	4.88
混入していた不燃物類	0.03
混入していたプラスチック類(分別回収対象外)	2.15
リサイクルできるペットボトル	0.87
リサイクルできないペットボトル	1.27
分別対象回収(プラスチック資源)	92.94
リサイクルできるレジ袋	0.00
リサイクルできないレジ袋	0.61
リサイクルできる発泡トレイ	4.20
リサイクルできない発泡トレイ	1.55
リサイクルできる発泡スチロール	0.68
リサイクルできない発泡スチロール	0.29
リサイクルできる透明トレイ	10.94
リサイクルできない透明トレイ	4.49
その他のプラ製容器包装でリサイクルできるもの	29.76
その他のプラ製容器包装でリサイクルできないもの	19.29
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできるもの	9.53
容器包装以外のプラスチック類でリサイクルできないもの	11.60
合計	100

※ 上表のデータは表2-13に示した各種データを採用している。

※ 記載されている数値を用いて計算した場合、数値の丸めにより計算結果が若干異なる場合がある。

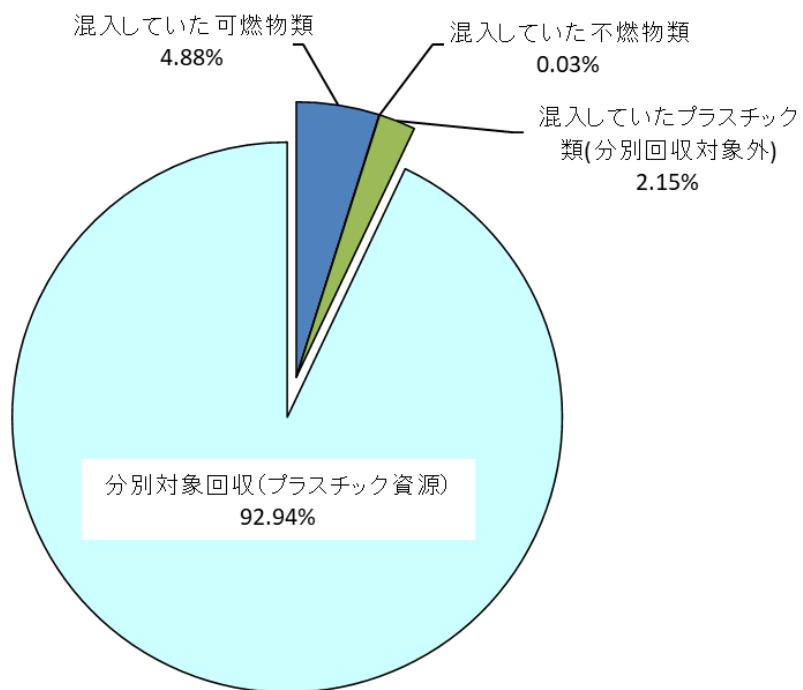


図3-3 プラスチック資源への区分以外の混入状況（重量比）

3 容器包装廃棄物の混入状況の把握

可燃ごみ及び不燃ごみに占める容器包装廃棄物の混入状況は、本市全域でみると、可燃ごみで約 13.9% (R6:12.2%)、不燃ごみで約 14.7% (R6:9.1%) であり、令和 6 年度と比較して増加していた。

可燃ごみについては紙箱類、ペットボトル、レジ袋など、不燃ごみについてはワンウェイびん、スチール缶など比較的容易に分別可能な品目も混入していることから今後も啓発を実施していく必要があると考えられる。

令和 6 年度より「プラスチック資源」の調査をしており、今回も容器包装プラスチック及び製品プラスチックの組成分析を実施した。

「プラスチック資源」が可燃ごみから適切に分別排出されたことで可燃ごみ及び不燃ごみに占める「プラスチック類・ゴム・皮革類」の構成比が下がった。一方、排出された「プラスチック資源」は容器包装プラスチック (70.2%) の内、約 25.3% はリサイクルできないもの、製品プラスチック (22.7%) の内、約 12.5% はリサイクルできないものという結果となった。(図 2-28 参照)

「プラスチック資源」におけるリサイクルの可否を分ける基準は汚れの付着の程度である。「プラスチック資源」分別回収にあたりより細やかな周知広報の必要性を示す結果となった。

4 再資源化及び減量化の可能性に関する検討

可燃ごみ及び不燃ごみに占める再資源化、減量化の可能性に関する状況としては、本市全域でみると、可燃ごみで約 44.6% (R6:45.9%) (図 2-49 参照)、不燃ごみで約 44.4% (R6:47.4%) (図 2-51 参照) という状況であった。

可燃ごみのうち再資源化が可能な項目としては「紙類」の構成比が高い状況であり、雑紙回収、リサイクル回収などを推進することにより本項目の構成比の上昇を抑制することができると考えられる。減量化が可能な項目としては「厨芥類」の構成比が高く、全体の約 36.5% を占めていた。本年度の調査においては昨年度と同様の傾向が確認されたことから、来年度においても確認していく必要がある。

不燃ごみについては、その他金属類、小型家電製品の構成比が高くなっている、適正分別に向けた啓発を継続していく必要がある。特に平成 26 年度から始めた小型家電製品の回収の利用に向けた啓発を推進していくことも必要である。

5 ごみ袋 1 袋当たりの投入量等に関する状況把握

ごみ袋 1 袋当たりに投入するごみの投入量としては、可燃ごみでは 45ℓ (大袋) が 4.6kg/袋、30ℓ (中袋) が 3.7kg/袋、20ℓ (小袋) が 2.8kg/袋、10ℓ (特小袋) が 1.7kg/袋、5ℓ (超特小袋) が 1.2kg/袋、不燃ごみでは 45ℓ (大袋) が 6.3kg/袋、30ℓ (中袋) が 5.1kg/袋、20ℓ (小袋) が 3.6kg/袋、10ℓ (特小袋) が 2.2kg/袋、5ℓ (超特小袋) が 1.5kg/袋という状況であった。

ごみ袋1袋当たりに投入するごみの投入容量としては、可燃ごみでは45ℓ(大袋)が56.8ℓ/袋、30ℓ(中袋)が35.9ℓ/袋、20ℓ(小袋)が24.7ℓ/袋、10ℓ(特小袋)が11.3ℓ/袋、5ℓ(超特小袋)が6.7ℓ/袋、不燃ごみでは45ℓ(大袋)が43.3ℓ/袋、30ℓ(中袋)が34.7ℓ/袋、20ℓ(小袋)が23.4ℓ/袋、10ℓ(特小袋)が10.5ℓ/袋、5ℓ(超特小袋)が6.2ℓ/袋という状況であった。

6 今後の課題

本市においては有料指定袋の導入、雑紙の分別開始、各種の支援制度の導入、適正分別の啓発等、ごみの減量化・資源化に係る施策を継続的に実施している。本年度の調査においても、これらの施策が浸透していきつつあることが確認できるが、項目によっては改善されていないものもあるため、適正分別に関する啓発を一層進めていく必要があると考えられる。

本市では令和6年3月から新たに「プラスチック資源」の分別回収がはじまった。

「プラスチック資源」におけるリサイクルの可否は汚れの除去の程度で決まるが、本調査では「プラスチック資源」として排出されたもののうち、容器包装プラスチック(70.2%)の約25.3%はリサイクルできないもの、製品プラスチック(22.7%)の約12.5%はリサイクルできないもので、汚れの除去が不十分でありリサイクルに不適という結果であった。

この結果を受けて、汚れの除去の程度がイメージしやすい周知広報が重要であると考える。

《ごみ組成分析調査の流れ 1》

	状況写真	概要					
収集段階		各ごみステーションから調査サンプルを収集する。					
調査実施場所へ搬入	  <table border="1"> <tr> <td>業務名: 岡山市家庭ごみ組成分析調査業務委託</td></tr> <tr> <td>地区名: 西部可燃(大窪地区)</td></tr> <tr> <td>状況: 調査検体(全体)</td></tr> <tr> <td>令和7年 10月 7日</td></tr> <tr> <td>日本エクスラン工業(株)</td></tr> </table>	業務名: 岡山市家庭ごみ組成分析調査業務委託	地区名: 西部可燃(大窪地区)	状況: 調査検体(全体)	令和7年 10月 7日	日本エクスラン工業(株)	調査実施場所へ搬入したサンプルを大小に分けて並べ、奇数番号のごみ袋を取り出し、調査検体とする。
業務名: 岡山市家庭ごみ組成分析調査業務委託							
地区名: 西部可燃(大窪地区)							
状況: 調査検体(全体)							
令和7年 10月 7日							
日本エクスラン工業(株)							

《ごみ組成分析調査の流れ2》

	状況写真	概要
分別作業段階		重量と容積を計量した調査検体を、表1-2に示した品目に分別する。
計量段階		分別した調査検体を、品目ごとに計量する。計量は、分別を行った全ての品目に対して実施している。
以上の作業を、西部地域及び東部地域の可燃ごみ、不燃ごみ、プラスチック資源に対して実施した。		